Nikon

ニコンデジタルカメラ

# D70

使用説明書

# D70の使用説明書について

ニコンデジタルカメラD70には次の使用説明書が付属しています。製品をご使用になる前に、これらの使用説明書をよくお読みになり、内容をご理解のうえ、正しくお使いください。

**クイックスタートガイド**

クイックスタートガイドは、D70での撮影・再生から、撮影した画像をパソコンに転送するまでの基本操作をステップごとに簡単に紹介しています。

**使用説明書**

使用説明書（本書）は、D70の操作方法と撮影した画像の楽しみ方について基本操作から応用操作へと順を追って詳しく説明しています。

**PictureProjectリファレンスマニュアル（CD-ROM）**

PictureProjectリファレンスマニュアルは、D70に付属しているCD-ROM内に収録されています。PictureProjectの内容については、PictureProjectリファレンスマニュアルおよびこの使用説明書の「接続」の章をご覧ください。

**商標説明**

# 使用説明書の構成

使用説明書の構成は次のとおりです。操作内容に合わせて次のステップにお進みください。

| 内容 | 章 |
| --- | --- |
| **ご使用になる前に**<br>この使用説明書の使用方法やカメラ各部の名称、撮影前の準備方法について説明しています。 | はじめに<br>各部の名称と機能<br>撮影前の準備 |
| **基本操作**<br>デジタルイメージプログラムでの撮影、再生方法について説明しています。 | 撮影の基本ステップ<br>基本的な再生<br>デジタルイメージプログラムについて |
| **撮影機能の詳細**<br>「撮影の基本ステップ」で説明されている撮影方法をマスターしたら、より高度な撮影を行ってみましょう。カメラの各機能を操作することにより、撮影者の意図を反映した撮影を行うことができます。 | 画質モードと画像サイズ<br>撮像感度<br>ホワイトバランス<br>仕上がり設定<br>撮影動作モード<br>フォーカス<br>測光・露出<br>スピードライト撮影<br>セルフタイマー撮影<br>リモコン撮影<br>ツーボタンリセット |
| 便利な再生機能について詳しく説明しています。 | 再生機能の詳細 |
| メニュー画面を使用して各種設定を行います。 | メニューガイド |
| カメラをパソコンやテレビに接続します。 | 接続 |
| カメラをプリンタに接続して直接プリントします。 | プリントする |
| カメラの手入れ方法や各種情報を記載しています。 | 付録 |

# 安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用し、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

| | |
|---|---|
| ⚠**危険** | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。 |
| ⚠**警告** | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 |
| ⚠**注意** | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。 |

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

## 絵表示の例

△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

## ⚠ 警告（カメラについて）

分解禁止

**分解したり修理・改造をしないこと**

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに修理依頼を

**落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと**

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電池、電源を抜いて、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターに修理を依頼してください。

## ⚠ 警告（カメラについて）

電池を取る
すぐに修理依頼を

**熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと**

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに充分注意してください。
電池を抜いて、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

**水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと**

発火したり感電の原因となります。

使用禁止

**引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと**

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

使用禁止

**レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと**

失明や視力障害の原因となります。

発光禁止

**車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと**

事故の原因となります。

発光禁止

**スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと**

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

**幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと**

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

**ストラップが首に巻き付かないようにすること**
**特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと**

首に巻き付いて窒息の原因となります。

使用禁止

**AC アダプタ使用時に雷が鳴り出したら、電源プラグに触れないこと**

感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告

**指定の電池または専用 AC アダプタを使用すること**

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

## ⚠ 注意（カメラについて）

感電注意

**ぬれた手でさわらないこと**

感電の原因になることがあります。

保管注意

**製品は幼児の手の届かないところに置くこと**

ケガの原因になることがあります。

保管注意

**使用しないときは、レンズにキャップを付けるか、太陽光のあたらない所に保管すること**

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動注意

**三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと**

転倒したりぶつけたりして、ケガの原因となることがあります。

使用注意

**飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと**

本機器が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。
病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

**長期間使用しないときは電源（電池や AC アダプタ）を外すこと**

電池の液もれにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

プラグを抜く

AC アダプタで使用されている場合には、AC アダプタを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

禁止

**本機器や AC アダプタは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと**

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

**窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないこと**

内部の部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

禁止

**同梱の CD-ROM を音楽用 CD プレーヤーで使用しないこと**

機器に損傷を与えたり大きな音がして聴力に悪影響を及ぼす場合があります。

## ⚠ 危険（リチウム電池について）

危険

**電池からもれた液が目に入った時はすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること**

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

## ⚠ 警告（リチウム電池について）

禁止

**電池を火に入れたり、加熱しないこと**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

**電池をショート、分解しないこと**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

**電池に表示された警告・注意を守ること**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

**使用説明書に表示された電池を使用すること**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

**新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使用しないこと**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

**水につけたり、ぬらさないこと**

液もれ、発熱の原因となります。

保管注意

**電池は幼児の手の届かない所に置くこと**

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

**電池の「＋」と「－」の向きをまちがえないようにすること**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

禁止

**充電式電池以外は充電しないこと**

液もれ、発熱の原因となります。

警告

**電池を廃棄する時はテープなどで接点部を絶縁すること**

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

警告

**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと**

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

## ⚠ 危険（専用リチウムイオン充電池について）

禁止

**電池を火に入れたり、加熱しないこと**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

**電池をショート、分解しないこと**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

**専用の充電器を使用すること**

液もれ、発熱、破裂の原因となります。

危険

**ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり、保管しないこと**

ショートして液もれ、発熱、破裂の原因となります。
持ち運ぶときは端子カバーをつけてください。

使用禁止

**Li-ion リチャージャブルバッテリー EN-EL3 は、D70 に対応しています。EN-EL3 に対応していない機器には使用しないこと**

液もれ、発熱の原因となります。

危険

**電池からもれた液が目に入ったときはすぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること**

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

## ⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

保管注意

**電池は幼児の手の届かない所に置くこと**

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

水かけ禁止

**水につけたり、ぬらさないこと**

液もれ、発熱の原因となります。

警告

**変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは、使用しないこと**

液もれ、発熱の原因となります。

警告

**充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること**

液もれ、発熱の原因となります。

## ⚠ 警告（専用リチウムイオン充電池について）

**電池をリサイクルするときや、やむなく廃棄するときはテープなどで接点部を絶縁すること**

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターやリサイクル協力店へご持参くださるか、お住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。

**電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときはすぐにきれいな水で洗うこと**

そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因になります。

## ⚠ 注意（専用リチウムイオン充電池について）

**電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないこと**

液もれ、発熱、破裂の原因となることがあります。

## ご確認ください

### ●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

### ●保証書とカスタマ登録カードについて

この製品には「保証書」と「カスタマ登録カード」が付いていますのでご確認ください。「保証書」は、お買い上げの際、ご購入店からお客様へ直接お渡しすることになっております。「ご愛用者氏名」および「住所」「ご購入年月日」「ご購入店」がすべて記入された保証書を必ずお受け取りください。「保証書」をお受け取りになりませんと、ご購入 1 年以内の保証修理が受けられないことになります。もし、お受け取りにならなかった場合は、ただちに購入店にご請求ください。

- カスタマ登録は下記のホームページからも登録できます。

http://reg.nikon-image.com

### ●大切な撮影を行う前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）を行う前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能するかを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および利益喪失等に関する損害等）についての補償はご容赦願います。

### ●著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の対象となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

### ●あらかじめご承知いただきたいこと

- この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、堅くお断りいたします。
- 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

### ● Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0 について

D70 は、Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0 に準拠しています。DCF Version 2.0 は、各社のデジタルカメラで記録された画像ファイルを相互に利用し合うための記録形式です。

### ● Exif ※ Version 2.21 について

D70 は、Exif Version 2.21 に対応しています。Exif Version 2.21 は、デジタルカメラとプリンタの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.21 対応のプリンタを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンタが最適なプリント出力を提供することができます。プリンタの使用説明書を読んでご使用ください。

※ Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras

### ● PictBridge について

PictBridge とは、デジタルカメラとプリンタメーカーの各社が相互接続を保証するもので、デジタルカメラの画像をパソコンを介さずプリンタで直接印刷するための標準規格です。

## ●本製品を安心してご使用いただくために

**本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、AC アダプタなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでご使用ください。**

- 模倣品の Li-ion リチャージャブルバッテリーを使用されますと、カメラの充分な性能が出せないことやバッテリーの異常な発熱や液もれ、破裂、発火などの原因となります。
- 他社製品および模倣品と組み合わせて使用することにより、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

## ●デジタルカメラの特性について

きわめて希なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、カメラの電源スイッチを OFF にしてバッテリーを入れ直し、再度電源スイッチを ON にしてカメラを作動させてください。その際、カメラを長時間使用していますとバッテリーが熱くなっていることがありますので、取り扱いには充分にご注意ください。AC アダプタをご使用時は、いったんカメラから取り外して再度カメラに取り付け、電源スイッチを ON にしてカメラを作動させてください。この操作を行っても状態が改善されない場合は、右の図にあるリセットスイッチを押してください。この時カメラ内蔵の時計はリセットされますので、「日付と時刻を設定する」（P.16）に従って、日時を正しく設定してください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態の時のデータは、失われるおそれがあります。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、本書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにお問い合わせください。

## ●撮像素子表面ゴミ付着について

ニコンデジタルカメラは撮像素子表面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づき製造および出荷しています。しかし、D70 はレンズ交換方式のため、レンズを交換の際、カメラ内にゴミやホコリ等が入り込むことがあり、入ったゴミやホコリが撮像素子表面に付着した結果、撮影された条件によっては画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミやホコリの侵入を防止するため、ホコリの多い場所でのレンズ交換は避けるようにしてください。レンズを外してカメラを保管するときは、付属のボディキャップを必ず装着するようお願いいたします。その際、ボディキャップのゴミやホコリの除去も必ず行うようにしてください。撮像素子表面に付着したゴミは、「カメラのお手入れについて」（P.239）にしたがってクリーニングしていただくか、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。なお、撮像素子表面に付着したゴミの写り込みは、Nikon Capture 4（Ver.4.1 以降、別売）や画像加工アプリケーションなどを使って修正することが可能です。

## ●バリブライト・フォーカスエリア／マルチディスプレイ・スクリーンについて

ニコンデジタルカメラ D70 は**バリブライト・フォーカスエリア**を装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合はフォーカスフレームを瞬間的に赤く表示しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらに構図用の格子線を表示させる**マルチディスプレイ・スクリーン**も装備しています。これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側にのびる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

## ●高温・低温下での液晶表示について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。一方、バリブライト・フォーカスエリアとマルチディスプレイ・スクリーンに使用されている液晶表示は、高温下では薄く、低温下では濃くなって液晶の応答速度が遅くなる特性がありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

# 目次

使用説明書の構成 ........ i
安全上のご注意 ........ ii
ご確認ください ........ viii

ご使用になる前に ........ 1
はじめに ........ 2
本文中のマークについて ........ 2
コンパクトフラッシュカードの表記について ........ 2
「初期設定」について ........ 2
各部の名称と機能 ........ 3
カメラ本体 ........ 3
表示パネル ........ 6
ファインダー ........ 8
撮影モードダイヤルについて ........ 10
マルチセレクターの使い方 ........ 12
撮影前の準備 ........ 13
ストラップを取り付ける ........ 13
バッテリーを入れる ........ 14
日付と時刻を設定する ........ 16
レンズを取り付ける ........ 18
CFカードを入れる ........ 20

基本操作 ........ 23
撮影の基本ステップ ........ 24
ステップ1：撮影モードダイヤルを AUTO（オート）にセットする ........ 24
ステップ2：バッテリーの残量と撮影可能コマ数を確認する ........ 24
ステップ3：撮影に関する設定をする ........ 26
ステップ4：構図を決める ........ 27
ステップ5：ピントを合わせる ........ 28
ステップ6：撮影する ........ 30
基本的な再生 ........ 31
デジタルイメージプログラムについて ........ 32

撮影機能の詳細 ........ 37
メニューの使い方 ........ 41
画質モードと画像サイズ ........ 43
画質モード ........ 43
画像サイズ ........ 45
撮像感度 ........ 48
ホワイトバランス ........ 50
ホワイトバランスの微調整 ........ 54
プリセットホワイトバランス ........ 57
仕上がり設定 ........ 64
仕上がり設定のカスタマイズ ........ 66

撮影動作モード.....72
フォーカス.....74
フォーカスモード.....74
フォーカスエリアの選択.....76
オートフォーカス.....78
マニュアルフォーカス.....84
測光・露出.....86
測光モード.....86
露出モード.....88
AEロック撮影.....98
露出補正.....101
オートブラケティング.....103
スピードライト撮影.....112
内蔵スピードライトについて.....112
内蔵スピードライトを使用した撮影.....114
シンクロモードの種類と特長.....118
調光補正.....125
FVロック.....126
セルフタイマー撮影.....128
リモコン撮影.....130
ツーボタンリセット.....135
再生機能の詳細.....137
1コマ再生表示.....138
画像情報の表示.....140
サムネイル表示.....142
拡大表示.....144
画像のプロテクト.....145
画像の削除.....146
メニューガイド.....147
再生メニュー.....148
削除.....148
再生フォルダ設定.....151
縦位置自動回転.....152
スライドショー.....153
非表示設定.....155
プリント指定.....157
撮影メニュー.....160
仕上がり設定.....160
ノイズ除去.....161
画質モード.....162
画像サイズ.....162
ホワイトバランス.....162
ISO設定.....162

カスタムメニュー........................163
SETUP メニュー........................187
フォルダ設定........................188
連番モード........................192
カードフォーマット........................193
カスタムメニュー表示........................194
日時設定........................194
画面の明るさ........................195
クリーニングミラーアップ........................195
ビデオ出力........................196
言語（LANG）........................196
画像コメント........................197
USB 設定........................199
ダストオフデータ取得........................200
ファームウェアバージョン........................203
姿勢情報記録........................203
接続........................205
テレビで再生する........................206
パソコンに接続する........................208
カメラをパソコンに接続する前に........................208
USB ケーブルで接続する........................210
プリントする........................213
カメラとプリンタを接続する........................214
プリントする........................216
付録........................223
操作可能な機能について........................224
別売アクセサリー........................226
装着可能なレンズおよび使用可能な機能........................226
装着可能な別売スピードライト........................229
その他の別売アクセサリー........................235
カメラのお手入れについて........................238
保管について........................238
クリーニングについて........................238
カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意........................242
カメラの取り扱い上のご注意........................242
バッテリーの取り扱いについて........................243
故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）........................244
主な仕様........................249
索引........................255
アフターサービスについて........................259

# ご使用になる前に

この章は次の３部で構成されています。

**はじめに (P.2)**

この使用説明書で使用しているマークについて説明しています。

**各部の名称と機能 (P.3～12)**

D70の各部の名称について説明しています。

**撮影前の準備 (P.13～22)**

バッテリーやコンパクトフラッシュカードの入れ方、ストラップやレンズの取り付け方、日時の設定方法など、このカメラをはじめてご使用になる前に、準備する内容を説明しています。

# はじめに

ニコンデジタルカメラD70をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この使用説明書はレンズ交換式一眼レフデジタルカメラD70で撮影をお楽しみになるために必要な情報を記載しています。ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みの上、内容を充分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

## 本文中のマークについて

この使用説明書は、次の記号を使用しています。必要な情報を探すときにご活用ください。

カメラの故障を防ぐために、使用前に注意していただきたいことや守っていただきたいことを記載しています。

カメラを使用する場合に、便利な情報を記載しています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことを記載しています。

関連情報を記載した参照ページを記載しています。

液晶モニタに表示されるメニュー画面で各種設定が変更できます。記号の横にメニュー名を記載しています。

CSM カスタムセッティングで各種設定が変更できます。記号の横にある数字は、カスタムセッティングの項目番号です。

## コンパクトフラッシュカードの表記について

この使用説明書では、コンパクトフラッシュカードをCFカードと表記しています。

## 「初期設定」について

この使用説明書では、カメラご購入時に設定されている機能やメニューの設定状態を「初期設定」と表記しています。

### カスタマーサポート

下記アドレスのホームページで、サポート情報をご案内しています。

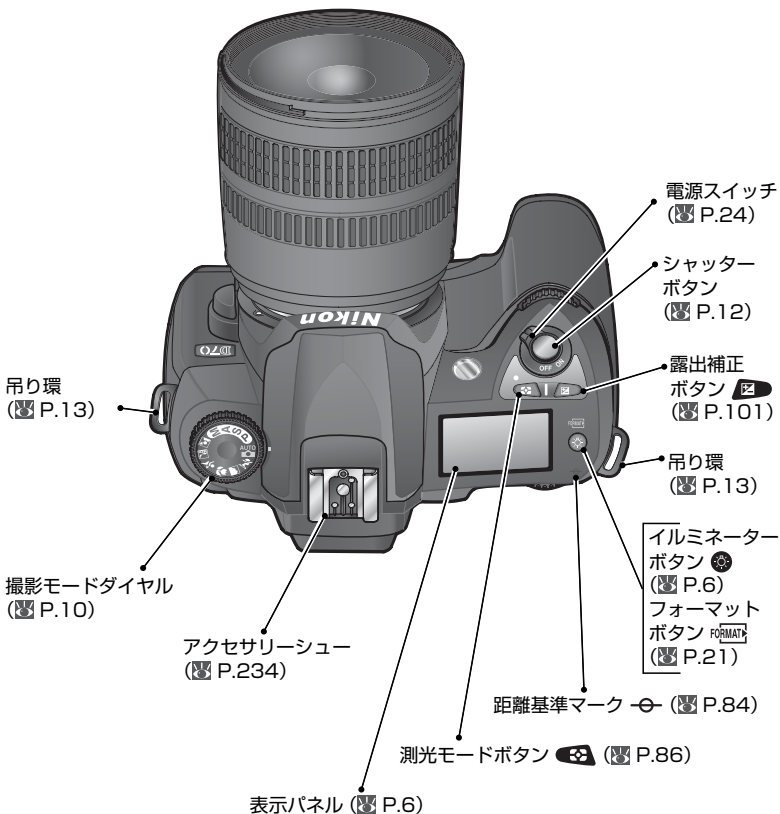
http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

# 各部の名称と機能

カメラ本体の名称や機能について紹介します。詳しい説明は各部に記載されているページをご参照ください。



## カメラ本体

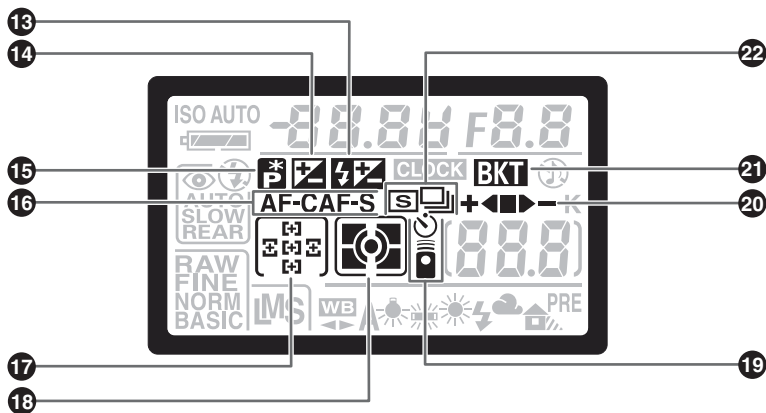
## カメラ本体（つづき）

内蔵スピードライト
（P.112）
スピードライトロック解除ボタン
（P.114）
シンクロモードボタン
（P.118）
調光補正ボタン
（P.125）
セルフタイマーランプ
（P.128、130）
AF補助光ランプ
（P.82）
赤目軽減ランプ
（P.118）
リモコン受光部
（P.130）
ビデオ出力端子／
DC入力端子カバー
（P.206）
レンズ取り外しボタン
（P.19）
フォーカスモードセレクトダイヤル
（P.74）
USB端子カバー
（P.210、214）
サブコマンドダイヤル
（P.177）
三脚ネジ穴
プレビューボタン
（P.88）
バッテリーカバー
（P.14）
バッテリーカバー開閉ノブ
（P.14）
リセットスイッチ
（ix）
Nikon
D70

接眼目当て
( P.27)
ファインダー接眼窓
( P.8、27)
視度調節レバー
( P.27)
撮影動作モードボタン
( P.72)
フォーマットボタン FORMAT
( P.21)
AE/AFロックボタン
( P.80、98)
マルチセレクター
( P.12)
オートブラケティングボタン BKT
( P.104、109)
メインコマンドダイヤル
( P.177)
再生ボタン
( P.138)
メニューボタン MENU
( P.41)
感度ボタン (ISO)
( P.48)
サムネイルボタン
( P.142)
ホワイトバランスボタン
(WB)
( P.50)
プロテクトボタン
( P.145)
ヘルプボタン
( P.164)
画質モードボタン
(QUAL)
( P.43)
拡大再生ボタン
( P.144)
実行ボタン ENTER
( P.42)
液晶モニタ
( P.13、238)
削除ボタン
( P.146)
フォーカスエリアロックスイッチ
( P.76)
CFカードカバー
( P.20)
CFカードカバー開閉ノブ
( P.20)
CFカードアクセスランプ
( P.30)
BKT
AE-L
AF-L
FORMAT
MENU
ISO
WB
QUAL
ENTER
L
Nikon

## 表示パネル

| | | |
|---|---|---|
| 1 | シャッタースピード | P.88 |
| | 露出補正値 | P.101 |
| | 調光補正値 | P.125 |
| | ホワイトバランス微調整量 | P.54 |
| | オートブラケティングコマ数 | P.103 |
| 2 | 撮像感度マーク | P.48 |
| | 感度自動制御設定マーク | P.171 |
| 3 | バッテリーチェック表示 | P.24 |
| 4 | シンクロモード表示 | P.118 |
| 5 | 画質モード | P.43 |
| 6 | 画像サイズ | P.45 |
| 7 | ホワイトバランスモード表示 | P.50 |
| 8 | 撮影可能コマ数 | P.47 |
| | 連続撮影可能コマ数 | P.72 |
| | ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示 | P.58 |
| | PCカメラモード表示 | P.210 |
| 9 | 1000コマ以上補助表示 | P.22 |
| 10 | 電子音マーク | P.166 |
| 11 | 絞り値 | P.88 |
| | オートブラケティング補正値 | P.103 |
| | PCモード表示 | P.210 |
| 12 | クロックマーク | P.17 |

### イルミネーター

イルミネーターを点灯させると、暗いところで表示パネルが確認しやすくなります。イルミネーターボタン ☼ (P.3) を押すと、表示パネルが照明されます。

13 調光補正マーク........................P.125

14 露出補正マーク........................P.101

15 プログラムシフトマーク ..........P.89

16 AFモード表示..........................P.167

17 フォーカスエリア表示..............P.76
AFエリアモード.....................P.168

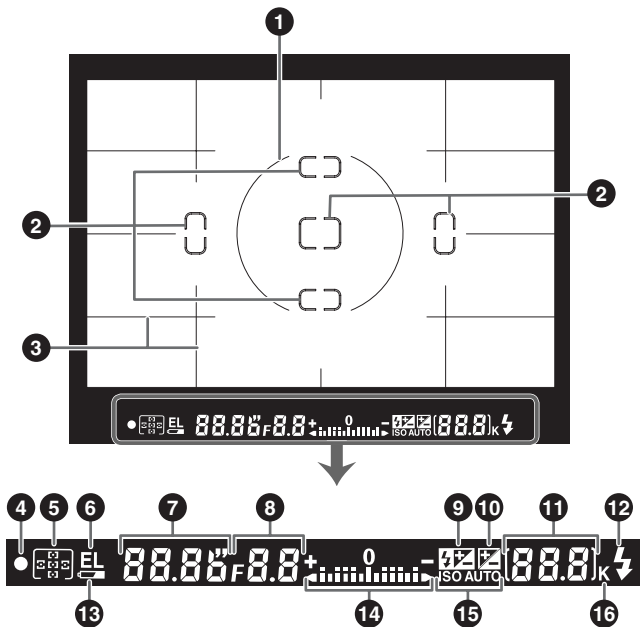
18 測光モード表示..........................P.86

19 セルフタイマーモード表示 ...P.128
リモコンモード表示...............P.130

20 オートブラケティングバーグラフ
...............................................P.103

21 オートブラケティングマーク
...............................................P.103

22 撮影動作モード表示..................P.72

## ファインダー

### バリブライト・フォーカスエリア／マルチディスプレイ・スクリーンについて

このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、バリブライト・フォーカスエリアを装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合はフォーカスフレームを瞬間的に赤く表示しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらにカスタムセッティング8「**格子線表示**」(P.174) を「**ON**」に設定することにより、構図用の格子線を表示させるマルチディスプレイ・スクリーンも装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してあおり撮影などを行うときに便利です。

※ これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスフレームを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

1 中央部重点測光参照エリアφ8mm ......P.86
2 フォーカスエリア（フレーム）表示 ......P.76
スポット測光エリア ......P.86
3 構図用格子線 ......P.174
（カスタムセッティング8「**格子線表示**」を「**ON**」に設定している場合のみに表示されます。）
4 ピント表示 ......P.28
5 フォーカスエリア表示 ......P.76
AFエリアモード ......P.168
6 AEロックマーク ......P.98
FVロックマーク ......P.126
7 シャッタースピード ......P.88
8 絞り値 ......P.88
9 調光補正マーク ......P.125
10 露出補正マーク ......P.101
11 撮影可能コマ数 ......P.47
連続撮影可能コマ数 ......P.73
ホワイトバランスプリセットデータ取得モード表示 ......P.58
露出補正値 ......P.101
調光補正値 ......P.125
PCモード表示 ......P.210
12 レディライト.....P.88、114、117
13 バッテリーチェック表示 ......P.24
14 露出インジケータ ......P.95
露出補正インジケータ ......P.101
15 感度自動制御設定マーク ......P.171
16 1000コマ以上補助表示 ......P.22

## 高温・低温下での液晶表示について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。一方、バリブライト・フォーカスエリアとマルチディスプレイ・スクリーンに使用されている液晶表示は、高温下では薄く、低温下では濃くなって液晶の応答速度が遅くなる特性がありますが、いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

## ファインダーについてのご注意

カメラにバッテリーが入っていない、あるいはバッテリー残量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなり、像がはっきりと見えませんが、故障ではありません。新しいバッテリーを入れると明るくなります。

## 撮影モードダイヤルについて

このカメラの撮影モードダイヤルでは、カメラまかせの撮影が行えるデジタルイメージプログラムと、マルチプログラムオートからマニュアルまで撮影者がいろいろ工夫できる通常の露出モードが選択できます。撮影したいシーンに合わせて撮影モードダイヤルをセットするだけで、思いどおりの様々な撮影が簡単に楽しめます。

### *デジタルイメージプログラム*

撮影状況に合わせたモードを選択するだけで、各種設定が最適な状態にセットされますので、イメージに合わせた撮影を簡単に行うことができます。

**AUTO：オート** (P.32)

撮影状況に合わせて、各種設定をカメラが自動的にコントロールしますので、カメラまかせで気軽に簡単に撮影することができます。デジタル一眼レフカメラを初めてお使いになる方におすすめのモードです。

**：ポートレート** (P.32)

背景をぼかし、人物を強調させたポートレート写真を撮影したいとき。

**：風景** (P.33)

シャープな風景写真を撮影したいとき。

**：クローズアップ** (P.33)

草花や昆虫などのクローズアップ写真を撮影したいとき。

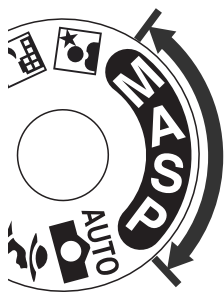
**：スポーツ** (P.34)

一瞬の動きをとらえたスポーツ写真を撮影したいとき。

**：夜景** (P.34)

きれいな夜景を撮影したいとき。

**：夜景ポートレート** (P.35)

夜景や雰囲気のある夕景をバックに、人物を撮影したいとき。

### *露出モード*

露出のほか、スピードライトの発光や各種メニューなど、さまざまな設定を撮影者自身がコントロールすることができます。

**P：マルチプログラムオート（P.88）**

シャッタースピードも絞りもカメラまかせで撮影したいとき。さらに、プログラムシフト（P.89）や露出補正（P.101）で撮影者の意図も反映できます。

**S：シャッター優先オート（P.91）**

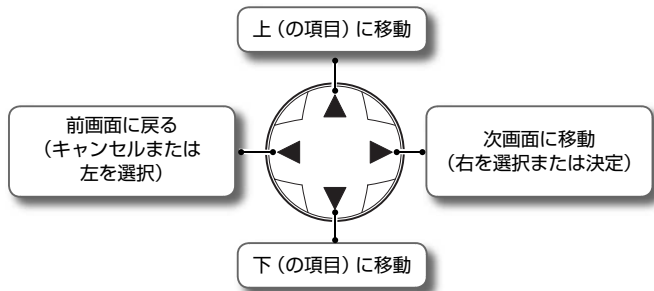
好みのシャッタースピードを使って、動きのある被写体の一瞬をとらえたり、流動感を表現したいとき。

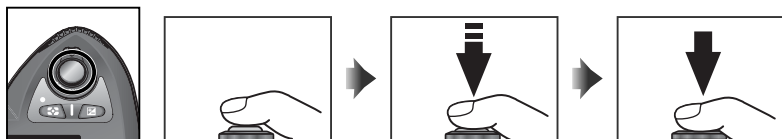
**A：絞り優先オート（P.93）**

好みの絞りを使って、背景をぼかした美しいポートレート写真を撮ったり、奥行きのある風景を鮮明に撮影したいとき。

**M：マニュアル（P.95）**

シャッタースピードも絞りも撮影者自身がセットして、個性的な映像表現を行いたいとき。

## マルチセレクターの使い方

## シャッターボタンの半押しについて

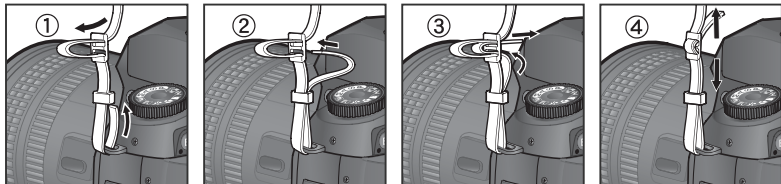
シャッターボタンを軽く押して、途中で止める動作を「シャッターボタンを半押しする」といいます。シャッターボタンを半押しすると、ピントと露出が決まり、半押しした状態からさらに深く押し込むと、シャッターがきれます。

### マルチセレクターの操作について

通常、メニューの決定はマルチセレクターの▶のほか、実行ボタン ENTER でも行えます。上記マルチセレクターの操作は基本的な操作例です。場合によっては操作方法が異なる場合があります。

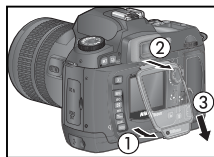
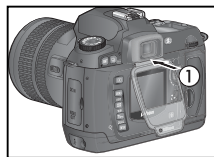
### 半押しタイマーについて

シャッターボタンを半押しすると、半押しタイマーが作動して、指を離してから約6秒間（初期設定）、シャッタースピードと絞り値が表示パネルに表示され、ファインダー内表示が点灯します。半押しタイマーが終了すると、これらの表示が消灯し、省電力の待機状態になります。

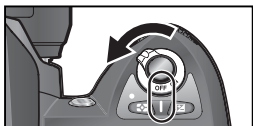
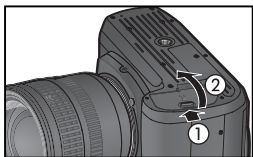
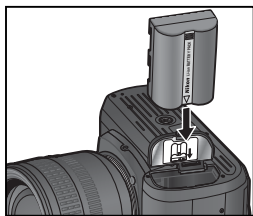
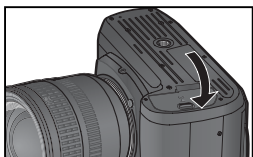
## ストラップを取り付ける

ストラップは下図のように取り付けます。カメラボディの2箇所ある吊り環に、確実に取り付けてください。

### LCDモニタカバー BM-4

D70の液晶モニタには、透明なプラスチック製のLCDモニタカバー（以下、モニタカバー）が付属しています。カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、液晶モニタの汚れや破損を防ぐため、モニタカバーを取り付けてください。

モニタカバーを取り外す場合は、カメラをしっかりと支え、右図のようにモニタカバーの下からゆっくりと外します（①）。モニタカバーを液晶モニタから少し離し（②）、斜め下の方向に引いてください（③）。取り外すときにモニタカバーの下部を持ち上げすぎないようにご注意ください。

モニタカバーを装着する場合は、液晶モニタ部の上にある溝にモニタカバーの上部をはめ込み（①）、モニタカバーの透明な部分が液晶モニタと重なるように置き、カチッと音がするまで上から軽く押してください。（②）。

## バッテリーを入れる

このカメラのバッテリーには、付属のLi-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3を使用します。

- はじめてご使用になるときやバッテリーの残量が少なくなったときは、付属の専用バッテリーチャージャー MH-18でフル充電してからご使用ください。充電方法はMH-18の使用説明書をご覧ください。
- 残量のない状態のバッテリーを充電する場合、約2時間で充電が完了します。

1 カメラの電源スイッチをOFFにする
- バッテリーの挿入・取り出しを行うときは、必ずカメラの電源スイッチをOFFにしてください。

2 バッテリーカバーを開ける
- バッテリーカバー開閉ノブを ⊋ 側へ押して (①)、バッテリーカバーを開けます (②)。

3 バッテリーを入れる
- バッテリーは左のイラストで示されている向きで入れてください。

4 バッテリーカバーを閉じる
- バッテリーカバーを確実に閉じてください。
- カメラの操作中にバッテリーが外れないように、バッテリーカバー開閉ノブがしっかりとロックされていることをご確認ください。

## バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの取り扱いについては、「バッテリーの取り扱いについて」(P.243) をご覧ください。

## バッテリーを取り出すには

バッテリーをカメラから取り出す場合は、電源スイッチをOFFにし、バッテリーカバー開閉ノブを へ押してバッテリーカバーを開け、バッテリーを取り出してください。バッテリーを取り出した場合は、端子間のショートを防止するため、付属の端子カバーを装着してください。

## CR2ホルダMS-D70ご使用時の注意

MS-D70は、予備のバッテリー（CR2型リチウム電池）を使用するためのホルダです。ただし、使用可能な温度環境に制限がありますので、下記の「CR2型リチウム電池を使用する場合のご注意」をよくお読みの上、ご使用ください。

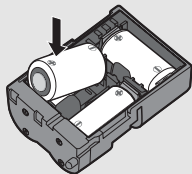
### CR2型リチウム電池を使用する場合のご注意

**CR2型リチウム電池をご使用になる場合は次の点にご注意ください。**

- 周囲の温度が20℃よりも低い環境で使用すると、撮影できるコマ数が極端に減少する場合があります。
- 次のCR2型リチウム電池が動作確認されております：

| | |
|---|---|
| SANYO　CR2型リチウム電池 | 東芝　CR2型リチウム電池 |
| Maxell　CR2型リチウム電池 | エナジャイザー　CR2型リチウム電池 |

  動作確認済みCR2型リチウム電池の使用推奨期間内であっても、保管状態によっては撮影できるコマ数が減少したり、使用できない場合があります。
- CR2型リチウム電池の電極や、MS-D70の端子部が皮脂などで汚れている場合、撮影できるコマ数が減少する場合がありますので、CR2型リチウム電池の電極や、MS-D70の端子部を乾いた布で拭いてからご使用ください。

- CR2型リチウム電池は充電することができません。
- 付属のCR2ホルダMS-D70に、CR2型リチウム電池3本をセットします。

## 日付と時刻を設定する

撮影するすべての画像には撮影日時が記録されます。ご購入後はじめて電源をONにすると日時設定画面が表示されますので、次の手順で日時を設定してください。

1

ご購入後、はじめて電源をONにすると、日時設定画面が表示されます。

2

日時設定
設定 ENTER 決定
年 月 日
2004 . 01 . 01
時 分 秒
00 : 00 : 00

この状態では「年」の数値が選択されています。マルチセレクターの▲または▼で「年」の数値を合わせます。

3

マルチセレクターの▶を押すごとに、「月」「日」「時」「分」「秒」の選択が順番に切り替わります。それぞれの項目について、マルチセレクターの▲または▼で数値を合わせます。

4

日時の設定が終わったら、実行ボタン ENTER を押して、日付と時刻を確定します。同時に日時設定画面が終了し、液晶モニタが消灯します。

## 日時設定について

日時の設定をキャンセルした場合（実行ボタン ENTER を押さなかった場合）には、次に電源をONにしたときに、再度、日時設定画面が表示されます。また、ENTER を押して日時の設定が完了するまでは、表示パネルにクロックマーク CLOCK が点滅し、撮影や他の設定をすることはできません。

## 時計用電池について

カメラの内蔵時計は、Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3やCR2型リチウム電池とは別の、カメラに内蔵されている時計用電池で作動します。カメラに残量のあるバッテリーを入れるか、ACアダプタEH-5（別売）を使用して家庭用電源に接続すると、時計用電池の充電が開始されます。この状態で約3日間継続すると、カメラのバッテリーを取り出したり、ACアダプタをはずしても記憶された日時は約1ヶ月間保持されます。表示パネルにクロックマーク CLOCK が点滅した場合、カメラ動作には支障がありませんが、日時は正しく記録されません（クロックマーク CLOCK が点滅中は、「2004.01.01 00:00:00」からカウントされた日時となります）。その場合は、日時の設定を正しく行ってください。

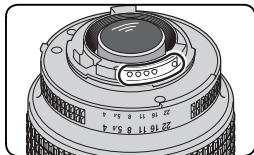
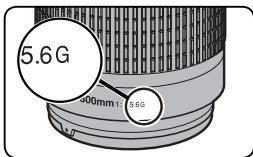
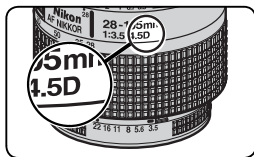
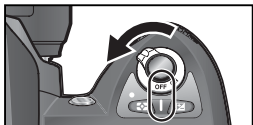
## カメラ内蔵の時計について

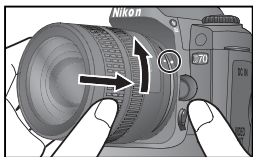
カメラの内蔵時計は一般的な時計（腕時計など）ほど精度は良くありません。定期的に日時設定を行うことをおすすめします。

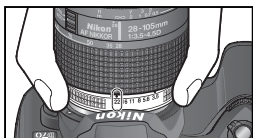
## 日時設定（P.194）

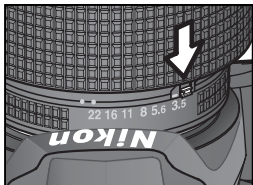
カメラの日時は、SETUPメニューの「**日時設定**」で設定しなおすことができます。

## レンズを取り付ける

カメラの機能を充分に活用するためには、GまたはDタイプのCPUレンズの使用をおすすめします。

CPUレンズには信号接点があります。

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

**1** カメラの電源スイッチをOFFにする

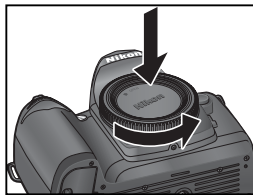
- レンズの取り付け・取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてください。

**2** レンズをカメラに取り付ける

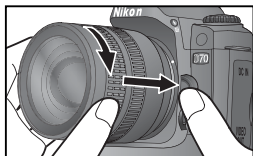
- レンズの着脱指標とカメラの着脱指標を合わせ、時計と反対回りにカチッと音がするまでレンズを回します。
- レンズ取り外しボタンは押さないでください。

**3** 絞りリングを最小絞りにセットする（Gタイプ以外のCPUレンズの場合）

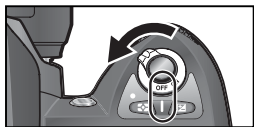
- 絞りリングを最小絞り（最大値）にセットして、ロックします。
- CPUレンズでは最小絞りにセットされていない場合、カメラの電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示に FE E が点滅し、撮影することができません。
- 絞りリングのないGタイプレンズを使用する場合、最小絞りにセットする必要はありません。

## レンズの取り付け・取り外しを行うときのご注意

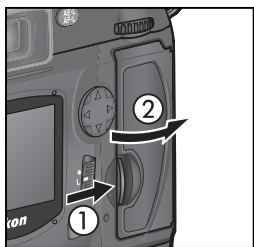
ボディキャップやレンズの取り付け、取り外しをする場合は、カメラ内部にゴミや異物が入らないように、カメラのレンズ装着部を下向きにしてください。ゴミや異物が入ると、画像に悪影響を及ぼす恐れがあります。

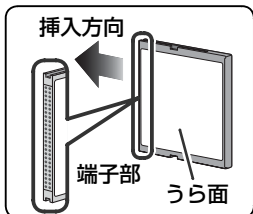
## カメラからレンズを外しておくときは

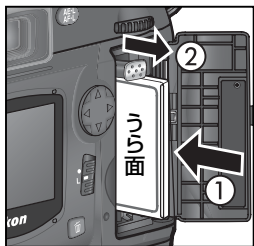
カメラからレンズをはずしておくときは、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぐため、付属のボディキャップを装着してカメラ内部を保護してください。

## レンズを取り外すには

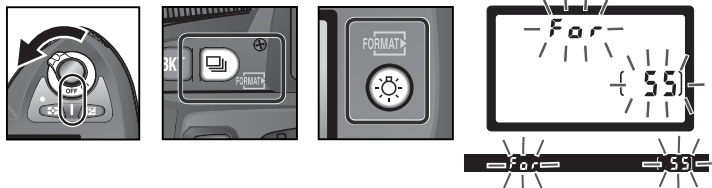
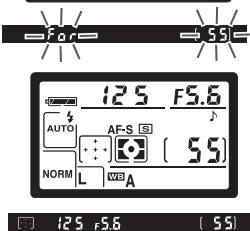
レンズを取り外すには、カメラの電源スイッチをOFFにして、レンズ取り外しボタンを押しながら時計回りにレンズを回します。

## CFカードを入れる

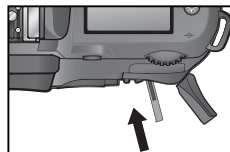
このカメラは、CFカードに画像を記録します。ここではCFカードの挿入、フォーマットの手順について説明します。使用可能なCFカードについては、「付録一別売アクセサリー」の推奨CFカード一覧（P.237）をご確認ください。

**1** カメラの電源スイッチをOFFにする

- CFカードの挿入・取り出しを行うときは、必ずカメラの電源スイッチをOFFにしてください。

**2** CFカードカバーを開ける

- CFカードカバー開閉ノブを右に押して（①）、CFカードカバーを開けます（②）。

**3** CFカードを入れる

- CFカードは左図のような挿入方向でCFカードスロットの中に入れます。
- **向きを間違えて挿入すると、カメラおよびCFカードが破損するおそれがあります**。正しい方向で挿入しているか、再度ご確認ください。
- CFカードのうら面を液晶モニタ側に向け、奥まで確実に押し込んでください（①）。正常に挿入されるとCFカードイジェクトレバーが出てきて、CFカードアクセスランプ（緑色）が点灯します（②）。
- 挿入後、CFカードカバーを閉めます。

## 4 CFカードをフォーマットする

- CFカードを使用するには、フォーマットする必要があります。
- フォーマットするには、カメラの電源スイッチをONにして、2つの FORMAT ボタン（撮影動作モードボタン とイルミネーターボタン ）を同時に約2秒以上押します。
- 表示パネルとファインダー内表示に For（フォーマット）という文字が点滅したら、再度2つの FORMAT ボタンを押します。CFカードのフォーマットが始まります。

- フォーマットが完了すると、表示パネルとファインダー内の撮影可能コマ数表示部に撮影可能コマ数が表示されます。
- For（フォーマット）表示が点滅しているときに FORMAT ボタン以外のボタンを押すと、フォーマットは解除されます。

### CFカードを入れる場合のご注意

- CFカードは正しい向きに入れてください。また、無理に押し込まないでください。カメラおよびCFカードの破損の原因となります。
- CFカードスロットは図のように少し傾いています。CFカードを入れる場合は、CFカードスロットに沿って入れるようにしてください。

### CFカードをフォーマットする前に

**CFカードをフォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。**フォーマットする前に保存したい画像をパソコンに転送することをおすすめします。

### CFカードフォーマット中のご注意

CFカードのフォーマット中は、カメラの電源スイッチをOFFにしたり、バッテリーやCFカードを取り出さないでください。

## CFカードを取り出すには

**CFカードアクセスランプの消灯を確認し、**カメラの電源スイッチをOFFにします。CFカードカバー開閉ノブを右に押して、CFカードカバーを開け、CFカードイジェクトレバーを奥に押し込むと（①）、CFカードを取り出すことができます（②）（**アクセスランプ点灯中は、絶対にカードを取り出さないでください。**データ消去、カード破損、カメラの不具合の原因となります）。

また、CFカードとCFカードイジェクトレバーの両方を同時に押すと、カメラおよびCFカードを破損するおそれがありますのでご注意ください。

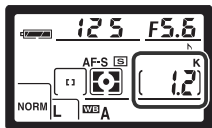
## CFカードの取り扱いについて

カメラをご使用後、CFカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際は、ご注意ください。

## すでにたくさんのフォルダや画像が記録されているCFカードを使用する場合

すでにたくさんのフォルダや画像が記録されているCFカードを使用する場合、CFカードを挿入したときや、カメラの電源スイッチをONにしたときなどに行われるファイル検索に時間がかかるため、撮影や再生するまでに時間がかかる場合があります。

## 撮影可能コマ数が1,000コマ以上の場合

撮影可能コマ数が1,000コマ以上の場合は、撮影可能コマ数表示は10の位が切り捨てられ、1,000コマ以上補助表示により表示されます。たとえば、約1,260コマ撮影可能な場合は、「1.2K」と表示されます。

## カメラにCFカードが入っていない場合

CFカードが入っていない状態で、カメラに残量のあるバッテリーを入れたり、ACアダプタ EH-5（別売）をつなぐと、表示パネルおよびファインダー内の撮影コマ数表示には -E- マークが表示されます。

この章は次の３部で構成されています。

**撮影の基本ステップ（ P.24～30）**

オートフォーカスやデジタルイメージプログラムの AUTO（オート）を使用した簡単な撮影方法を説明しています。AUTO による撮影は、ほとんどの撮影状況に対応します。

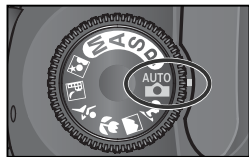
| | | |
|---|---|---|
| ステップ1 | 撮影モードダイヤルを AUTO（オート）にセットする | P.24 |
| ステップ2 | バッテリーの残量と撮影可能コマ数を確認する | P.24～25 |
| ステップ3 | 撮影に関する設定をする | P.26 |
| ステップ4 | 構図を決める | P.27 |
| ステップ5 | ピントを合わせる | P.28～29 |
| ステップ6 | 撮影する | P.30 |

**基本的な再生（ P.31）**

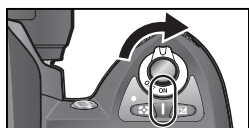
撮影した画像を液晶モニタに表示するための、基本的な再生方法について説明しています。

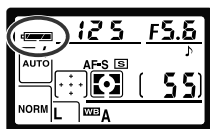
**デジタルイメージプログラムについて（ P.32～36）**

撮影状況に合わせた撮影を、カメラまかせで簡単に楽しむことができるデジタルイメージプログラムについて説明しています。

## ステップ1：撮影モードダイヤルを AUTO（オート）にセットする

撮影モードダイヤルを AUTO に合わせます

- AUTO では、撮影状況に合わせて各機能が最適な状態にセットされるので、デジタル一眼レフカメラをはじめてご使用になる方でも簡単に撮影できます。

## ステップ2：バッテリーの残量と撮影可能コマ数を確認する

### 2.1 カメラの電源スイッチをONにする

- 表示パネル、ファインダー内の表示が点灯します。

### 2.2 バッテリーの残量を確認する

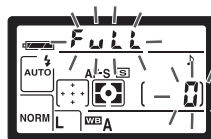
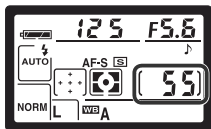
- 表示パネルまたはファインダー内のバッテリーチェック表示を確認します。

| 表示パネル | ファインダー | 意味 | 内容 |
|---|---|---|---|
| [満] | — | バッテリー残量は充分です。 | 操作が行われないまま約6秒（初期設定）経過すると、半押しタイマーがきれて表示パネルのシャッタースピード／絞り表示とファインダー内のすべての表示が消灯します。シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、半押しタイマーが再び作動してこれらの表示が再点灯します。 |
| [減] | — | バッテリーが減り始めました。 | |
| [少] | [少] | バッテリー残量は残りわずかです。 | バッテリー交換の準備をしてください。 |
| [少]（点滅） | [少]（点滅） | バッテリーを交換してください。 | 半押しタイマーは作動せず、シャッターはきれなくなります。 |

- ACアダプタEH-5（別売）をご使用の場合、バッテリーチェック表示は表示されません。
- CR2電池をご使用の場合、銘柄や使い方によっては残量表示が順次表示されない場合があります。

## 2.3 撮影可能コマ数を確認する

- 表示パネルまたはファインダー内で撮影可能コマ数を確認します。

- 撮影可能コマ数がゼロの場合、表示パネルおよびファインダー内の撮影可能コマ数表示の 0 、およびシャッタースピード表示部の FuLL 、FuL が点滅します。撮影する前に、画像を削除するか、別のCFカードに交換してください。
- 画質モードや画像サイズの設定を変更すると、撮影可能コマ数が増加または減少します (P.47)。



### レンズについてのご注意

**デジタルイメージプログラムはCPUレンズ装着時のみ使用できます**。非CPUレンズ装着時は、シャッターがきれません。詳しくは「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」(P.226) をご覧ください。

### 「CHA」表示について

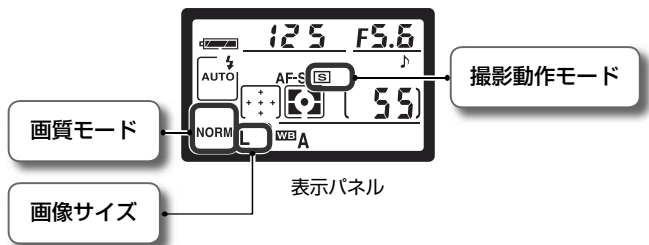
撮像可能コマ数表示部に CHA が点滅した場合については、「故障かな?と思ったら」(P.246) をご覧ください。

### カメラの電源スイッチをOFFにした場合の表示について

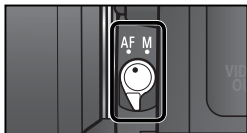
バッテリーが入っている状態でカメラの電源スイッチをOFFにすると、カメラの撮影可能コマ数のみが表示されます。

## ステップ3：撮影に関する設定をする

撮影モードダイヤルを AUTO にセットすると、撮影に関する各機能が、自動的に最適な状態に設定されます。各機能の詳細については、「撮影機能の詳細」をご覧ください。

- 画質モード、画像サイズ、撮像感度、撮影動作モードは次のように設定されます。

| 機能 | 初期設定 | 内容 | |
|---|---|---|---|
| 画質モード | NORMAL | 通常のスナップ写真などの撮影に適しており、画質とファイルサイズのバランスに優れています。 | P.43～P.44 |
| 画像サイズ | L | 3008×2000ピクセルの画素数で記録します。 | P.45～P.47 |
| 撮像感度※ | 200 | ISO200に相当する撮像感度で撮影します。 | P.48～P.49 |
| 撮影動作モード | S（1コマ撮影） | シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影します。 | P.72～P.73 |

※ 撮像感度は、感度ボタン（**ISO**）を押している間のみ、表示パネルに表示されます（P.48）。

## ステップ４：構図を決める

**4.1** フォーカスモードセレクトダイヤルが**AF**（オートフォーカス）に設定されていることを確認する（P.74）

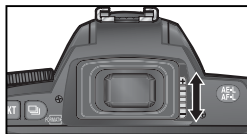
**4.2** 構図を決める

- 構図を決める場合は、わきを締め、ひじを軽く体につけ、カメラを構えます。右手でカメラのグリップを包み込むように持ち、左手でレンズを支えます。片足を軽く踏み出すと、上半身が安定します。
- 人物などを縦位置で撮影する場合は、カメラを縦位置に構えます。

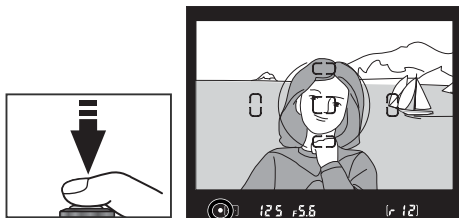
### 構図を決める際のご注意

このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の上下、左右約95％です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。

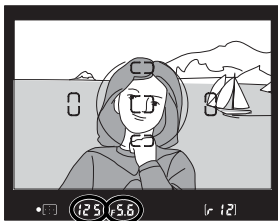
### 視度調節機能について

視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。ファインダーをのぞきながらファインダー内のフォーカスフレーム、またはファインダー内表示が最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせます。ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせるとき、目に近い位置での操作になりますので、指先や爪で目を傷つけないように注意してください。

- 視度調節は－1.6～＋0.5m$^{-1}$（近視～遠視）の間で可能です。また、別売の接眼補助レンズは－5～＋3m$^{-1}$の間で９種類が用意されています（P.235）。
- 視度調節レバーは接眼目当てを取り外すと調節しやすくなります。接眼目当てを取り付ける場合は、文字面を下にした状態で取り付けてください。
- 接眼補助レンズを使用している場合、接眼目当ては使用できません。

## ステップ5：ピントを合わせる

5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピントを合わせます（至近優先ダイナミック；P.169）。

- シャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的にピント合わせを行います。ピントが合うと電子音（ピピッ）が鳴り、ピントを合わせたフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）され、フォーカスロックされます。
- ピントが合う前にピントを合わせているフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。
- ファインダー内のピント表示●の点灯および点滅については次のとおりです。

| ファインダー内ピント表示 | 意味 |
|---|---|
| ●（点灯） | 被写体にピントが合っています。 |
| ●（点滅） | オートフォーカスでピントを合わせることができません。 |

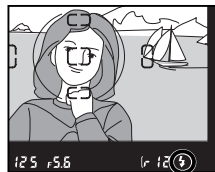
- 被写体が暗い場合は、AF補助光（P.82）を自動的に照射してピント合わせを行います。
- ピントを合わせたい被写体が5つのフォーカスエリアに重ならないような構図で撮影をしたい場合は、「フォーカスロック撮影」（P.80）をご覧ください。
- ピントを合わせることができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（P.83）をご覧ください。

撮影モードダイヤルを AUTO（オート）にセットしている場合、シャッターボタンを半押しすると、自動的にシャッタースピードと絞り値がセットされます。撮影をする前に、ファインダー内のシャッタースピード表示と絞り表示を確認してください。

- 被写体が明るすぎる場合は、表示パネル、ファインダー内に H I の表示が点灯します。ND（光量調節用）フィルター（別売）をご使用ください（P.236）。
- 被写体が暗い場合や、逆光の場合は、自動的に内蔵スピードライトがポップアップして（上がって）撮影時に発光します（以下参照）。



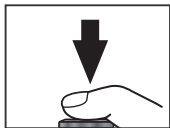
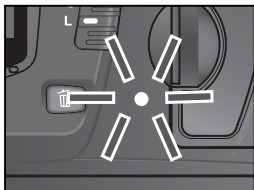
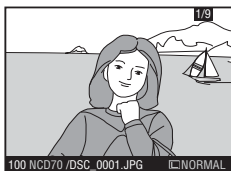
## 内蔵スピードライトについて

撮影モードダイヤルを AUTO、、、 にセットしているときは、シャッターボタンを半押しすると、被写体が暗い場合や逆光の場合に、自動的に内蔵スピードライトがポップアップして、撮影時に発光します（P.112）。

- スピードライトの充電が完了すると、ファインダー内にレディライト ϟ が点灯します。
- スピードライトが上がっている状態でレディライト ϟ が点灯していないときは撮影できません。しばらく待ってからもう一度レディライト ϟ を確認してください。
- スピードライトを発光禁止に変更することができます（P.118）。

レディライト

## 内蔵スピードライトの収納について

内蔵スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます。使用しないときはバッテリーの消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください。

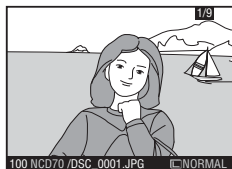
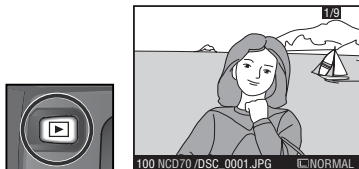
## ステップ6：撮影する

シャッターボタンを下まで押し込むと、撮影できます。

撮影すると、CFカードに画像の記録が行われている間、CFカードアクセスランプが点灯します。点灯が消えるまで、カメラの電源スイッチをOFFにしたり、CFカードやバッテリーを取り出したり、ACアダプタEH-5（別売）を取り外したりしないでください。

D70は撮影した画像をCFカードに記録しながら、自動的に液晶モニタに表示します。

### 作動音について

ニコンデジタルカメラD70は、機械式シャッターとCCD電子シャッターを併用しています。フィルムカメラの作動音と異なり、シャッタースピードが高速の場合でも、機械式シャッター作動音とミラーの作動音の間隔は、一定時間より短くなりません。

# 基本的な再生

D70は次の2つの方法で、撮影された画像を液晶モニタに表示（再生）します。

CFカードに撮影した画像を記録しながら、自動的に液晶モニタに表示します。

再生ボタン ▶ を押すと、最後に撮影した画像を表示します。

マルチセレクターの▲を押すと前の画像を、▼を押すと次の画像を見ることができます。

### *画像を削除する*

- 削除する画像を表示し、削除ボタン 🗑 を押すと、表示中の画像を削除することができます。削除確認画面の表示中に再度削除ボタン 🗑 を押すと、表示中の画像が削除されて再生画面に戻ります。
- 削除確認画面で、削除ボタン 🗑 以外のボタンを押すと、画像の削除をキャンセルできます。

### *撮影モードに戻る*

- 再生ボタン ▶ を押す、またはシャッターボタンを半押しすると、液晶モニタの表示画面が消え、撮影モードに戻ります。

# デジタルイメージプログラムについて



D70では、AUTO（オート）、（ポートレート）、（風景）、（クローズアップ）、（スポーツ）、（夜景）、（夜景ポートレート）の７種類のデジタルイメージプログラムが使用できます。撮影したい状況に合わせて撮影モードダイヤルをセットすると、カメラが自動的に各種設定を最適な状態にセットするため、「シーン」に合った撮影を簡単に楽しむことができます。

- デジタルイメージプログラムはCPUレンズ装着時のみ使用できます。非CPUレンズ装着時は、シャッターがきれません（P.226）。
- デジタルイメージプログラムで操作可能な機能については「操作可能な機能について」（P.224）をご覧ください。

## AUTO オート

ざまざまなな撮影状況で、各種設定をカメラが自動的にコントロールします。カメラまかせで気軽に簡単に撮影することができます。

- 輝度や色再現、シャープ感が偏らず、鮮やかで滑らかな画像に仕上げます。

| シンクロモード | **先幕シンクロオートモード**<br>赤目軽減オートモードや発光禁止に変更可能です（P.118）。 |
|---|---|

## ポートレート

人物の撮影に使用します。背景をぼかし、人物を浮き立たせて立体感のある画像に仕上げ、人物の肌を滑らかで自然な感じに再現します。

- 背景をぼかす度合いは、明るさで変化します。
- 背景をぼかすには、望遠レンズが効果的です。
- 被写体と背景が離れているほど、より効果的に背景をぼかすことができます。

| シンクロモード | **先幕シンクロオートモード**<br>赤目軽減オートモードや発光禁止に変更可能です（P.118）。 |
|---|---|

## 風景

自然の風景や街並みなど、近景から遠景までシャープな風景写真が撮影できます。植物の緑や、青空などを鮮やかに再現します。

- 被写体が暗いときや逆光時でも、内蔵スピードライトおよびAF補助光（P.82）は発光しません。
- 広がりのある風景には、広角レンズが効果的です。

| シンクロモード | 発光禁止 |
| --- | --- |

## クローズアップ

草花や昆虫など、小さい被写体をシャープに浮き立たせたクローズアップ写真が撮影できます。特に赤色や緑色を鮮やかに再現します。

- 自動的に中央のフォーカスエリアが選択されます。また、他のフォーカスエリアを選択することもできます。
- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなるので、手ブレに注意してください。三脚を使用して撮影することをおすすめします。また、セルフタイマー（P.128）や別売のリモコン（P.130）を使用すると効果的です。
- 使用するレンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。ズームレンズの場合は望遠側にするとより大きく写せます。
- 本格的な近接撮影にはマイクロレンズのご使用をおすすめします。

| シンクロモード | **先幕シンクロオートモード**<br>赤目軽減オートモードや発光禁止に変更可能です（P.118）。 |
| --- | --- |

### ピント合わせについて

（クローズアップ）以外のデジタルイメージプログラムでは、5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピントを合わせます（至近優先ダイナミック；P.169）。ピントが合うとピントを合わせたフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）され、フォーカスロックされます。ピントが合う前にピントを合わせているフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。（スポーツ）以外のデジタルイメージプログラムでは、ピントが合うと電子音が鳴ります。

## スポーツ

被写体の一瞬の動きをとらえた躍動感のあるスポーツ写真が撮影できます。さまざまな条件下で、被写体をシャープに再現します。

- シャッターボタンの半押しを続けている間は5つのフォーカスエリアに重なっている被写体の動きに合わせてピントを追い続けます。
- ピントが合っていなくても、シャッターボタンを押し込むとシャッターがきれます。撮影時はファインダー内のピント表示●が点灯していることをご確認ください。
- 被写体が暗いときや逆光時でも、内蔵スピードライトおよびAF補助光（P.82）は発光しません。
- スポーツ撮影には、望遠レンズが効果的です。
- 望遠レンズ使用時は、手ブレしやすいので、三脚を使用して撮影することをおすすめします。

| シンクロモード | 発光禁止 |
| --- | --- |

## 夜景

夜景を撮影する際、スローシャッターで夕景や夜景の雰囲気を表現した写真を撮影できます。夜景撮影にありがちなノイズや不自然な発色を抑え、街灯やネオンなどの光を鮮やかに再現します。

- 被写体が暗いときや逆光時でも、内蔵スピードライトおよびAF補助光（P.82）は発光しません。
- 人物が入る夕景や夜景写真を撮影する場合には、（夜景ポートレート）で撮影してください。
- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなるので、手ブレに注意してください。三脚を使用して撮影することをおすすめします。また、セルフタイマー（P.128）や別売のリモコン（P.130）を使用すると効果的です。
- 1秒よりも低速側のシャッタースピードで撮影した場合は、ノイズにより多少ザラついた画像になることがあります。このノイズは撮影メニューの「**ノイズ除去**」（P.161）を「**ON**」に設定することにより低減することができます。

| シンクロモード | 発光禁止 |
| --- | --- |

## 夜景ポートレート

夕景や夜景を背景にした人物の撮影に使用します。背景を黒くつぶすことなく、人物も背景もきれいに再現されます。スピードライトが発光した場合でも、人物の肌を滑らかで自然な感じに再現します。

- 人物が入らない夕景や夜景写真のみを撮影する場合には、（夜景）で撮影してください。
- 撮影状況によっては、シャッタースピードが遅くなるので、手ブレに注意してください。三脚を使用して撮影することをおすすめします。また、セルフタイマー（P.128）や別売のリモコン（P.130）を使用すると効果的です。
- 1秒よりも低速側のシャッタースピードで撮影した場合は、ノイズにより多少ザラついた画像になることがあります。このノイズは撮影メニューの「**ノイズ除去**」（P.161）を「**ON**」に設定することにより低減することができます。

| シンクロモード | **スローシンクロオートモード**<br>赤目軽減スローシンクロオートモードや発光禁止に変更可能です（P.118）。 |
| --- | --- |

### 露出警告表示について

次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

- 被写体が明るすぎる場合は、表示パネル、ファインダー内に H I の表示が点灯します。ND(光量調節用)フィルター（別売）をご使用ください。
- 被写体が暗すぎる場合は、表示パネル、ファインダー内に L o の表示が点灯します。撮像感度（P.48）を高く設定してください。

### 色空間について

デジタルイメージプログラムで撮影した画像の色空間は、sRGBになります。

## セルフタイマーについて

セルフタイマーを使用すると、シャッターボタンを押してから、約10秒後（初期設定）にシャッターがきれます。シャッターボタンをおすことによる手ブレを軽減したい場合や撮影者自身も被写体として加わりたいような場合に便利です。

- セルフタイマーについての詳細は、「撮影機能の詳細：セルフタイマー撮影」（P.128）をご覧ください。

## リモコン撮影について

別売のリモコンML-L3を使用して、カメラのシャッターボタンをリモコン操作するには、カメラを2秒リモコン撮影モードまたは瞬時リモコンモードにセットします。

- リモコン撮影についての詳細は、「撮影機能の詳細：リモコン撮影」（P.130）をご覧ください。

### 撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした撮影

撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットすると、シャッタースピードと絞り値の組み合わせ方を任意に設定できます。ホワイトバランスや仕上がり設定、露出補正などの設定も可能で、撮影者が意図的にいろいろと工夫できます。詳しくは「撮影機能の詳細」（P.37）をご覧ください。

# 撮影機能の詳細

このカメラでは、撮影状況に合わせてさまざまな機能を撮影者自身で設定することができます。この章では、これらの機能の設定方法を説明します。


メニューの使い方
画質モードと画像サイズ
撮像感度
ホワイトバランス
仕上がり設定
撮影動作モード
フォーカス
測光・露出
スピードライト撮影
セルフタイマー撮影
リモコン撮影
ツーボタンリセット

ここでは各機能を設定して撮影する場合の操作を説明します。下のように撮影が思いどおりに行えない場合、各機能を撮影シーンに合わせて操作することができます。

**メニューの使い方（P.41）**
カメラの各機能を設定する前に、メニューの使い方を覚えておくと便利です。

**画像があらい** / **CFカードに記録できるコマ数が少ない**

**画質モードと画像サイズ（P.43）**
表示やプリントする大きさに合わせて画像サイズや、画質モードを設定します。画質モードと画像サイズの組み合わせによって画像のファイルサイズが変化するため、CFカードに記録できるコマ数も変化します。

**被写体の動きが早すぎて撮影が間に合わない**

**撮影動作モード（P.72）**
シャッターボタンを押すごとに1コマずつ撮影したり、押し続けることにより連続撮影が行えます。

**ピントが合わない**

**フォーカス（P.74）**
1コマずつピントが合ってからシャッターがきれるか、ピントを合わせ続けながらシャッターがきれるかを選択できます。ピントを合わせる位置を選択したり、マニュアル（手動）でピントを合わせることもできます。

**撮影者も画像に写りたい** / **離れた所から撮影したい**

**セルフタイマー撮影（P.128）**
セルフタイマーを使用すると、シャッターボタンを押してから約10秒後にシャッターがきれます。

**リモコン撮影（P.130）**
リモコン（別売）を使用すると、カメラから離れてシャッターボタンを押すことができます。

**設定を元に戻す方法がわからない**

**ツーボタンリセット（P.135）**
撮影に関する各機能を、一括して初期状態に戻すことができます。

### 画像がすっきりしない（色がかぶっている、輪郭がはっきりしない）

**仕上がり設定（P.64）**
撮影意図に合わせて、輪郭（シャープネス）、コントラスト、色再現、彩度、色相の組み合わせを設定します。

### 画像が赤っぽい（オレンジかぶり）、画像が青っぽい（青かぶり）

**ホワイトバランス（P.50）**
被写体の色を見たままに、画像上でも自然な感じに再現されるように、照明光の種類に合わせて、ホワイトバランスを調整します。

### 画像の色が気になる

**オートブラケティング（P.103）**
自動的に露出をずらして明るさを変えたり、ホワイトバランスをずらしながら、複数の画像を撮影できます。

### 被写体が明るすぎる

**測光モード（P.86）**
カメラが被写体の明るさを計測する範囲を設定します。

**露出モード（P.88）**
シャッタースピードはカメラが被写体からの光を取り込む時間の長さ、絞りは光がレンズを通過する量を設定します。シャッタースピードと絞りの組み合わせにより、さまざまな画像を撮影できます。

**露出補正（P.101）**
カメラが計測した適正露出よりも明るくしたり、暗く撮影するすることができます。

### 被写体が暗すぎる、または逆光になる

**スピードライト撮影（P.112）**
内蔵スピードライトを発光させると、暗い被写体や逆光でも最適な撮影ができます。スピードライトの発光方法や赤目軽減機能をコントロールするシンクロモードが設定できます。

**撮像感度（P.48）**
カメラが被写体からの光を受光する感度を設定します。撮像感度が高いほど、暗い場所でも速いシャッタースピードで撮影しやすくなります。

### 画像がブレる

ここでは各機能を設定して撮影する場合の操作の流れを説明します。

メニューの使い方 P.41～42

**画像の使用目的に合わせる**

➡ 画質モードと画像サイズ P.43～47
➡ 仕上がり設定 P.64～71
➡ 撮影メニュー P.160～162

**撮影時の照明光に合わせる**

➡ 撮像感度 P.48～49
➡ ホワイトバランス P.50～63

**1コマ撮影／連続撮影の設定をする**

➡ 撮影動作モード P.72～73

**ピントを被写体に合わせる**

➡ フォーカス P.74～85

**被写体の明るさを計測する**

➡ 測光・露出：測光モード P.86～87

**シャッタースピードと絞り値を組み合わせる**

➡ 測光・露出：露出モード P.88～97

**露出の微調整をする**

➡ 測光・露出：露出補正 P.101～102
➡ 測光・露出：オートブラケティング P.103～111

**スピードライトを使用する**

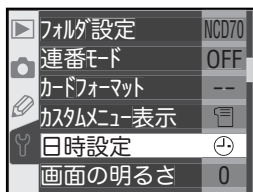
➡ スピードライト撮影 P.112～127
➡ 装着可能な別売スピードライト P.229～234

**セルフタイマー撮影・リモコン撮影を行う**

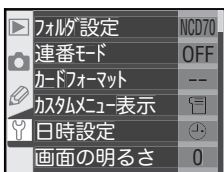
➡ セルフタイマー撮影 P.128～129
➡ リモコン撮影 P.130～134

# メニューの使い方

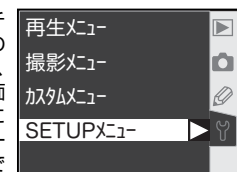
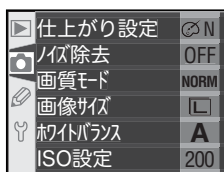
## メニュー画面の表示方法

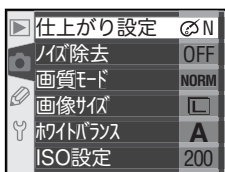
カメラの電源スイッチをONにした状態でメニューボタン MENU を押すとメニュー画面が表示されます。

## メニュー画面の選択

メニューボタン MENU を押すと、前回使用していたメニュー画面が表示されます。メニュー画面は次の方法で選択します。

1

メニュー画面内のメニュー項目がすでに選択（ハイライト）されている場合は、マルチセレクターの◀を押します。

• さらにマルチセレクターの◀を押すと、メニュー画面の選択画面になり、メニュー画面を名称で確認しながら選択できます。▲または▼を操作してメニュー画面を選択し、▶で表示させます。

2

マルチセレクターの▲または▼を操作して、使用するメニュー画面を選択します。

3

マルチセレクターの▶で、選択したメニュー画面にカーソルを表示させます。

### カスタムメニュー表示（P.194）

通常、カスタムメニュー画面ではカスタムセッティングRとカスタムセッティング1からカスタムセッティング9までのメニュー項目のみ表示されますが、カスタムセッティングの全メニュー項目が表示されるように変更できます。

## メニュー項目の実行

メニュー項目を実行する方法は次のとおりです。

1

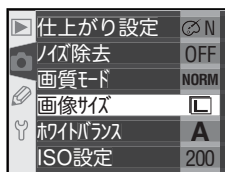
マルチセレクターの▲または▼を操作して、メニュー項目を選択します。

2

マルチセレクターの▶を押し、メニュー項目の詳細を表示させます。

3

マルチセレクターの▲または▼を操作して、メニュー項目の詳細を選択します。

4

マルチセレクターの▶を押すと、選択を実行し、メニュー画面に戻ります。

- CFカードに記録している間、およびCFカードの有無や撮影モードによっては、設定できないメニュー項目があります。
- 選択をキャンセルする場合はマルチセレクターの◀またはメニューボタン MENU を押します。
- マルチセレクターの▶、実行ボタン ENTER は同じ機能ですので、いずれを押してもメニュー項目の選択が実行できます。マルチセレクターの▶が使用できない場合は、実行ボタン ENTER を使用してください。
- メニュー項目にはサブメニュー項目が表示される場合があります。この場合は、上記手順の3および4を繰り返して選択を完了してください。

### メニュー画面を終了するには

- メニュー画面表示中にメニューボタン MENU を押すと、メニュー画面が終了し、撮影モードに戻ります（メニュー項目がすでに選択されている場合は、メニューボタン MENU を二度押すとメニュー画面が終了します）。
- 再生ボタン ▶ を押して再生モードにするか、カメラの電源スイッチをOFFにした場合もメニュー画面を終了できます。
- メニュー画面表示中にシャッターボタンを半押しすると、メニュー画面を終了して撮影準備状態（撮影モード）に切り替わります。

# 画質モードと画像サイズ

## 画質モード

画像を記録する際の画質を選択します。BASIC、NORMAL、FINE、RAWの順に画質が高くなります。

| 画質モード | ファイル形式 | 内 容 | |
|---|---|---|---|
| RAW | NEF | 撮像素子からの12bitの生出力データを圧縮して記録します。復元には、PictureProjectまたはNikon Capture 4（Ver.4.1以降）（P.236）が必要です。 | |
| FINE | JPEG | 精細な画質で、画像を拡大する場合や、プリンタで細かく表現したい場合などに適しています。画像データは約1/4に圧縮されます。 | 低 |
| NORMAL | JPEG | 通常の画質で、一般的にはこの画質モードを使用します。画像データは約1/8に圧縮されます。 | 圧縮率 |
| BASIC | JPEG | 基本的な画質で、電子メールに添付したりホームページに掲載したりする場合に適しています。画像データは約1/16に圧縮されます。 | 高 |
| RAW＋BASIC | NEF＋JPEG | RAWとBASICの、2種類の画像を同時に記録します。この画質モードを選択すると、自動的に画像サイズ（P.45）が「**L**」に固定され、BASIC画像は3008×2000ピクセルでのみ記録されます。 | |

### RAW画像とJPEG画像の同時記録について

- 画質モードを「**RAW＋BASIC**」に設定して撮影した場合は、カメラではBASIC画像のみ再生可能です。BASIC画像と同時記録されたRAW画像はパソコンでの再生専用になります。
- RAW画像と同時記録されたBASIC画像をカメラ上で削除すると、RAW画像も削除されます。

### ファイル名について

- このカメラで撮影された画像にはDSC_nnnn.xxx（撮影メニュー「**仕上がり設定**」の「**カスタマイズ**」で「**カラー設定**」を「**モードII (AdobeRGB)**」に設定した場合は_DSCnnnn.xxx）という名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が、xxxには選択した画質モードの拡張子が入ります。拡張子はRAWの場合：NEF、FINE／NORMAL／BASICの場合：JPG、イメージダストオフデータの場合：NDFとなります。
- 同時記録されたRAW画像とBASIC画像のファイル名は同じですが、拡張子がそれぞれNEF、JPGになります。

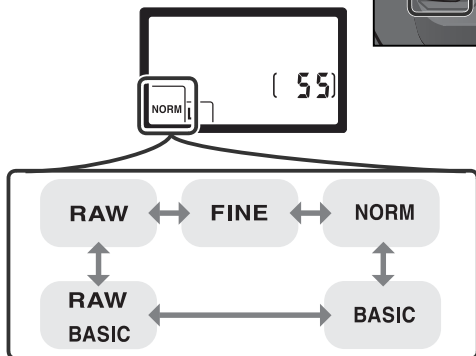
画質モードの設定には、撮影メニューの「**画質モード**」で設定する方法、および画質モードボタン（**QUAL**）とメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。

## *撮影メニューの「画質モード」で設定する場合*

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**画質モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

**2** 画質モード選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する画質モードを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

## *画質モードボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合*

液晶モニタ消灯時に、画質モードボタン（**QUAL**）を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して使用する画質モードを表示パネルに表示させます。

## 画像サイズ

画像を記録する際のサイズ（大きさ）を選択します。D70では、次の3種類の選択が可能です。一般的に画像サイズが大きければ、大きいサイズでの出力（プリント）が可能になります。

| 画像サイズ | 内容 | 出力サイズ※ |
|---|---|---|
| L | 画像を3008×2000ピクセルで記録します。 | 38.2×25.4cm |
| M | 画像を2240×1488ピクセルで記録します。 | 28.4×18.9cm |
| S | 画像を1504×1000ピクセルで記録します。 | 19.1×12.7cm |

※ 出力解像度200dpiでプリントした場合のおおよそのサイズです。

- 画質モードで「**RAW**」を選択した場合は、画像サイズが固定されるため画像サイズの設定はできません。RAWで保存した画像をPictureProject、Nikon Capture 4（Ver.4.1以降）で復元する場合は、3008×2000ピクセルサイズになります。
- 画質モードで「**RAW＋BASIC**」を選択した場合は、画像サイズが「**L**」に固定され、画像サイズの変更はできません。この場合、BASICで保存した画像は3008×2000ピクセルサイズになり、RAWで保存した画像をPictureProject、Nikon Capture 4（Ver.4.1以降）で復元する場合も3008×2000ピクセルサイズになります。

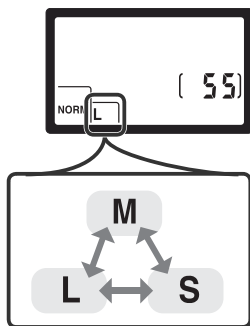
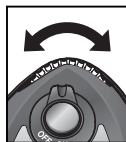
画像サイズの設定には、撮影メニューの「**画像サイズ**」で設定する方法、および画質モードボタン（**QUAL**）とサブコマンドダイヤルで設定する方法があります。

### *撮影メニューの「画像サイズ」で設定する場合*

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**画像サイズ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

**2** 画像サイズ選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する画像サイズを選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

## *画質モードボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合*

液晶モニタ消灯時に、画質モードボタン（**QUAL**）を押しながら、サブコマンドダイヤルを回して使用する画像サイズを表示パネルに表示させせます。

## 画質モード・画像サイズと撮影可能コマ数について

撮影された画像のファイルサイズは、画質モードと画像サイズによって決定されます。そのため、CFカードに記録できる画像のコマ数は画質モードと画像サイズの組み合わせによって変化します。256MBのCFカードで撮影できるコマ数は、それぞれの設定で次のようになります。

| 画質モード | 画像サイズ | 1コマあたりのファイルサイズ | 撮影可能コマ数※1 | 連続撮影可能コマ数※2 |
|---|---|---|---|---|
| RAW | − | 約5.0MB | 約44コマ※3 | 4コマ |
| FINE | L | 約2.9MB | 約73コマ | 9コマ |
| | M | 約1.6MB | 約130コマ | 7コマ |
| | S | 約0.8MB | 約279コマ | 19コマ |
| NORMAL | L | 約1.5MB | 約144コマ | 12コマ |
| | M | 約0.8MB | 約253コマ | 7コマ |
| | S | 約0.4MB | 約528コマ | 27コマ |
| BASIC | L | 約0.8MB | 約279コマ | 19コマ |
| | M | 約0.4MB | 約481コマ | 7コマ |
| | S | 約0.2MB | 約950コマ | 49コマ |
| RAW＋BASIC | L※4 | 約5.8MB※5 | 約39コマ※6 | 4コマ |

※1 撮影条件により、撮影可能コマ数は増減することがあります。

※2 ご使用のCFカードの種類により、連続撮影コマ数は増えることがあります。

※3 撮影可能コマ数表示部には「23」と表示されます。

※4 画像サイズは「**L**」に固定されます。この場合、BASICで保存した画像は3008×2000ピクセルサイズになり、RAWで保存した画像をPictureProject、Nikon Capture 4（Ver. 4.1以降）で復元する場合も3008×2000ピクセルサイズになります。

※5 RAW画像とBASIC画像のファイルサイズの合計になります。

※6 撮影可能コマ数表示部には「21」と表示されます。

# 撮像感度

撮像感度を標準（ISO200相当）よりも高く設定することができ、暗いところでの撮影にも対応します。撮像感度はISO200～1600相当の間で1/3段ステップで設定できます。

撮像感度の設定には、撮影メニューの「**ISO設定**」で設定する方法、および感度ボタン（**ISO**）とメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。

## *撮影メニューの「ISO設定」で設定する場合*

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**ISO設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

**2** ISO設定選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する撮像感度を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

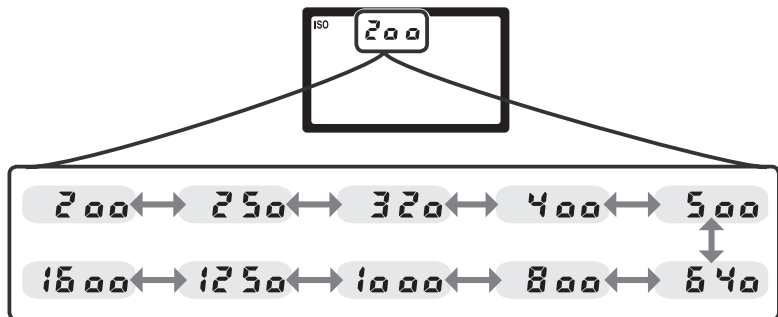
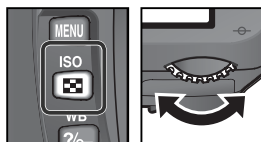
### 高感度に設定した場合

撮像感度を高く設定すると、低く設定したときに比べて、多少ザラついた画像になることがあります。

### CSM 5：感度自動制御（P.171）

設定した撮像感度で適正露出が得られない場合、ISO200～1600の範囲で自動的に撮像感度を変更して適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。

## *感度ボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合*

液晶モニタ消灯時に、感度ボタン（**ISO**）を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望する撮像感度を表示パネルに表示させます。

# ホワイトバランス

人間の目は、晴天、曇り空、白熱電球や蛍光灯の室内など、光源の色に関係なく白い被写体は白く見えます。それに対して、デジタルカメラで人間の目に白く見える色を画像でも白く見えるようにするには、照明光の色に合わせて調整を行う必要があります。この調整を「ホワイトバランスを合わせる」といいます。なお、ホワイトバランスは、撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合のみ選択することができます。デジタルイメージプログラムでは、ホワイトバランスは**A**（オート）に固定されます。

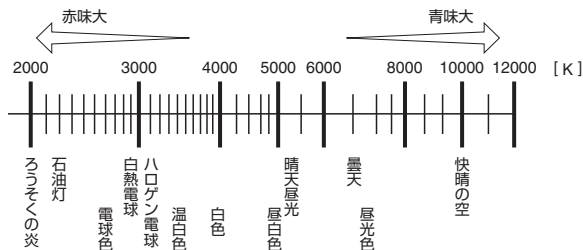
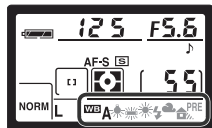
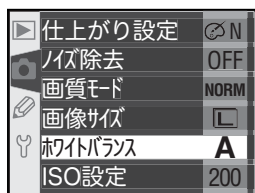
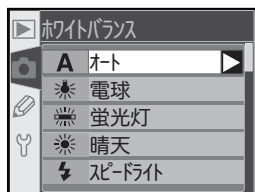
ホワイトバランスは次の８種類から選択できます。

| ホワイトバランス | 設定される色温度※ | 内容 |
|---|---|---|
| **A オート** | 約3500～8000K | 1005分割RGBセンサー、撮像素子で色温度を測り、カメラが自動的に調節します。**A**（オート）で充分な効果を得るには、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。また、内蔵スピードライトや別売スピードライトSB-800、SB-600使用時は、スピードライト発光時の条件に応じて適したホワイトバランスに調整されます。 |
| **電球** | 約3000K | 白熱電球下での撮影に適しています。 |
| **蛍光灯** | 約4200K | 白色蛍光灯下での撮影に適しています。 |
| **晴天** | 約5200K | 晴れの日の順光での撮影に適しています。 |
| **スピードライト** | 約5400K | 内蔵およびニコン製スピードライト撮影に適しています。 |
| **曇天** | 約6000K | 曇りの日の撮影に適しています。 |
| **晴天日陰** | 約8000K | 晴れの日の日陰での撮影に適しています。 |
| **PRE プリセット** | — | 撮影者が被写体を基準にホワイトバランスを合わせたり、CFカード内の画像と同じホワイトバランスに合わせることができます(P.57)。 |

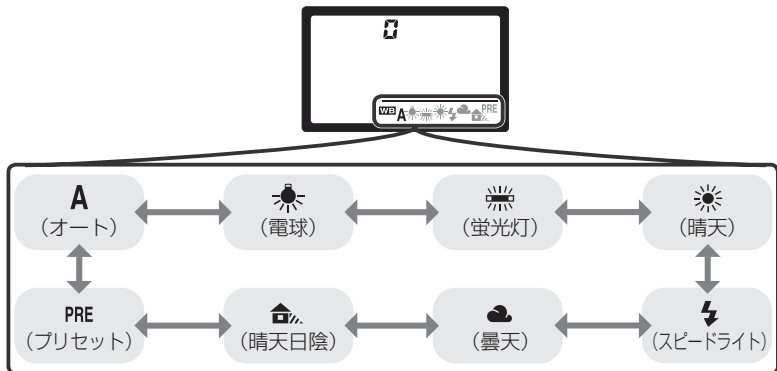
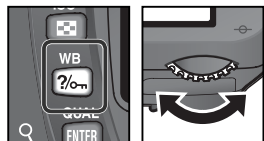
※ 微調整が０の場合の値です。

- ほとんどの場合は**A**（オート）で撮影できますが、特定の照明光に固定したい場合は、適応する特定のホワイトバランスを選択してセットします。また、「ホワイトバランスの微調整」(P.54)（プリセットモード時を除く）や、撮影者自身がホワイトバランスをセットする「プリセットホワイトバランス」(P.57) も使用可能です。
- アクセサリーシュー（P.234）にAS-15を装着してスタジオ用ストロボを使用する場合は、**A**（オート）に設定していても適正なホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は、⚡（スピードライト）モードにして微調整を行うか、プリセットホワイトバランスをご使用ください。

### 色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なってしまいます。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。下図のように色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

ホワイトバランスの設定には、撮影メニューの「**ホワイトバランス**」で設定する方法、およびホワイトバランスボタン（**WB**）とメインコマンドダイヤルで設定する方法があります。いずれの場合も、設定されたホワイトバランスのアイコンが表示パネルに表示されます。

## *撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定する場合*

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**ホワイトバランス**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

**2** ホワイトバランス選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定するホワイトバランスを選択し、▶を押します。**PRE**（プリセット）を選択した場合は、**PRE** プリセット画面が表示されます（P.57）。それ以外のモードを選択した場合は、ホワイトバランスの微調整を設定する画面が表示され、微調整値を決定すると、設定が有効となります（P.54）。

## *ホワイトバランスボタンとメインコマンドダイヤルで設定する場合*

- 液晶モニタ消灯時に、ホワイトバランスボタン（**WB**）を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスのアイコンを選択します。

### 12：オートBKTセット（P.176）

カスタムセッティング12「**オートBKTセット**」で「**WBブラケティング**」を選択すると、設定したホワイトバランスに対して、自動的に調整量を変化させながら複数の画像を記録することが可能です。詳しくは「オートブラケティング」（P.103）をご覧ください。

## ホワイトバランスの微調整

P.52～53の操作でホワイトバランスを PRE（プリセット）以外に設定した場合は、さらに微調整を行うことができます。ホワイトバランスの微調整は撮影メニューの「**ホワイトバランス**」、もしくはホワイトバランスボタン（**WB**）とサブコマンドダイヤルで行います。いずれの場合も、微調整値が 0 以外に設定されると表示パネルにホワイトバランス微調整表示 ◄► が点灯します。

- 調整範囲は１段ステップで±３段です。
- １段は約10ミレッドに相当します（蛍光灯モードを除く）。設定される色温度は光源の種類によって異なります。
- 「－」方向に微調整を行った場合は画像が赤味がかり、「＋」方向に微調整を行った場合は画像が青味がかります。

### ミレッド（MIRED）について

色温度の逆数を百万倍（$10^6$）したものです。色温度は、同じ色温度差でも、色温度の低い場合では色の変化が大きく、色温度の高い場合では、色の変化が小さくなります。たとえば同じ100ケルビンの違いでも6000ケルビン付近では変化はほとんどありませんが、3000ケルビン付近では100ケルビンの違いで光色が大きく変わります。ミレッドは、その変化幅をほぼ同じに表現する尺度であり、色温度補正フィルターの単位としても利用されます。

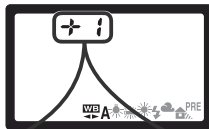
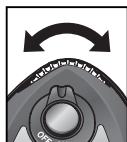
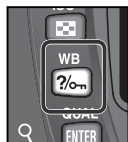
例）　色温度の差（K：ケルビン）　：　ミレッドの差（M：ミレッド）
　4000K－3000K＝1000 K　：　83 M
　7000K－6000K＝1000 K　：　24 M

## *撮影メニューの「ホワイトバランス」で設定する場合*

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**ホワイトバランス**」を選択して、マルチセレクターの▶を押し、**PRE**（プリセット）以外の希望するホワイトバランスを選択してマルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示されます。

**2** マルチセレクターの▲または▼で設定する微調整量を－３～＋３の範囲で選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

## *ホワイトバランスボタンとサブコマンドダイヤルで設定する場合*

液晶モニタ消灯時に、ホワイトバランスボタン（**WB**）を押しながら、サブコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスの微調整量を表示パネルに表示させます。

## ホワイトバランスの微調整について

ホワイトバランスの**A**（オート）以外の各ホワイトバランスで微調整を行うと、設定色温度は次のように変化します。

| | 設定色温度 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 電球 | 蛍光灯※ | 晴天（自然光） | スピードライト | 曇天（自然光） | 晴天日陰（自然光） |
| ＋3 | 約2700K | 約2700K | 約4800K | 約4800K | 約5400K | 約6700K |
| ＋2 | 約2800K | 約3000K | 約4900K | 約5000K | 約5600K | 約7100K |
| ＋1 | 約2900K | 約3700K | 約5000K | 約5200K | 約5800K | 約7500K |
| ±0 | 約3000K | 約4200K | 約5200K | 約5400K | 約6000K | 約8000K |
| －1 | 約3100K | 約5000K | 約5300K | 約5600K | 約6200K | 約8400K |
| －2 | 約3200K | 約6500K | 約5400K | 約5800K | 約6400K | 約8800K |
| －3 | 約3300K | 約7200K | 約5600K | 約6000K | 約6600K | 約9200K |

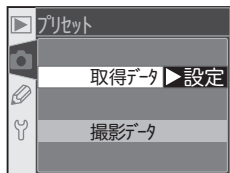
※ 蛍光灯モードの場合、他のモードと異なり多様な蛍光灯に対して次のように選択できます。

| 調整 | 色温度 | 適した蛍光灯 |
|---|---|---|
| ＋3 | 約2700K | 野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光など |
| ＋2 | 約3000K | 電球色蛍光灯 |
| ＋1 | 約3700K | 温白色蛍光灯 |
| 0 | 約4200K | 白色蛍光灯 |
| －1 | 約5000K | 昼白色蛍光灯 |
| －2 | 約6500K | 昼光色蛍光灯 |
| －3 | 約7200K | 高色温度の水銀灯など |

- 写真用カラーメータで測定した色温度値とカメラの設定色温度は異なる場合があります。

## プリセットホワイトバランス

プリセットホワイトバランスは、カクテル照明や特殊照明下で、前記の**A**（オート）や（電球モード）などの各設定では望ましいホワイトバランスが得られない場合やCFカード内の画像のホワイトバランスに合わせたい場合に使用します。

D70では、次の2とおりの方法でプリセットデータを設定できます。

| プリセットデータ | 内容 |
|---|---|
| **取得データ** | 白またはグレーの被写体を基準にして撮影を行い、取得したデータをプリセットデータとして設定します（P.58）。 |
| **撮影データ** | CFカード内の画像で使用されたホワイトバランスデータをプリセットデータとして設定します（P.60）。<br>• D70で撮影された画像のみ設定することができます。<br>• 別売のNikon Capture 4（Ver.4.1以降）を使用すると、D70で撮影されたRAW画像をパソコン画面で確認しながらホワイトバランスを調整することができます。Nikon Capture 4でホワイトバランスを調整した画像は、「**撮影データ**」を使用し、プリセットデータとして設定することができます。 |

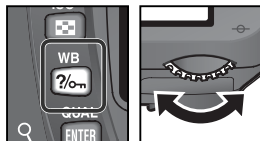
### 「撮影データ」設定時のデータ取得について

プリセットデータを「**撮影データ**」に設定していても、新しくプリセットデータを取得すると、自動的に「**取得データ**」に設定されます。

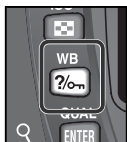
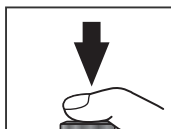
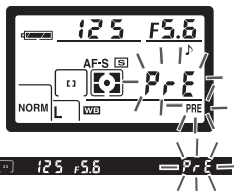
## 取得データ

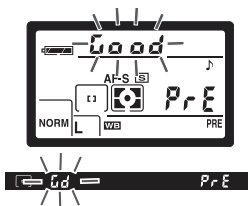
### プリセットデータを新規取得するには

プリセットデータを取得するには、次のように操作します。

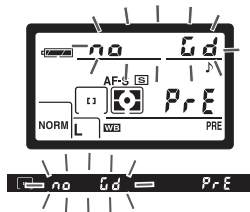
- あらかじめプリセットホワイトバランスをセットする照明下で、白またはグレー（無彩色）の被写体を用意しておいてください。スタジオ用ストロボにてプリセットホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（18%標準反射板）にすることをおすすめします。
- 新しくプリセットデータを取得すると、自動的にプリセットデータとして設定されます（以前設定されたプリセットデータは消去されます）。
- 白またはグレーの被写体を基準にプリセットデータを取得するときは、撮影モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**のいずれにセットされている場合でも、カメラが露出を通常よりも1段分オーバーになるように自動的に調整します。撮影モードダイヤルを **M**（マニュアル）にセットする場合は、露出インジケーターを確認して、適正露出になるよう設定してください。

**1** ホワイトバランスボタン（**WB**）を押しながら、表示パネルに PRE（プリセット）が表示されるまでメインコマンドダイヤルを回します。

**ホワイトバランスのプリセットの設定方法について（P.52）**

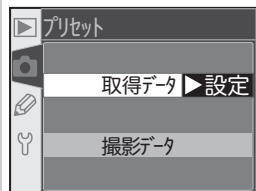
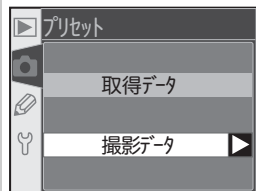
撮影メニューの「**ホワイトバランス**」で、「PRE **プリセット**」に設定することもできます。

2 プリセット取得モードにするには、いったんホワイトバランスボタン（**WB**）から指を離し、再度ホワイトバランスボタン（**WB**）を1.5秒以上押し続けます。プリセット取得モードになり、表示パネルとファインダー内の撮影可能コマ数表示部に PrE の文字が、表示パネルに PRE のアイコンが、それぞれ点滅します。

3 プリセット取得モード中に、撮影する照明下で白またはグレー（無彩色）の被写体をファインダーいっぱいにとらえてシャッターボタンを押すと、その被写体を基準にプリセットデータが取得されます。

- ピントが合わなくてもシャッターがきれ、プリセットデータが正常に取得されます。
- シャッターボタンを押してプリセットデータを取得しても、CFカードへの画像の記録は行われません。

4 プリセットデータが取得されると、表示パネルのシャッタースピード表示部に Good の文字が、ファインダー内のシャッタースピード表示部に Gd の文字が点滅します。プリセット取得モードは、半押しタイマーのオフ、またはシャッターボタンの半押しで終了します。

- 被写体が極端に低輝度または高輝度の場合、カメラがプリセットデータを取得できないことがあります。この場合、表示パネルとファインダー内のシャッタースピード表示部／絞り値表示部に no Gd の文字が点滅します。点滅中にシャッターボタンを半押しすると、プリセット取得モード（手順2）に戻ります。半押しタイマーがオフになった場合、プリセット取得モードは終了します。

- プリセット取得モードを解除するには、ホワイトバランスボタン（**WB**）を押してください。
- 出荷時の取得データは晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。

### *撮影データ*

CFカードに保存されている撮影済み画像のホワイトバランスデータを、プリセットデータとして設定するには、次のように操作します。

- 撮影済み画像をプリセットデータとして設定すると、以前のプリセットデータは上書きされます。

**1** 撮影メニュー画面（P.160）の「**ホワイトバランス**」から **PRE**（プリセット）を選択してマルチセレクターの▶を押すと、プリセットデータの選択画面が表示されます。

**2** マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**撮影データ**」を選択します。

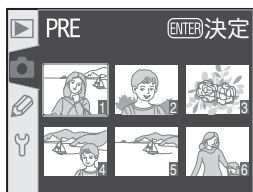
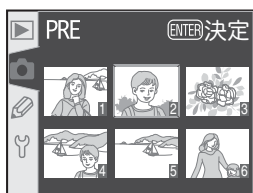
**3** マルチセレクターの▶を押すと、撮影データ画面が表示されます。

- 画面の右側に、プリセットデータとして現在設定されているサムネイル画像が表示されます。
- 出荷時の撮影データは晴天モードと同じ色温度5200Kに設定されています。

**4** マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**表示画像で設定**」または「**データを選択**」を選択します。

- 画面の右側に表示されている画像のホワイトバランスを引き続き設定するには、「**表示画像で設定**」を選択してマルチセレクターの▶を押します。ホワイトバランスが設定されて撮影メニュー画面に戻ります。
- 別の画像をCFカード内から選択し、そのホワイトバランスを設定するには、「**データを選択**」を選択します。

**5** 「**データを選択**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、フォルダの選択画面が表示されます。

**6** マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、使用する画像が保存されているフォルダを選択します。

7 マルチセレクターの▶を押すと、選択したフォルダに保存されている画像が一覧で表示されます。

8 マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押して、画像を選択します。

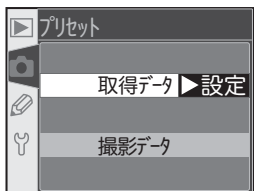
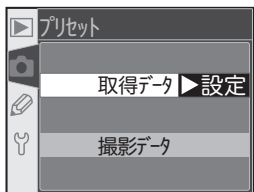
9 実行ボタン ENTER を押すと、選択画像のホワイトバランスデータがプリセットデータとして設定され、撮影データ画面に戻ります。

- マルチセレクターの▶を押すと撮影メニュー画面に戻ります。
- 別の画像をCFカード内から選択しなおし、そのホワイトバランスを設定するには、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**データを選択**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します（手順5にお戻りください）。

### プリセットデータとして設定できない「撮影データ」について

他のカメラで撮影した画像は「**撮影データ**」の「**データの選択**」には表示されますが、プリセットデータとして設定することはできません。D70で撮影された画像のみ設定することができます。

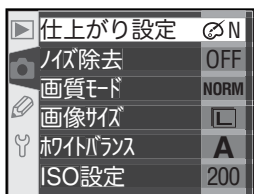
### 前回の取得データをプリセットホワイトバランスに再設定するには

取得済みのプリセットデータを、プリセットホワイトバランスに再設定する方法は、次のとおりです。

**1** 撮影メニュー画面（P.160）の「**ホワイトバランス**」から **PRE**（プリセット）を選択してマルチセレクターの▶を押すと、プリセットデータの選択画面が表示されます。

**2** マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**取得データ**」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、取得データがホワイトバランスに設定されて撮影メニュー画面に戻ります。

# 仕上がり設定

記録する画像の仕上がりを設定します。撮影シーンや好みに応じて「**標準**」、「**鮮やかに**」、「**シャープに**」、「**ソフトに**」、「**ダイレクトプリント**」、「**人物きれい**」、「**風景きれい**」を選択すると、輪郭（シャープネス）、コントラスト、色再現、彩度、色相の組み合わせが、それぞれ最適な状態で再現されるように設定されます。また、「**カスタマイズ**」を選択すると、撮影意図に合わせて輪郭、コントラスト、色再現、彩度、色相を個別に設定することが可能です。画像の仕上がりは撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合のみ、設定することができます。デジタルイメージプログラムでは、カメラが自動的に仕上がり設定を行います。

| 設定 | | 内容 |
|---|---|---|
| N | **標準**（初期設定） | 標準的な画像に仕上げます。さまざまな撮影状況に対応します。 |
| VI | **鮮やかに** | 彩度を高め、赤色、緑色、青色が鮮やかに再現されるように仕上げます。ややコントラストが高く、シャープな画像に仕上がります。 |
| SH | **シャープに** | 被写体の輪郭がシャープに再現されるように仕上げます。 |
| SF | **ソフトに** | 被写体の輪郭がソフトに再現されるように仕上げます。人物の肌を滑らかで自然な感じに再現したい場合や、画像アプリケーションで輪郭強調を行いたい場合に適します。 |
| DP | **ダイレクトプリント** | 撮影した画像をダイレクトプリント（P.213）によりプリンタから直接出力する場合に、画像がきれいにプリントされるように仕上げます。画像を拡大プリントする場合でも、くっきりとしたシャープなプリントが得られます。 |
| PO | **人物きれい** | ポートレート画像に適しています。コントラストを抑え、人物の肌の質感や立体感を自然に再現します。 |
| LA | **風景きれい** | 風景写真に適しています。全体的にシャープに仕上げ、植物の緑や、青空などを鮮やかに再現します。 |
| | **カスタマイズ** | 「**輪郭強調**」（輪郭）、「**階調補正**」（コントラスト）、「**カラー設定**」（色再現）、「**彩度設定**」（彩度）、「**色合い調整**」（色相）を個別に設定します（P.66）。 |

仕上がりの設定は撮影メニューの「**仕上がり設定**」で行います。

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**仕上がり設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

**2** 仕上がり選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する仕上がりを選択します。マルチセレクターの▶を押し、「**カスタマイズ**」を選択した場合は、カスタマイズ画面が表示されます（P.66）。それ以外の仕上がりを選択した場合は、設定が有効となり撮影メニューに戻ります。

## 仕上がり設定についてのご注意

「**カスタマイズ**」以外の仕上がり設定で撮影する場合、撮影画像を使用して最適な仕上がりになるように自動的に設定されます。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、仕上がりが変化することがあります。仕上がりを固定して撮影したい場合には、「**カスタマイズ**」を選択して「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**カラー設定**」、「**彩度設定**」、「**色合い調整**」を個別に設定することをおすすめします。ただし、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」を**A**（オート）に設定すると、シーンによって輪郭の強調度合いやコントラストが変化することがありますので、これらを固定して撮影する場合は、**A**（オート）以外に設定して撮影してください。

## 色空間について

「**カスタマイズ**」以外に設定して撮影した画像の色空間は、sRGBになります。色空間をAdobeRGBにする場合は、「**カスタマイズ**」の「**カラー設定**」を「**モードII**」に設定してください（P.68）。

## 使用するレンズについて

「**カスタマイズ**」以外の仕上がりで撮影する場合、最適な状態に調節する機能を充分に活用するため、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。

## 仕上がり設定のカスタマイズ

仕上がり設定で「 **カスタマイズ**」を選択すると、撮影意図に合わせて、「**輪郭強調**」(シャープネス)、「**階調補正**」(コントラスト)、「**カラー設定**」(色再現)、「**彩度設定**」(彩度)、「**色合い調整**」(色相) を個別に設定することができます。

### *輪郭強調*

撮影シーンや好みに応じて、記録する画像の輪郭 (シャープネス) を設定します。輪郭 (シャープネス) を強調する度合いを意図的に調整できます。

| 設定 | | 内容 |
|---|---|---|
| **A** | **オート**<br>(初期設定) | 撮影した画像から、最適な輪郭をカメラが自動的に設定します。**A** (オート) を充分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。 |
| 0 | **標準** | 標準的なレベルで輪郭強調を行います。 |
| -2 | **弱め** | 輪郭強調の度合いは標準よりも弱くなります。 |
| -1 | **やや弱め** | 輪郭強調の度合いは標準よりも、やや弱くなります。 |
| +1 | **やや強め** | 輪郭強調の度合いは標準よりも、やや強くなります。 |
| +2 | **強め** | 輪郭強調の度合いは標準よりも強くなります。 |
| | **しない** | 輪郭強調を行いません。 |

#### 輪郭強調についてのご注意

輪郭強調を**A** (オート) に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適な輪郭の強調度合いを設定します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、強調度合いが変化することがあります。輪郭の強調度合いを固定して撮影したい場合には、**A** (オート) 以外の設定を選択することをおすすめします。

## 階調補正

記録する画像のコントラストを設定します。撮影シーンや好みに応じて次のいずれかに変更できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| A オート（初期設定） | 撮影した画像から、最適なコントラストをカメラが自動的に設定します。**A**（オート）を充分に活用するために、GまたはDタイプレンズのご使用をおすすめします。 |
| ◑ 0 標準 | 標準的なコントラストです。暗いシーンから明るいシーンまで、さまざまな撮影状況を再現します。 |
| ◑-2 コントラスト弱め | コントラストを弱めにして、軟調な画像に仕上げます。晴天時の人物撮影や、顔などの白飛びが気になる場合に適しています。 |
| ◑-1 コントラストやや弱め | コントラストをやや弱めにして、標準よりもやや軟調な画像に仕上げます。 |
| ◑+1 コントラストやや強め | コントラストをやや強めにして、標準よりもやや硬調な画像に仕上げます。 |
| ◑+2 コントラスト強め | コントラストを強めにして、硬調な画像に仕上げます。霞んだ遠景を撮影する場合などに適しています。 |
| ◑✎ ユーザーカスタム | 別売のNikon Capture 4（Ver.4.1以降）でユーザー定義し、カメラにダウンロードしたトーンカーブを使用します。出荷時のトーンカーブは標準に設定されています。 |

### 階調補正についてのご注意

階調補正を**A**（オート）に設定して撮影する場合、撮影画像を使用して最適なコントラストに設定します。同じようなシーンを撮影する場合でも、被写体の位置、大きさ、または露出が変わると、コントラストが変化することがあります。コントラストを固定して撮影したい場合には、**A**（オート）以外の設定を選択することをおすすめします。

## カラー設定

記録する画像の色再現を設定します。フィルムカメラでは好みの色調に応じてフィルムを選択しますが、D70では、カラーモードの選択により色相、彩度、色域を特徴づけることができます。

| 設定 | | 内容 |
|---|---|---|
| I | モードIa (sRGB)（初期設定） | 記憶色を重視した色再現です。画像調整などを行わなくても記憶色（特に肌色）をきれいに再現します。sRGB色空間に対応しています。 |
| II | モードII (AdobeRGB) | 素材性を重視した色再現です。sRGBに比べて色域が広いため、画像調整のしやすい画像が得られます。撮影した画像を積極的に調整、加工する場合に最適です。AdobeRGB色空間に対応しています。 |
| III | モードIIIa (sRGB) | 記憶色を重視した色再現で、風景撮影に適したモードです。画像調整などを行わなくても緑や青空などの色を鮮やかに再現します。sRGB色空間に対応しています。 |

### カラーモードについてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、モードIaまたはモードIIIaをおすすめします。
- モードIIの画像をAdobe Photoshopなどのカラーマネジメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合は、AdobeRGB色空間を設定してください。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- ExifPrint、市販プリンタなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、モードIaまたはモードIIIaをおすすめします。モードIIで記録した画像でも、市販プリンタなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度の低下する場合があります。

### PictureProjectまたはNikon Capture 4をご使用の場合

PictureProjectまたはNikon Capture 4（Ver.4.1以降）をご使用になると、正しい色空間での処理が自動的に行われます。

## *彩度設定*

記録する画像の色の鮮やかさを設定します。

| 設定 | | 内容 |
|---|---|---|
| 0 | 標準（初期設定） | 標準的な彩度に調整します。通常の撮影ではこの設定をご使用になることをおすすめします。 |
| − | 弱め | 彩度を抑えます。画像をパソコンでレタッチする場合などに適しています。 |
| ＋ | 強め | 彩度を鮮やかにします。画像をプリンタで直接出力する場合に適しています。 |

## *色合い調整*

記録する画像に対して色相の調整が可能です。色合い調整の数値は約－9°～約＋9°（1ステップ約3°）の7段階で、0°が初期設定です。肌色を基準とした場合、＋側に数値を高くすると黄色みが増し、－側に数値を低くすると赤みが増します。他の色の場合、調節の度合いにより多少変化することがあります。

### 色相とは

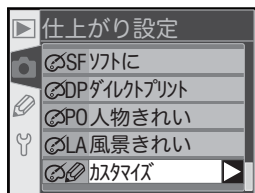
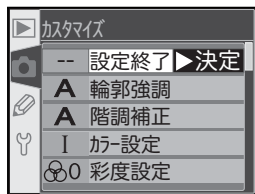
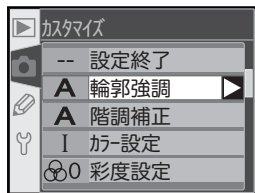
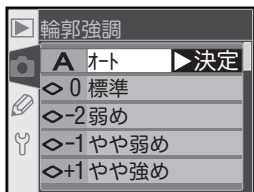
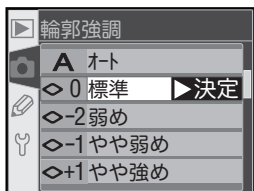
光の3原色（赤、緑、青）のうち、2色の光を組み合わせると、さまざまな色を作り出すことができます。例えば、赤い光と緑の光の分量を変えて混ぜ合わせた場合の色の変化を見ると、次のようになります。

| 赤の光のみ | 赤の光多め | 赤と緑が同量 | 緑の光多め | 緑の光のみ |
|---|---|---|---|---|
| 赤 | オレンジ色 | 黄色 | 黄緑色 | 緑色 |

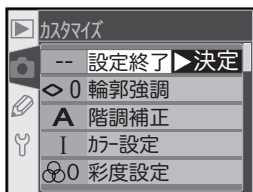
同様に、赤の光と青の光を混ぜ合わせた場合は、赤紫色～ピンク色～紺色に変化します。また、緑の光と青い光を混ぜ合わせた場合は、エメラルド色～水色と変化します。これらの色を順番に環状に並べたものを色相、あるいは色相環といいます。
2色以外の3番目の色を混ぜ合わせると、だんだんと色が薄くなっていきます。3つの色が同量になると、色はなくなって無彩色となり、白またはグレーになります。

## *仕上がり設定のカスタマイズ方法*

仕上がりの設定のカスタマイズは撮影メニューの「**仕上がり設定**」から「 **カスタマイズ**」を選択して行います。

**1** 撮影メニュー画面（P.160）から「**仕上がり設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。

**2** 仕上がり選択画面が表示されますので、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「 **カスタマイズ**」を選択します。

**3** マルチセレクターの▶を押すと、カスタマイズ画面が表示されます。

**4** マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**輪郭強調**」、「**階調補正**」、「**カラー設定**」、「**彩度設定**」、「**色合い調整**」のうち、設定する項目を選択します。

**5** マルチセレクターの▶を押すと、選択した項目の設定画面が表示されます。

**6** マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する内容を選択します。

**7** マルチセレクターの▶を押すと、カスタマイズ画面（手順3）に戻ります。

- 手順4～7を繰り返して、変更するすべての項目を設定します。

**8** カスタマイズ画面でマルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**設定終了**」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、撮影メニュー画面に戻ります。

# 撮影動作モード



撮影動作を S（1コマ撮影）、連続撮影アイコン（連続撮影）、セルフタイマーアイコン（セルフタイマー撮影）、2秒リモコンアイコン（2秒リモコン撮影）、瞬時リモコンアイコン（瞬時リモコン撮影）から選択できます。

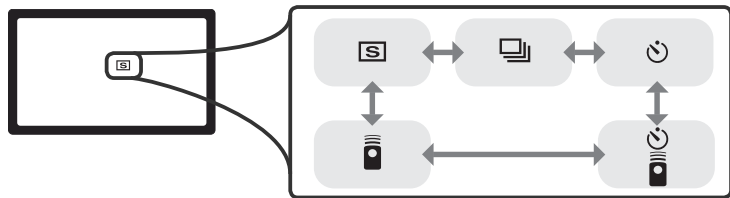
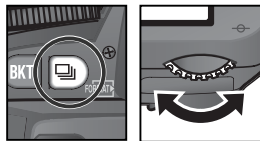
| 撮影動作モード | 内容 |
|---|---|
| S 1コマ撮影 | シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影と記録が行われ、記録中はアクセスランプが点灯します。バッファメモリに空き容量がある場合は、すぐに次の撮影が可能です。 |
| 連続撮影 | シャッターボタンを押し続けると、約3コマ/秒※で連続して撮影が行えます。連続して撮影できるコマ数は、画質モードと画像サイズによって右のようになります。また、CFカードへの記録が終わったコマ数分だけ、引き続き次の撮影が行えます。（下表参照） |
| セルフタイマー撮影 | シャッターボタンを押すことによる手ブレを軽減したい場合や、撮影者自身も被写体として加わりたいような場合は、セルフタイマー撮影が行えます（P.128）。 |
| 2秒リモコン撮影 | リモコンML-L3（別売）によるシャッターボタンの遠隔操作を行います。リモコンの送信ボタンを押すと、ピント合わせを行ってから約2秒後に撮影を行います（P.130）。記念写真など、リモコンを操作した撮影者自身が写真に写る場合に、自然な体勢に整えることができます。 |
| 瞬時リモコン撮影 | リモコンML-L3（別売）によるシャッターボタンの遠隔操作を行います。リモコンの送信ボタンを押すと、ピント合わせを行ってからすぐに撮影を行います（P.130）。シャッターボタンを押すことによる手ブレを防止したいときなど、シャッターチャンスを優先しつつカメラに直接触れずに撮影を行うことができます。 |

| 画質モード | 画像サイズ | 連続撮影可能コマ数 |
|---|---|---|
| RAW | — | 4 |
| FINE | L | 9 |
|  | M | 7 |
|  | S | 19 |
| NORMAL | L | 12 |
|  | M | 7 |
|  | S | 27 |
| BASIC | L | 19 |
|  | M | 7 |
|  | S | 49 |
| RAW＋BASIC | L | 4 |

※ 連続撮影速度は、フォーカスモード**M**、撮影モードダイヤルを**M**にセット、1/250秒以上の高速シャッタースピード、ノイズ除去がOFFの時の値です。

### 連続撮影時の構図の縦位置・横位置情報について（P.203）

連続撮影時の構図の縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。

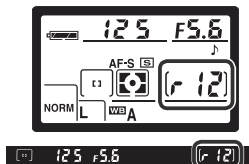
撮影動作モードを設定するには、撮影動作モードボタン [連続撮影アイコン] を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して使用する撮影動作モードを表示パネルに表示させます。

## 連続撮影時の記録時間

- 記録時間の目安は次のとおりです（LEXAR MEDIA社製CFカード 40X WA USBシリーズ使用時）。
  画質モードRAW ：約6秒（4コマ）
  画質モードNORMAL、画像サイズL ：約9秒（12コマ）
- 連続撮影終了直後にCFカードアクセスランプが点灯している間は、カメラ本体からCFカードを取り出さないでください。CFカード、画質モード、画像サイズによっては、時間がかかります。
- データ書き込み中にカメラ本体からCFカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラ本体とCFカードに不具合が生じるおそれがあります。
- CFカードアクセスランプ点灯中に電源スイッチをOFFにすると、**撮影済みのすべての画像が記録されてから電源が切れます。**
- 連続撮影時にバッテリーの残量がなくなった場合は、新たな撮影動作は行われず、バッファメモリ内の画像データがCFカードに記録されて終了します。
- マイクロドライブを使用すると、まれに書き込み速度が低下することがあります。

## 各画質モードでの撮影可能コマ数表示について

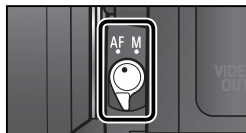
表示パネルやファインダー内に表示される撮影可能コマ数は、おおよその目安です。撮影条件によりファイルサイズが異なるため、撮影コマ数が増減します。

## 連続撮影可能コマ表示について

シャッターボタンを押し続けている間、または半押ししている間、連続撮影可能なコマ数が表示パネルとファインダー内に表示されます。画質モードがNORMAL、画像サイズがLの場合、連続撮影可能コマ数は12から始まり、1コマずつカウントダウンします。ただし、CFカードの残りメモリ容量によっては、12コマより少なくなることもあります（S［1コマ撮影］モード時には、繰り返し撮影が可能なコマ数が表示されます）。

# フォーカス

フォーカスモード、フォーカスエリア、AFエリアモードを設定することにより、カメラのフォーカス（ピント合わせ）機能をコントロールします。

## フォーカスモード

フォーカスモードセレクトダイヤルを**AF**（オートフォーカス）にセットして、シャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内の被写体に自動的にピントを合わせます。また、**M**（マニュアルフォーカス）にセットして、撮影者自身がレンズの距離リングを回してピントを合わせることもできます。

| フォーカスモード | 内容 |
| --- | --- |
| **AF**<br>オートフォーカス | シャッターボタンの半押しを続けると、カメラがフォーカスエリア内の被写体に自動的にピントを合わせます。<br>• フォーカス優先のシングルAFサーボ（AF-S：P.167）に設定されている場合、**ファインダー内のピント表示●が点灯しているときのみシャッターがきれます**。ピントが合うとファインダー内のピント表示●が点灯して電子音が鳴ります。ピントが合った状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック：P.80）されます。ただし、被写体が初めから動いている場合には予測駆動フォーカス（P.75）に切り替わり、被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断するとシャッターがきれる状態になります。シャッターをきる前に被写体が静止した場合は、ピント表示●が点灯して、ピントはそこでロックされます。<br>• レリーズ優先のコンティニュアスAFサーボ（AF-C：P.167）に設定されている場合、**ファインダー内のピント表示●が点灯／消灯にかかわらずシャッターをきることができます**。ピントが合うとファインダー内のピント表示●が点灯しますが、いったんファインダー内のピント表示●が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。また、シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカス（P.75）に切り替わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。 |

| フォーカスモード | 内容 |
|---|---|
| **M**<br>マニュアル<br>フォーカス | 撮影者自身がレンズの距離リングを回してピントを合わせるモードです。開放絞り値がf/5.6よりも明るいレンズを装着すると、ファインダー内のピント表示●によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」(P.85) が行えます。また、フォーカス表示の点灯／消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができます。 |

カメラで自動的にピントを合わせる場合は**AF**（オートフォーカス）に、オートフォーカスに対応していないレンズを使用している場合や、オートフォーカスでピント合わせができない場合は**M**（マニュアルフォーカス）にセットしてください。

### 予測駆動フォーカスについて

フォーカスモードセレクトダイヤルを**AF**（オートフォーカス）にセットして、シャッターボタンの半押しを続けてピント合わせを行っているとき、動いている被写体をカメラが認識すると、自動的に予測駆動フォーカスに切り替わります。予測駆動フォーカス作動時は被写体がカメラに向かって近づいてくる場合や、遠ざかっていく場合に、シャッターがきれる時点での被写体の到達位置を予測しながらピントを追い続けます。シングルAFサーボ（AF-S：P.167）の場合は、初めから動いている被写体には予測駆動フォーカスが作動し、被写体が静止した時点で、ピントがロックされます。コンティニュアスAFサーボ（AF-C：P.167）の場合は、途中から動き出した被写体に対しても予測駆動フォーカスに切り替わり、被写体が静止してもピントがロックされることはありません。

### CSM 2：AFモードの選択（P.167）

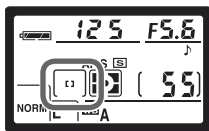
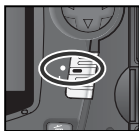
セットされている撮影モードダイヤルの位置にかかわらず、フォーカス優先（シングルAFサーボ、AF-S）またはレリーズ優先（AF-C、コンティニュアスAFサーボ）の選択が可能です。

## フォーカスエリアの選択

このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする５つのフォーカスエリアがあります。撮影時には、被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロック (P.80) の手間を省くことができます。

- フォーカスモードが**AF**（オートフォーカス）で、至近優先ダイナミックAF (P.168) が設定されている場合は、フォーカスエリアは選択できません。撮影モードダイヤルを AUTO 、、、、、 にセットして、フォーカスエリアの選択を行う場合は、カスタムセッティング３「**AFエリアモード設定**」(P.168) で「**シングル**」または「**ダイナミック**」を選択してください。

### *フォーカスエリアを選択するには*

- フォーカスエリアロックスイッチを●マーク側にスライドさせてロックを解除すると、マルチセレクターがフォーカスエリアセレクターとして機能します。

- 撮影モード時には、マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押してフォーカスエリアを選択します。
- 選択されたフォーカスエリアはファインダー内で点灯し、被写体が暗い場合には瞬間的に赤色に自動照明（バリブライトフォーカスエリア：P.8）されます。また、表示パネルとファインダー内表示にも選択されたフォーカスエリアが表示されます。
- フォーカスエリアを選択した後にフォーカスエリアを選択した位置に固定したい場合、フォーカスエリアロックスイッチを **L** マーク側にスライドさせてロックできます。

#### フォーカスエリアの選択について

液晶モニタで画像再生中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアを選択できません。

## CSM 3：AFエリアモード設定（P.168）

（P.168）

オートフォーカスでピントを合わせる場合のAFエリアモードを、次の中から選択することができます。

| AFエリアモード | 内容 |
| --- | --- |
| **シングル**（撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**、にセットした場合の初期設定） | 撮影者が選択した１つのフォーカスエリアのみでピントを合わせるシングルエリアAFになります。シャッターボタンの半押し、またはマルチセレクターでフォーカスエリアを選択すると、選択したフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）されます。撮影モードダイヤルを にセットすると、自動的にこのAFエリアモードに設定されます。 |
| **ダイナミック** | 複数のフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。撮影者が選択した１つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的にはずれた場合でも、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。シャッターボタンの半押し、またはマルチセレクターでフォーカスエリアを選択すると、選択したフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）されます。 |
| **至近優先ダイナミック**（撮影モードダイヤルを AUTO、、、、、 にセットした場合の初期設定） | ５つのフォーカスエリアのうち、一番手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用して自動的にピントを合わせ、ピントが合うとピントを合わせたフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）されフォーカスロックされます。撮影モードダイヤルを AUTO、、、、、 にセットすると、自動的にこのAFエリアモードに設定されます。 |

## CSM 17：フォーカスエリア循環（P.179）

マルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

## CSM 18：フォーカスエリア照明（P.180）

通常、ファインダー内のフォーカスエリアは、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを、被写体の明るさに応じて見やすいように瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさに関係なく照明するように変更できます。

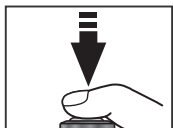
## オートフォーカス

オートフォーカスで撮影する場合、カスタムセッティング2「**AFモードの選択**」(P.167) とカスタムセッティング3「**AFエリアモード設定**」(P.168) の設定を、撮影意図に合わせて次のように組み合わせることができます。

| AFモードの選択 | AFエリアモード設定 | 表示パネル | ファインダー内表示 | フォーカスエリア（ファインダー内/表示パネル上）の表示 | フォーカスエリアの選択 |
|---|---|---|---|---|---|
| AF-S | シングル | | | 点灯 | 手動 |
| | ダイナミック | | | 点灯 | 手動 |
| | 至近優先ダイナミック | | | 消灯 | 自動 |
| AF-C | シングル | | | 点灯 | 手動 |
| | ダイナミック | | | 点灯 | 手動 |
| | 至近優先ダイナミック | | | 消灯 | 自動 |

| ピント合わせの動作 | 次のような被写体に便利です |
|---|---|
| 撮影者が選択したフォーカスエリアだけを使用してピントを合わせます。ピントが合うと電子音が鳴り、シャッターボタンを半押ししている間はフォーカスロックされます。 | 静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。 |
| 撮影者が選択したフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合うと電子音が鳴り、シャッターボタンを半押ししている間はフォーカスロックされます。ただし、ピントが合う前に選択したフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。 | 静止被写体を撮影する場合など、一般的な撮影に便利です。 |
| 5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合うと電子音が鳴り、ピントを合わせたフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）され、フォーカスロックされます。ピントが合う前にピントを合わせているフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。 | スナップ写真などピント合わせをカメラまかせにして、気軽に撮影する場合に便利です。 |
| 撮影者が選択したフォーカスエリアだけを使用してピントを合わせます。ピントが合ってもフォーカスロックされず、シャッターをきるまでピントを合わせ続けます。 | モータースポーツや陸上競技などで、１つのフォーカスエリアでとらえ続ける場合に便利です。 |
| 撮影者が選択したフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合ってもフォーカスロックされません。選択したフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。 | 被写体の動きを予想しづらく、1つのフォーカスエリアでとらえ続けることが困難な場合に便利です。 |
| 5つのフォーカスエリアのうち、自動的にいちばん手前にある被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してピントを合わせます。ピントが合うと、ピントを合わせたフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）されますが、フォーカスロックされません。ピントを合わせているフォーカスエリアから被写体がはずれると、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。 | 動きのある被写体を、ピント合わせはカメラまかせにして、気軽に撮影する場合に便利です。 |

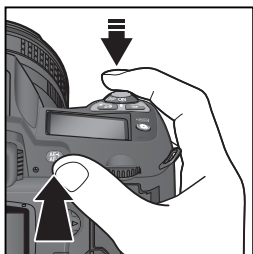
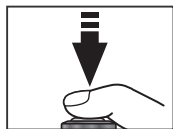
## フォーカスロック撮影

オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物や物など）が５つのフォーカスエリアのいずれからもはずれる構図の場合に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体（P.83）にも有効です。

**1** ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと、ピント表示●が点灯します。

**2** ピント表示●が点灯したら、フォーカスロックを行います。

**シャッターボタン半押しによるフォーカスロック**

シャッターボタンを半押ししたままにすると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

**AE/AFロックボタン AE-L/AF-L によるフォーカスロック**

シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

- シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押している間はフォーカスロックされます。また、AEロック（P.98）も同時に行われます。

**3** フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。

- フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後もシャッターボタンから指を離さずに再度シャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。AE/AFロックボタン AE-L AF-L でフォーカスロックした場合は、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押したまま再度シャッターボタンを押せば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。
- ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンやAE/AFロックボタン AE-L AF-L から指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

### AFエリアモードの設定について

フォーカスロックを行う場合は、カスタムセッティング3「**AFエリアモード設定**」(P.168) を「**シングル**」または「**ダイナミック**」に設定して撮影することをおすすめします。

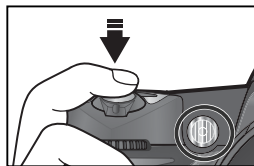
### AF-Cでのフォーカスロックについて

カスタムセッティング2「**AFモードの選択**」(P.167) を「**AF-C**」に設定している場合、シャッターボタンの半押しによるフォーカスロックは行われず、シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントを合わせ続けます。フォーカスロックを行う場合はAE/AFロックボタン AE-L AF-L を押してください。なお、撮影モードダイヤルを（スポーツ）にセットすると、自動的に「**AF-C**」に設定されます（セット後にカスタムセッティング2で変更可能です）。

### CSM 15：AE/AFロックボタン (P.178)

AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押したときに、AFロックだけ行われるように変更できます。また、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押し続けると、オートフォーカスが作動するように変更できます。

### AF補助光について

このカメラはAF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。なお、撮影モードダイヤルが（風景）、（スポーツ）、（夜景）にセットされている場合は、撮影状況にかかわらず、AF補助光の照射は行われません。

- AF補助光は、次の条件を満たしているときに、自動的に照射を行います。
  カスタムセッティング2「**AFモードの選択**」（P.167）が「**AF-S**」（シングルAFサーボ、初期設定）で、AFレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態かまたは至近優先ダイナミックAF時
- 使用可能なAFレンズの焦点距離は24～200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5～3mです。
- ケラレを防止するために、AF補助光使用時は、レンズフードを取り外してください。
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AFマイクロED 200mm f/4D
  - ・AF-S DX ED 12～24mm f/4G
  - ・AF-S ED 17～35mm f/2.8D
  - ・AF ED18～35mm f/3.5～4.5D
  - ・AF-S DX 18～70mm f/3.5～4.5G
  - ・AF20～35mm f/2.8D
  - ・AF ED 24～85mm f/2.8～4D
  - ・AF-S ED 24～85mm f/3.5～4.5G
  - ・AF-S VR ED 24～120mm f/3.5～5.6G
  - ・AF24～120mm f/3.5～5.6
  - ・AF ED 28～200mm f/3.5～5.6G
  - ・AFマイクロED 70～180mm f/4.5～5.6
- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離2m以内ではAF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - ・AF-S ED 28～70mm f/2.8D
  - ・AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G (IF)
- AF-S VR ED 70～200mm f/2.8G、AF-S ED 80～200mm f/2.8D、AF ED 80～200mm f/2.8D、AF VR ED 80～400mm f/4.5～5.6D、AF-S VR ED 200～400mm f/4GはAF補助光を使用したオートフォーカス撮影は行えません。
- 別売スピードライトSB-800、SB-600を使用して撮影した場合、アクティブ補助光の発光条件が満たされると、別売スピードライト側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。その他の別売スピードライトでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

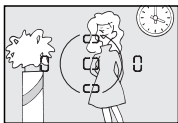
### AF補助光の連続使用について

AF補助光を連続して使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

### CSM 4：内蔵AF補助光（P.170）

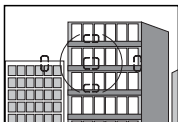
AF補助光の照射を禁止することができます。

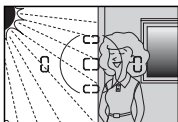
## *オートフォーカスの苦手な被写体について*

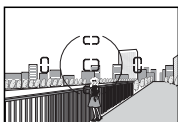
次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、フォーカスモードを**M**（マニュアルフォーカス；P.84）に切り換えてピントを合わせるか、フォーカスロック（P.80）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。

**明暗差がはっきりしない場合**

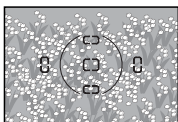
（白壁や背景と同色の服をきている人物など）

**フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体**

（オリの中の動物や木の前の人物など）

**連続した繰り返しパターンの被写体**

（ビルの窓など）

**フォーカスエリア内の被写体の輝度差が著しく異なる場合**

（太陽が背景に入った日陰の人物など）

**フォーカスエリアに対して主要被写体が小さい場合**

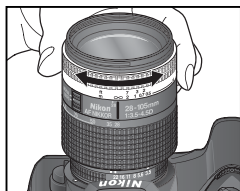
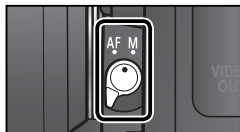
（フォーカスエリア内に遠くの建物と近くの人物が混在する被写体など）

**絵柄がこまかい場合**

（一面の花畑など、被写体が小さいか、明暗差が少ない被写体など）

## マニュアルフォーカス

### マニュアルフォーカス（手動）によるピント合わせ

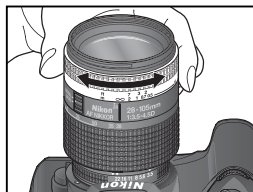
フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にセットすると、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

- フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。ピント表示●の点灯・消灯にかかわらず、シャッターをきることができます。オートフォーカスが苦手な被写体（P.83）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズ装着時にご使用ください。
- A-M切り換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにしてください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側はM/AまたはMのどちらにセットしてもフォーカスが可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。

#### 距離基準マークについて

距離基準マーク ⊖ は撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。マニュアルフォーカスや接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mmです。

## フォーカスエイドによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットしたとき、開放絞りがf/5.6以上の明るいレンズ（絞りの一番小さい数値がf/5.6以下のレンズ）を装着すると、ファインダー内のピント表示●によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

- シャッターボタンを半押しして、半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回し、ピントを合わせたい物を選択しているフォーカスエリアを重ねて、ピント表示●を点灯させます。シャッターは、いつでもきることができます。また、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます(P.76)。

## 測光モード

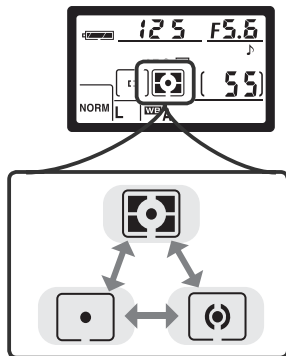
3つの測光モードから、被写体の光の状況に最適な測光モードを選択することができます。測光モードは、撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合のみ撮影者が選択することができます。デジタルイメージプログラムでは、マルチパターン測光に固定されます。

- CPUレンズ以外では測光できません。

| 測光モード | 内容 |
|---|---|
| 3D-RGB マルチパターン測光 ・ RGB マルチパターン測光 | このカメラは「3D-RGBマルチパターン測光」を採用しています。この測光方式は、1005分割RGBセンサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定します。特に明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が、画面全体を大きく占めているような場合に威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。ただし、GまたはDタイプ以外のCPUレンズ装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGBマルチパターン測光となります。<br>• AEロック（P.98）や露出補正（P.101）を行うときは、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。 |
| 中央部重点測光 | ファインダー中央部（直径φ8mmの内側）を重点的に測光して露出値を決定しますので、ファインダー内のφ8mmの円を参考に測光範囲を決定してください。 |
| スポット測光 | 「スポット測光」はフォーカスエリアに重なるφ2.3mm相当（全画面の約1%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しいときなど、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準にして撮影したい場合に適しています。<br>• 測光エリアは、選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、マルチセレクターを操作して測光エリアを変えることができます。<br>• 至近優先ダイナミックAFモード時（P.168）は、中央のフォーカスエリアに相当する部分を測光します。 |

### 露出倍数のかかるフィルターの使用について

露出倍数のかかるフィルター（P.236）を使用する場合、3D-RGBマルチパターン測光、またはマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。

測光モードを設定するには、測光モードボタン [icon] を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して使用する測光モードを表示パネルに表示させます。

### CSM 11：中央測光範囲（P.176）

中央部重点測光時の測光範囲の直径をφ6mm、φ8mm、φ10mm、φ12mmのいずれかに変更できます。

## 露出モード

このカメラでは、**P**（マルチプログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）の４つの露出モードが選択できます。

## P：マルチプログラムオート

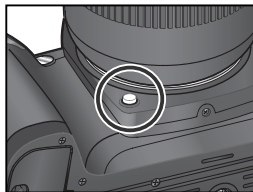
マルチプログラムオート時は、プログラム線図 (P.90) にしたがって、シャッタースピードと絞りが自動的に制御され、適正露出が得られます。マルチプログラムオートは、スナップ撮影など迅速な対応が必要な撮影に適しています。プログラムシフト、オートブラケティング (P.103)、露出補正 (P.101) などを併用すると、より高度な撮影が楽しめます。

- マルチプログラムオートは CPU レンズ装着時のみ撮影できます。

1 撮影モードダイヤルを**P**にセットします。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

### 被写界深度のプレビュー

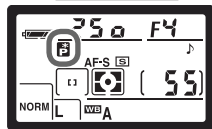
プレビューボタンを押し続けると、撮影モードダイヤルがデジタルイメージプログラム、**P**（マルチプログラムオート）、**S**（シャッター優先オート）にセットされているときは制御される絞りまで、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）にセットされているときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。プレビューボタンは、CPUレンズを装着した場合にのみ作動します。**非CPUレンズを装着した場合は作動しません。**

### レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

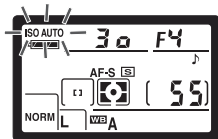
### 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着した場合、表示パネルとファインダー内の絞り値表示部に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル：P.95）にセットして、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（P.226）をご覧ください。

### プログラムシフトについて

**P**（マルチプログラムオート）で撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、**P**（マルチプログラムオート）にセットしたままシャッター優先オートや、絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク P* が点灯します。解除する場合は、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、撮影モードダイヤルを切り換える、電源スイッチをOFFにする、内蔵スピードライトをポップアップさせるか収納する（P.114）、カスタムセッティング9「**露出値ステップ幅**」の設定を変更する、ツーボタンリセット（P.135）のいずれかを行います。

### 5：感度自動制御（P.171）

**P**（マルチプログラムオート）で「**感度自動制御**」を「**ON**」にすると、設定している撮像感度でカメラの露出制御範囲を超えた場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。被写体が暗い場合、設定した低速側シャッタースピードでも露出が不足すると、自動的に撮像感度を変更します（ISO1600に変更されても露出が不足すると、指定した低速側シャッタースピードよりも低速になる場合があります）。スピードライト使用時も、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。感度自動制御が機能しているときは、表示パネルおよびファインダー内のISO AUTOが点滅します。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時（P.140）に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

## 露出警告表示について

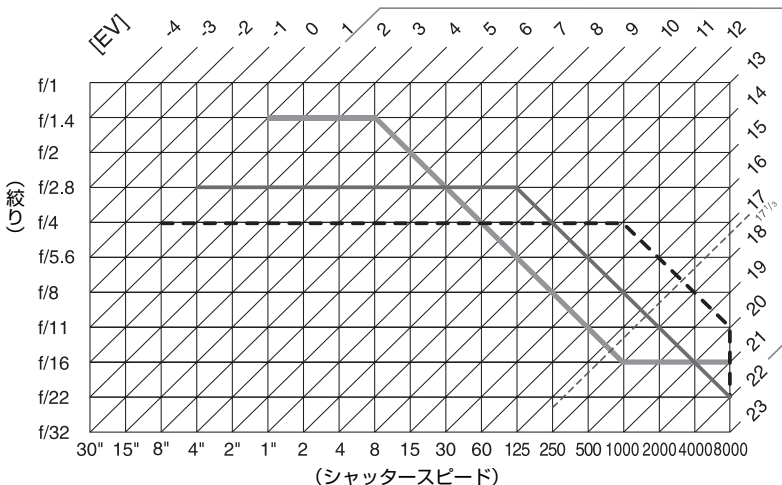
次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

**HI**: 被写体が明るすぎます。別売のND（光量調節用）フィルターをご使用ください。また、撮像感度（ISO）が高く設定されている場合は、低く設定してください。

**Lo**: 被写体が暗すぎます。スピードライトを使用してください。また、撮像感度（ISO）が低く設定されている場合は、高く設定してください。

また、被写体が暗かったり逆光の場合は、ファインダー内表示のレディライト ⚡ が点滅して、スピードライトの使用を推奨します（カスタムセッティング20「**SB推奨表示**」(P.184) を「**OFF**」に設定している場合、レディライト ⚡ は点滅しません)。

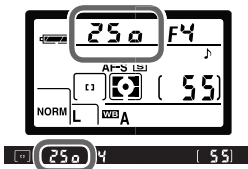
## プログラム線図について

プログラム線図はマルチプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです（ISO200の場合）。

- 撮像感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。
- マルチパターン測光では、ISO200の場合 $17^1/_3$ を超えるEV値は、すべて $17^1/_3$ として制御されます。

## S：シャッター優先オート

撮影者が好みのシャッタースピード（30秒〜1/8000秒）をセットすると、カメラが自動的に絞りを決定します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

- シャッター優先オートはCPUレンズ装着時のみ撮影が行えます。

1 撮影モードダイヤルを**S**にセットします。

2 メインコマンドダイヤルで好みのシャッタースピード（30秒〜1/8000秒）をセットします。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

### bulb／- -が点滅した場合について

撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル）にセットして bulb（バルブ）、- -（タイム）にセットした後、bulb、- -を解除しないで**S**（シャッター優先オート）にセットすると、bulb、- -表示が点滅してシャッターはきれません。**S**で撮影する場合はメインコマンドダイヤルを回して bulb、- -以外のシャッタースピードにセットしてください。

### レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

## 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着した場合、表示パネルとファインダー内の絞り値表示部に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、露出モードを**M**（マニュアル：P.95）にセットして、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（P.226）をご覧ください。

## 露出警告表示について

次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

- H i：被写体が明るすぎます。シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、撮像感度（ISO）が高く設定されている場合は、低く設定してください。
- L o：被写体が暗すぎます。シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合はスピードライトを使用してください。また、撮像感度（ISO）が低く設定されている場合は、高く設定してください。

また、被写体が暗かったり逆光の場合は、ファインダー内表示のレディライト ϟ が点滅して、スピードライトの使用を推奨します（カスタムセッティング20「**SB推奨表示**」（P.184）を「**OFF**」に設定している場合、レディライト ϟ は点滅しません）。

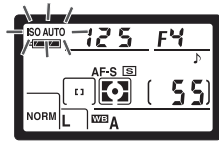
## 手ブレについて

手ブレを防ぐには、一般にシャッタースピードを「1/装着しているレンズの焦点距離」秒より高速にします。たとえば300mmレンズの場合、シャッタースピードを1/300秒より高速にすると手ブレをある程度防ぐことができます。被写体が暗い場合、露出モードによってはシャッタースピードが低下して手ブレのおそれがあります。このような場合は、撮像感度を上げるか、スピードライト（P.112）の使用をおすすめします。シャッタースピードを低速にしたい場合は、三脚またはVRレンズの使用をおすすめします。

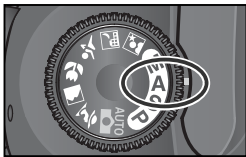
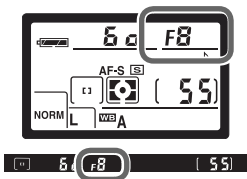
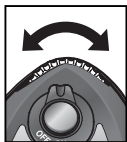
## 5：感度自動制御（P.171）

**S**（シャッター優先オート）で「**感度自動制御**」を「**ON**」にすると、設定している撮像感度でカメラの露出制御範囲を超えた場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。スピードライト使用時も、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

感度自動制御が機能しているときは、表示パネルおよびファインダー内のISO AUTOが点滅します。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時（P.140）に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

## A：絞り優先オート

撮影者が絞り（最小絞り～開放絞り）をセットすると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲の変更も行えます（P.122）。

- 絞り優先オートはCPUレンズ装着時のみ撮影が行えます。

**1** 撮影モードダイヤルを**A**にセットします。

**2** サブコマンドダイヤルで好みの絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

- セットできる最小絞り、開放絞りはレンズの種類によって異なります。

**3** 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

### レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

### 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着した場合、表示パネルとファインダー内の絞り値表示部に F-- が点滅し、シャッターがきれません。この場合、撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル：P.95）にセットして、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計は使用できません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（P.226）をご覧ください。

## 露出警告表示について

次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

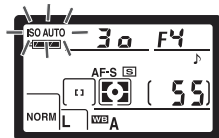
**H I**: 被写体が明るすぎます。より大きな数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合は、別売のND（光量調節用）フィルターを使用してください。また、撮像感度（ISO）が高く設定されている場合は、低く設定してください。

**L o**: 被写体が暗すぎます。より小さい数値の絞りにセットして、それでも警告表示が消えない場合はスピードライトを使用してください。また、撮像感度（ISO）が低く設定されている場合は、高く設定してください。

また、被写体が暗かったり逆光の場合は、ファインダー内表示のレディライト ϟ が点滅して、スピードライトの使用を推奨します（カスタムセッティング20「**SB推奨表示**」（P.184）を「**OFF**」に設定している場合、レディライト ϟ は点滅しません）。

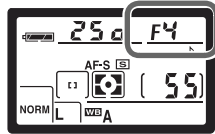
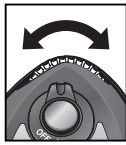
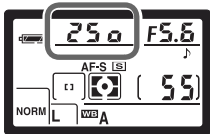
## CSM 5：感度自動制御（P.171）

**A**（絞り優先オート）で「**感度自動制御**」を「**ON**」にすると、設定している撮像感度でカメラの露出制御範囲を超えた場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。被写体が暗い場合、設定した低速側シャッタースピードでも露出が不足すると、自動的に撮像感度を変更します（ISO1600に変更されても露出が不足すると、設定した低速側シャッタースピードよりも低速になる場合があります）。スピードライト使用時も、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。感度自動制御が機能しているときは、表示パネルおよびファインダー内のISO AUTOが点滅します。

感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時（P.140）に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

## M：マニュアル

シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/8000秒）と絞り（最小絞り～開放絞り）を、撮影者が自由にセットできるので、表示パネルまたはファインダー内表示の露出インジケータを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

**1** 撮影モードダイヤルを**M**にセットします。

**2** 露出インジケータ（次ページ参照）を確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。

- シャッタースピード（bulbおよび30秒～1/8000秒）はメインコマンドダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらが先でもかまいません）。
- シャッタースピードを bulb にセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります。

**3** 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

### レンズの絞りリングについて

CPUレンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞り（最大値）にセットされていない場合、表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。

### レディライトの点滅について

被写体が暗い場合には、ファインダー内表示のレディライト ϟ が点滅して、スピードライトの使用を推奨します（カスタムセッティング20「**SB推奨表示**」（P.184）を「**OFF**」に設定している場合、レディライト ϟ は点滅しません）。

### 長時間露出（バルブ、タイム）について

シャッタースピードを bulb にセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります。ただし、シャッタースピードを長秒時（約1秒よりも低速）にセットして撮影を行った場合は、ノイズにより多少ザラついた画像になります。このノイズは撮影メニュー「**ノイズ除去**」（P.161）により低減することができます。長時間露出を行う場合は、残容量が充分にあるバッテリーをご使用ください。なお、2秒リモコン撮影、瞬時リモコン撮影時は、シャッタースピード表示部に - - が表示され、タイム露光（P.133）となります。

### 長時間露出時の電源について

シャッタースピードを bulb にセットして長時間露出撮影する場合は、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したEN-EL3またはACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします。

### 非CPUレンズを取り付けた場合

非CPUレンズを装着した場合、表示パネルとファインダー内の絞り値表示部に F- - が点灯します。絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行って撮影してください。ただし、カメラの露出計およびプレビューボタンは使用できません。また、感度自動制御は作動しません。詳細は「装着可能なレンズおよび使用可能な機能」（P.226）をご覧ください。

### 露出インジケータについて

バルブ、タイム露光、非CPUレンズ装着時を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。ファインダー内表示の露出インジケータの見方は次のとおりです。

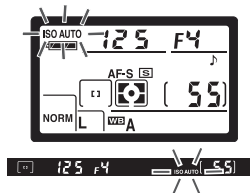
| 露出値のステップが1/3段の場合 | 露出値のステップが1/2段の場合 |
|---|---|
| 適正露出の場合<br>+. . 0 . .− | 適正露出の場合<br>+. . . 0 . . .− |
| 1/3段アンダーの場合<br>+. . 0 . .− | 1/2段アンダーの場合<br>+. . . 0 . . .− |
| 2段以上オーバーの場合<br>+. . 0 . .− | 3段以上オーバーの場合<br>+. . . 0 . . .− |

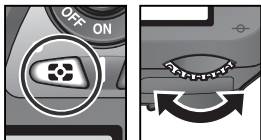
- 光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケータが点滅して警告します。

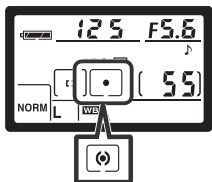
## CSM 5：感度自動制御（ P.171）

**M**（マニュアル）で「**感度自動制御**」を「**ON**」にすると、セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合に、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して、適正露出を得る（もしくは適正露出に近づける）ことができます。感度自動制御が機能しても適正露出が得られない場合は、適正露出とのズレの量が露出インジケータに表示されます。スピードライト使用時も、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。感度自動制御が機能しているときは、表示パネルおよびファインダー内のISO AUTOが点滅します。

AEブラケティングをさらに設定した場合、撮像感度を変化させて基準となる露出レベルを補正した上で、さらに撮像感度を補正ステップ分変化させます。

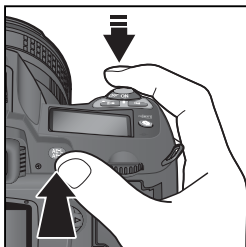
感度自動制御が機能して撮影された画像は、再生モードの撮影情報表示時（ P.140）に撮影感度値（ISO）が赤く表示されます。

## AEロック撮影

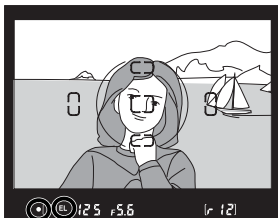
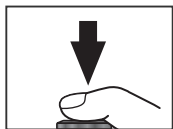
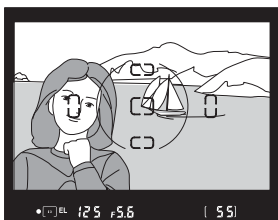
AEロック撮影は、撮影画面内の特に露出を合わせたい部分をスポット測光または中央部重点測光により測光し、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押してその露出をカメラに記憶させたまま、構図を変えて撮影する方法です。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なる場合などに便利です。撮影モードダイヤルは**M**（マニュアル）以外にセットしてください。

**1** 撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**にセットしている場合は、測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

- マルチパターン測光は充分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。なお、デジタルイメージプログラムでは、マルチパターン測光に固定されるため、AEロックをご使用の場合は、撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**にセットしてご使用になることをおすすめします。

### CSM 15：AE/AFロックボタン（P.178）

AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押した場合に、AEロックだけ行われるように変更できます。また、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、指を離してもAEロックの状態が保持され、再度AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すか、半押しタイマーのオフで解除されるように変更できます。

### CSM 16：半押しAEロック（P.179）

通常はAE/AFロックボタン AE-L AF-L を押した場合にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックが行われるように変更できます。

**2** シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押して、ピント表示●の点灯を確認します。

- AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押している間は、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません（ファインダー内表示にAEロック表示**EL**が点灯します）。
- スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する場合（P.86）は、露出を合わせたい部分に選択フォーカスエリアを重ねると、その部分の露出が記憶されます。
- 中央部重点測光にセットした場合は、選択しているフォーカスエリアにかかわらず、ファインダー中央部（φ8mmの内側）を重点的に測光した露出が記憶されます。
- フォーカスモードが**AF**（オートフォーカス）の場合、フォーカスロックも同時に行われますので、ピント表示●の点灯も確認してください。

**3** AE/AFロックボタン AE-L/AF-L を押したまま、構図を決めて撮影します。

### シャッタースピードと絞り値の変更

通常はAE/AFロックボタン を押している間も次の操作ができます。

| 露出モード | 操作 |
|---|---|
| **P**（マルチプログラムオート） | プログラムシフト（ P.89） |
| **S**（シャッター優先オート） | シャッタースピードの変更 |
| **A**（絞り優先オート） | 絞り値の変更 |

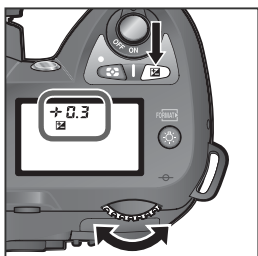
- いずれも、変更した後の露出表示にはそれぞれ制御されるシャッタースピード、絞り値が表示されます。
- AEロック中は、測光モードの切り換えはできません（AEロックを解除すれば切り換えることができます）。

## 露出補正

露出補正とは、カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、ハイキー（全体的に明るいトーン）、ローキー（全体的に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。**露出補正は撮影モードダイヤルがP、S、A、Mにセットされている場合に設定可能です**（ただし**M**の場合は、インジケータ表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）。デジタルイメージプログラムセットされている場合、露出補正は設定できません。

補正なし（露出補正ボタン を押したとき）

－0.3段補正

＋2段補正

**1** 露出補正ボタン 押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで±5段）をセットします。

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク が表示されます。ファインダー内表示には、露出インジケータが露出補正インジケータとして表示されます。その際、露出インジケータの「**0**」が点滅します。
- 補正量の確認は露出補正ボタン を押すことにより行えます。このとき補正量とともに、表示パネルに露出補正マーク が、ファインダー内表示には、＋側に補正した場合は が、－側に補正した場合は が表示されます。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

**2** 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 露出補正を解除する場合は、露出補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセット（P.135）を行ってください（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

## 9：露出値ステップ幅 (P.174)

露出補正のステップ幅を1/2段に変更できます。

## 10：簡易露出補正 (P.175)

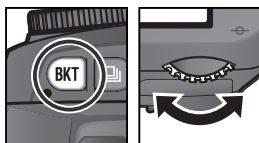
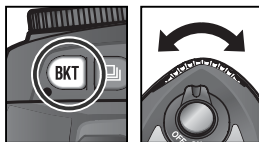
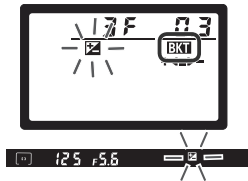
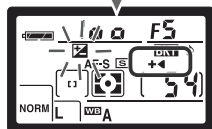
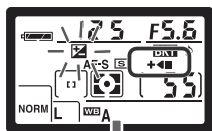
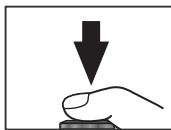
露出補正ボタン を使用せずに、コマンドダイヤル（メインおよびサブ）の操作だけで、露出補正が行えます。

## オートブラケティング

D70のオートブラケティングには大きく分けて、露出値をずらすAEブラケティング、主要被写体のTTL調光レベルをずらすSBブラケティング、色温度をずらすWB（ホワイトバランス）ブラケティングの3種類があります。**オートブラケティングは撮影モードダイヤルがP、S、A、Mにセットされている場合に設定可能です**。デジタルイメージプログラムにセットされている場合、オートブラケティングは設定できません。

| ブラケティングの 種類 | 内容 |
|---|---|
| AE ブラケティング | AEブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影コマ数（最大3コマ）と補正ステップで自動的に露出をずらして（露出補正なしで最大±2段）撮影します。 |
| SB ブラケティング | SBブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびに、セットした撮影コマ数（最大3コマ）と補正ステップで、自動的にスピードライトの光量をずらして（調光補正なしで最大±2段）撮影します。SBブラケティングはi-TTLモード調光時および絞り連動外部自動調光時に使用できます。 |
| WB ブラケティング | WBブラケティングは、1回の撮影で、設定したホワイトバランスに対してセットした撮影コマ数分（1回の撮影で最大3コマ）だけ自動的に色温度をずらして記録します。複数の光源が混在しているなど、ホワイトバランスの決定が難しい場合や、微妙な白の色味を好みで選びたいときなどに効果的です。**ただし、画質モードがRAWまたはRAWとBASICの同時記録の場合は使用できません**。 |

## *AE、SBブラケティングの設定*

**1** カスタムセッティング12「**オートBKTセット**」(P.176) でオートブラケティングを行う内容を、「**AE・SBブラケティング**」、「**AEブラケティング**」、「**SBブラケティング**」から選択します。

**2** オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルにブラケティングマーク BKT が表示され、表示パネルとファインダー内表示で露出補正マーク が点滅します。

**3** オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影コマ数と補正ステップ (P.106) をセットします。

AE・SB、AE、SBブラケティング時の表示パネル

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影中、シャッタースピードと絞りは補正された値が表示されます。
- 撮影動作モード（P.72）を S（1コマ撮影）にセットして撮影する場合、シャッターをきるたびに1コマずつ撮影されます。（連続撮影）にセットして撮影する場合は、シャッターボタンを押し続けると、オートブラケティングでセットしたコマ数が終了した時点でいったん自動的に停止します。
- 表示パネルのブラケティングバーグラフ（+◀■▶− ／ +◀■ ／ ■▶−）から、補正なしのコマの撮影時に ■ 、マイナス側のコマの撮影時に ▶− 、プラス側のコマの撮影時に +◀ のブロックがそれぞれ消灯します。
- AEブラケティングと露出補正（P.101）を同時にセットすると、両方の補正値が加算されたAEブラケティング撮影が行えます。

- AE･SB、AE、SBブラケティングの撮影途中にカスタムセッティング12「**オートBKTセット**」を「**WBブラケティング**」に変更した場合、残りのコマはキャンセルされます。
- AE・SB、AE、SBブラケティングの撮影途中に撮影モードダイヤルをデジタルイメージプログラムに切り換えると、残りのコマはキャンセルされ、AE・SB、AE、SBブラケティングは解除されます。ただし、再度**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかにセットすると、セットした撮影コマ数と補正ステップでAE・SB、AE、SBブラケティングが設定されます。
- AE・SB、AE、SBブラケティングを解除する場合は、オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルのブラケティングマーク BKT を消灯させます。この場合、セットした撮影コマ数と補正ステップは次回のAE・SB、AE、SBブラケティング時まで保持されます。また、ツーボタンリセット（P.135）でも解除できますが、この場合はセットした撮影コマ数と補正ステップは保持されません。

### *撮影コマ数と補正ステップの組み合わせ（AE・SB、AE、SBブラケティング時）*

カスタムセッティング12「**オートBKTセット**」を「**AE・SBブラケティング**」、「**AEブラケティング**」、「**SBブラケティング**」に設定した場合は、次の撮影コマ数と補正ステップがセットできます（カスタムセッティング9「**露出値ステップ幅**」の設定内容により、セットできる補正ステップが異なります）。

| 露出値ステップ幅 | 表示パネル | 撮影コマ数 | 補正ステップ | 撮影順序 |
|---|---|---|---|---|
| **1/3段**（初期設定） | 3F 0.3 +◀■▶− | 3 | ±1/3段 | 0/−0.3/+0.3 |
| | 3F 0.7 +◀■▶− | 3 | ±2/3段 | 0/−0.7/+0.7 |
| | 3F 1.0 +◀■▶− | 3 | ±1段 | 0/−1.0/+1.0 |
| | 3F 1.3 +◀■▶− | 3 | ±1 1/3段 | 0/−1.3/+1.3 |
| | 3F 1.7 +◀■▶− | 3 | ±1 2/3段 | 0/−1.7/+1.7 |
| | 3F 2.0 +◀■▶− | 3 | ±2段 | 0/−2.0/+2.0 |
| | +2F 0.3 +◀■ | 2 | +1/3段 | 0/+0.3 |
| | +2F 0.7 +◀■ | 2 | +2/3段 | 0/+0.7 |
| | +2F 1.0 +◀■ | 2 | +1段 | 0/+1.0 |
| | +2F 1.3 +◀■ | 2 | +1 1/3段 | 0/+1.3 |
| | +2F 1.7 +◀■ | 2 | +1 2/3段 | 0/+1.7 |
| | +2F 2.0 +◀■ | 2 | +2段 | 0/+2.0 |
| | −2F 0.3 ■▶− | 2 | −1/3段 | 0/−0.3 |
| | −2F 0.7 ■▶− | 2 | −2/3段 | 0/−0.7 |
| | −2F 1.0 ■▶− | 2 | −1段 | 0/−1.0 |
| | −2F 1.3 ■▶− | 2 | −1 1/3段 | 0/−1.3 |
| | −2F 1.7 ■▶− | 2 | −1 2/3段 | 0/−1.7 |
| | −2F 2.0 ■▶− | 2 | −2段 | 0/−2.0 |

| 露出値ステップ幅 | 表示パネル | 撮影コマ数 | 補正ステップ | 撮影順序 |
|---|---|---|---|---|
| 1/2段 | 3F 0.5 +◀■▶− | 3 | ±1/2段 | 0/−0.5/+0.5 |
| | 3F 1.0 +◀■▶− | 3 | ±1段 | 0/−1.0/+1.0 |
| | 3F 1.5 +◀■▶− | 3 | ±1 1/2段 | 0/−1.5/+1.5 |
| | 3F 2.0 +◀■▶− | 3 | ±2段 | 0/−2.0/+2.0 |
| | +2F 0.5 +◀■ | 2 | +1/2段 | 0/+0.5 |
| | +2F 1.0 +◀■ | 2 | +1段 | 0/+1.0 |
| | +2F 1.5 +◀■ | 2 | +1 1/2段 | 0/+1.5 |
| | +2F 2.0 +◀■ | 2 | +2段 | 0/+2.0 |
| | −2F 0.5 ■▶− | 2 | −1/2段 | 0/−0.5 |
| | −2F 1.0 ■▶− | 2 | −1段 | 0/−1.0 |
| | −2F 1.5 ■▶− | 2 | −1 1/2段 | 0/−1.5 |
| | −2F 2.0 ■▶− | 2 | −2段 | 0/−2.0 |

### オートブラケティング時の連続撮影について

動作モードを ⧉（連続撮影）にセットして撮影する場合、AE・SB、AE、SBブラケティングでは、シャッターボタンを押し続けるとセットしたコマ数の撮影が終了した時点でいったん停止します。シャッターボタンを押しなおすと次の連続撮影が可能になります。

### メモリー残量がなくなった場合／電源スイッチをOFFにした場合

- AE・SB、AE、SBブラケティングの場合は、撮影中にCFカードのメモリー残量がなくなっても、メモリー残量のある他のCFカードに交換すれば残りを撮影できます。
- AE・SB、AE、SBブラケティングの場合は、撮影中に電源スイッチをOFFにしても、再びONにすれば残りを撮影できます。

### セルフタイマー撮影時

セルフタイマー撮影時（P.128）やリモコン撮影時（P.130）には、AE・SB、AE、SBブラケティングでセットした撮影コマ数のオートブラケティング撮影が1コマずつ行われます。

### CSM 13：BKT補正順序（P.177）

マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

## AEブラケティング

AEブラケティングの場合は、露出モードによって補正される内容（シャッタースピード／絞り値）が異なります。

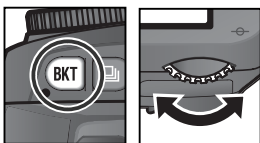
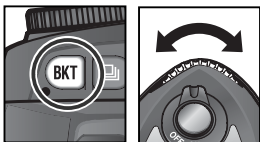
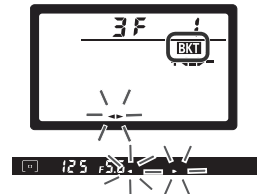
| 露出モード | 変化する内容 |
|---|---|
| **P**（マルチプログラムオート） | シャッタースピードと絞り値 |
| **S**（シャッター優先オート） | 絞り値 |
| **A**（絞り優先オート） | シャッタースピード |
| **M**（マニュアル） | シャッタースピード※ |

※ カスタムセッティング5「**感度自動制御**」が「**ON**」の場合は、撮像感度を変化させて基準となる露出レベルを補正した上で、さらに撮像感度を補正ステップ分変化させます。

## 5：感度自動制御（P.171）

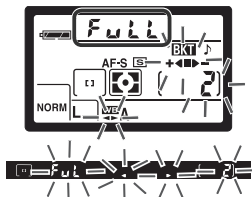
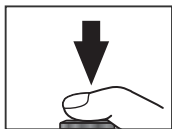
「**感度自動制御**」を「**ON**」にしてAEブラケティングを行うと、ISO200～ISO1600の範囲内で自動的に撮像感度を変更して得た適正露出（もしくは適正に近づいた露出）を基準にAEブラケティングの補正値が加えられます。スピードライト使用時も、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

## WBブラケティングの設定

**1** カスタムセッティング12「**オートBKTセット**」(P.176)で「**WBブラケティング**」を選択します。

**2** オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、表示パネルにブラケティングマーク BKT が表示され、ホワイトバランス微調整表示 ◀▶ が点滅します。また、ファインダー内表示の露出インジケーターの両端にある ◀ および ▶ が点滅します。

**3** オートブラケティングボタン BKT を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影コマ数と補正ステップ(P.111)をセットします。WBブラケティングの撮影コマ数が撮影可能コマ数よりも多い場合には、ブラケティングバーグラフ(+◀■▶−/+◀■/■▶−)が点滅して警告します。

- ホワイトバランス補正ステップの1段は、約10ミレッド(P.54)に相当します。

### WBブラケティングの制限について

WBブラケティングは、画質モードがRAW、またはRAWとBASICの同時記録の場合は使用できません。

**4** 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- WBブラケティングでは、1回の撮影でセットされたすべてのコマ数が記録されます。
- WBブラケティングとホワイトバランスの微調整が同時にセットしてある場合、微調整にWBブラケティングの補正が加算されます。
- WBブラケティングの撮影コマ数が撮影可能コマ数より多い場合、絞り値が消灯してシャッタースピード表示部にFuLL（FuL）が点灯し、ブラケティングバーグラフおよび撮影可能コマ数が点滅し、レリーズできません。新しいCFカードに交換すると撮影できます。

- 撮影モードダイヤルをデジタルイメージプログラムに切り換えると、WBブラケティングの設定は解除されます。ただし、再度**P**、**S**、**A**、**M**のいずれかにセットすると、セットした撮影コマ数と補正ステップでWBブラケティングが設定されます。
- WBブラケティングを解除する場合は、オートブラケティングボタン BKT を押しながら、メインコマンドダイヤルで表示パネルのブラケティングマーク BKT を消灯させせます。この場合、セットした撮影コマ数と補正ステップは次回のWBブラケティング時まで保持されます。また、ツーボタンリセット（P.135）でも解除できますが、この場合はセットした補正ステップは保持されません。
- WBブラケティングセット後に画質モードをRAW、またはRAWとBASICの同時記録にセットにすると、WBブラケティングが解除されます。画質モードをRAW、またはRAWとBASICの同時記録にセット後にWBブラケティングはセットできません。

### *撮影コマ数と補正ステップの組み合わせ（WBブラケティング時）*

カスタムセッティング12「**オートBKTセット**」を「**WBブラケティング**」に設定した場合は、次の撮影コマ数と補正ステップがセットできます。

| 表示パネル | 撮影コマ数 | 補正ステップ | 撮影順序 |
|---|---|---|---|
| 3F 1 +◀■▶− | 3 | ±1 | 0/−1/+1 |
| 3F 2 +◀■▶− | 3 | ±2 | 0/−2/+2 |
| 3F 3 +◀■▶− | 3 | ±3 | 0/−3/+3 |
| +2F 1 +◀■ | 2 | +1 | 0/+1 |
| +2F 2 +◀■ | 2 | +2 | 0/+2 |
| +2F 3 +◀■ | 2 | +3 | 0/+3 |
| --2F 1 ■▶− | 2 | −1 | 0/−1 |
| --2F 2 ■▶− | 2 | −2 | 0/−2 |
| --2F 3 ■▶− | 2 | −3 | 0/−3 |

### WBブラケティング時の連続撮影について

撮影動作モードにかかわらず、WBブラケティング時は1回のシャッターボタンの押し込みで1回の撮影を行い、セットしたコマ数の記録を行います。シャッターボタンを押し続けても連続撮影にはなりません。

### 電源スイッチをOFFにした場合

WBブラケティングの場合は、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合、すべてのコマの記録が終了してから電源が切れます。

### セルフタイマー撮影時

セルフタイマー撮影時（P.128）やリモコン撮影時（P.130）にWBブラケティングを行った場合、一回の撮影で設定された撮影コマ数が全て記録されます。

### CSM 13：BKT補正順序（P.177）

マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

# スピードライト撮影

## 内蔵スピードライトについて

このカメラは20mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー約15（ISO 200・m、20℃）/約11（ISO100・m、20℃）のスピードライトを内蔵しており、モニター発光を行う専用TTLモード（i-TTLモード）によって制御され、i-TTL-BL調光やスタンダードi-TTL調光によるスピードライト撮影ができます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。

- 非CPUレンズ装着時は、カスタムセッティング19「**内蔵SB発光**」を「**マニュアル発光モード**」に設定した場合のみスピードライト撮影が行えます。「**内蔵SB発光**」を「**TTLモード**」に設定して内蔵スピードライトをポップアップさせると、表示パネルのシンクロモード表示外枠および ⚡、ファインダー内のレディライト ⚡ が点滅して、シャッターがきれません。

### *i-TTLモードで可能な撮影*

CPUレンズ装着時は、次のような内蔵スピードライト撮影が行えます。

| 可能な内蔵スピードライト撮影 | 内容 |
|---|---|
| i-TTL-BL調光 | マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、スピードライトがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内の1005分割RGBセンサーが瞬時にモニターし、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。<br>• GまたはDタイプレンズ装着時は、レンズから得られた被写体までの距離情報も加味した最適な発光量を決定します。<br>• 測光モードが [•]（スポット測光）、もしくは露出モードが**M**（マニュアル）にセットされている場合は自動的にスタンダードi-TTL調光になります。 |
| スタンダードi-TTL調光 | 背景の明るさは考慮されず、主要被写体が基準露光量となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う場合に適しています。<br>• 測光モードが [•]（スポット測光）、もしくは露出モードが**M**（マニュアル）にセットされている場合は自動的にスタンダードi-TTL調光になります。 |

## 内蔵スピードライト使用時のご注意

- 内蔵スピードライト撮影時は撮影動作モードが 🔲 (連続撮影) にセットされても、連続撮影にはなりません。
- 内蔵スピードライトの充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。
- 内蔵スピードライトを連続して使用すると、発光部を保護するために一時的に発光が制限されます。少し時間をおくと発光が可能になります。

## スピードライトの照射角

内蔵スピードライトの照射角は20mmまでカバーしますが、装着するレンズや絞りの条件によっては、周囲が若干暗くなることがあります (P.123)。

## スピードライト使用時の感度自動制御について

カスタムセッティング5「**感度自動制御**」(P.171) を「**ON**」に設定すると、スピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし感度自動制御が機能して撮像感度が高感度になると、次の場合に背景が露出オーバーになることがあります。背景を重視する場合は「**感度自動制御**」を「**OFF**」に設定してください。

- 低速シャッタースピードでスピードライト撮影 (スローシンクロ) を行う場合
- 日中の明るい場所でスピードライト撮影 (日中シンクロ) を行う場合
- 背景が明るい場合

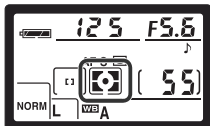
## CSM 19：内蔵SB発光 (P.181)

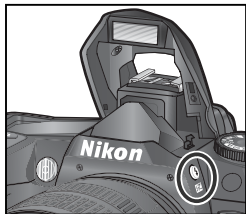
内蔵スピードライトの発光モードは、通常i-TTL調光ですが、マニュアル調光 (フル発光、1/2、1/4、1/8、1/16の5段階) に変更できます。マニュアル調光のフル発光では、内蔵スピードライトのガイドナンバーは約17（ISO200・m、20℃）／約12（ISO100・m、20℃) となります。また、別売スピードライトSB-800、SB-600をカメラから離して発光させる、コマンダーモードが選択できます (P.182)。

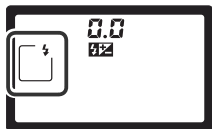
## 内蔵スピードライトを使用した撮影

ここでは内蔵スピードライトを使用し、カメラにCPUレンズを装着して行う撮影の方法を説明します。撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合と、AUTO、、、にセットした場合とでは内蔵スピードライト撮影の手順が異なります（、、の場合は、内蔵スピードライトは発光しません）。

### *撮影モードダイヤルをP、S、A、Mにセットした場合*

1 撮影モードダイヤルをセットします（P.10）。

2 測光モードをセットします（P.86）。

- 撮影モードダイヤルを **P**、**S**、**A**にセットした場合、スポット測光以外にセットするとi-TTL-BL調光になります。
- **M**の場合や、**P**、**S**、**A**で測光モードをスポット測光にセットした場合、スタンダードi-TTL調光になります。

3 シンクロモードボタン（スピードライトロック解除ボタン）を押して、内蔵スピードライトをポップアップさせます。

- スピードライトの充電が開始されます。充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディライトが点灯して知らせます。

4 シンクロモードをセットします（P.118）。

5 シャッタースピード、絞り値をセットします（P.88）。

- **P**、**S**、**A**、**M**でセット可能なシャッタースピードと絞り値は下表のとおりです。

| 撮影モードダイヤルのセット | セット可能なシャッタースピード | セット可能な絞り値 | |
|---|---|---|---|
| **P**（マルチプログラムオート） | カメラが自動的に1/500～1/60秒にセット※1 | カメラが自動的にセット | P.88 |
| **S**（シャッター優先オート） | 1/500～30秒※2 | | P.91 |
| **A**（絞り優先オート） | カメラが自動的に1/500～1/60秒にセット※1 | 任意の絞り※3 | P.93 |
| **M**（マニュアル） | 1/500～30秒※2 | | P.95 |

※1 カスタムセッティング21「**SBシャッター制限**」を使用すると、シャッタースピードの低速側を1/60秒～30秒の範囲で1段ステップごとに設定することができます。ただし、スローシンクロモード、後幕スローシンクロモード、赤目軽減スローシンクロモード選択時は、シャッタースピードが最長30秒まで延長されます。

※2 1/500秒より高速のシャッタースピードにセットされている場合は、内蔵スピードライトをポップアップすると（別売スピードライトの場合はスピードライトの電源をONにすると）、自動的に同調シャッタースピードの1/500秒にセットされます。

※3 調光範囲は設定している撮像感度と絞り値によって決まります。**A**（絞り優先オート）または**M**（マニュアル）時の絞りのセットは内蔵スピードライトの調光範囲を考慮して行ってください。

[⊡] 125 F5.6 [ 59 ⚡]

6 ファインダー内のレディライト ⚡ を確認します。

- スピードライトの充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディライト ⚡ が点灯して知らせます。スピードライトが上がった状態でレディライト ⚡ が点灯していないときは撮影できません。

7 構図を決めてピントを合わせ、内蔵スピードライトの調光範囲（P.122）を考慮して撮影します。

- シャッターをきった後、レディライト ⚡ が約３秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り値、撮像感度などを再度確認して、撮影し直してください。

## *撮影モードダイヤルを AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレート にセットした場合*

撮影モードダイヤルを AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレート にセットした場合、被写体が暗かったり逆光の場合に、シャッターボタンを半押しするとスピードライトが自動的にポップアップし、撮影時に発光します。

- 調光はi-TTL-BL調光になります。
- スピードライトが自動的にポップアップすると同時に、スピードライトの充電が開始されます。
  充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディライト ⚡ が点灯して知らせます。スピードライトが発光する撮影状況で、レディライト ⚡ が点灯していないときは撮影できません。
- シンクロモード (P.118) を変更して、赤目軽減機能を使用したり、発光禁止にすることが可能です。
- スピードライトがポップアップしている状態でも、撮影状況によっては発光しません。また、手動でスピードライトをポップアップさせたり、発光させることはできません。
- シャッタースピードと絞り値は下表のとおりに制御されます。

| 撮影モードダイヤルのセット | 制御されるシャッタースピード | 絞り値 |
|---|---|---|
| AUTO（オート） | カメラが自動的に1/500～1/60秒にセット | カメラが自動的にセット |
| （ポートレート） | | |
| （クローズアップ） | カメラが自動的に1/500～1/125秒にセット | |
| （夜景ポートレート） | カメラが自動的に1/500～1秒にセット | |

- シャッターをきった後、レディライト ⚡ が約3秒間点滅した場合は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り値、撮像感度などを再度確認して、撮影し直してください。

## シンクロモードの種類と特長

撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合にセットできるシンクロモードは次のとおりです。

| シンクロモード | 内容 |
| --- | --- |
| 先幕シンクロモード | 通常のスピードライト撮影時にはこのモードでセットします。**P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/500～1/60秒に自動的にセットします。 |
| 赤目軽減モード | スピードライトが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプのプリ照射を行い、暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減することができます。<br>• シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。 |
| SLOW<br>スローシンクロモード | **P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1/500～1/60秒に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで延長されます。これにより、背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影が行えます。<br>• シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。 |
| SLOW<br>赤目軽減スローシンクロモード | 赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。**P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてください。<br>• シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。 |
| REAR<br>後幕シンクロモード | シャッター後幕の走行開始（シャッターが閉じる）直前にスピードライトを発光させます。動く被写体をスピードライトで撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます。<br>• **P**（マルチプログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。 |

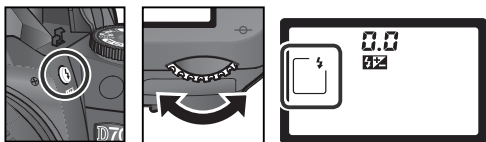
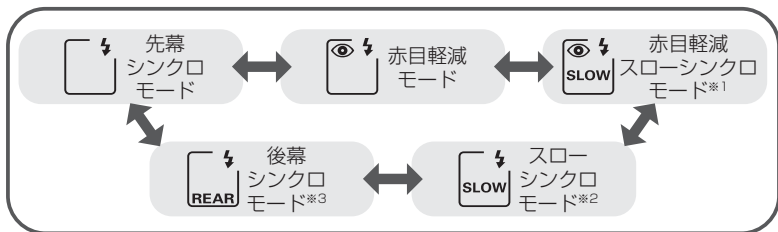
撮影モードダイヤルを AUTO 、 、 にセットした場合に、内蔵スピードライトでセットできるシンクロモードは次のとおりです。

| シンクロモード | 内容 |
|---|---|
| AUTO 先幕シンクロオートモード | 被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると内蔵スピードライトが自動的にポップアップし、撮影時に発光します。また、カメラが適正露出となるようにシャッタースピードを1/500～1/60秒（ の場合は1/500～1/125秒）に自動的にセットします。AUTO 、 、 に切り換えると、自動的にこのモードにセットされます。 |
| AUTO 赤目軽減オートモード | 被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると内蔵スピードライトが自動的にポップアップし、スピードライトが発光する前に約1秒間赤目軽減ランプのプリ照射を行います。暗いところで人物の目が赤く写るのを軽減することができます。<br>• シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。 |
| 発光禁止 | 被写体の明るさや逆光にかかわらず、内蔵スピードライトはポップアップせず、発光しません。<br>• 内蔵スピードライトがポップアップ状態でも、発光しません。 |

撮影モードダイヤルを にセットした場合に、内蔵スピードライトでセットできるシンクロモードは次のとおりです。

| シンクロモード | 内容 |
|---|---|
| AUTO SLOW スローシンクロオートモード | 被写体が暗い場合や逆光の場合に、シャッターボタンを半押しすると内蔵スピードライトが自動的にポップアップし、撮影時に発光します。また、背景の露出を考慮してシャッタースピードが1/500～1秒に自動的にセットされます。背景を描写しながらスピードライトを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影が行えます。撮影モードダイヤルを に切り換えると、自動的にこのモードにセットされます。<br>• シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。 |
| AUTO SLOW 赤目軽減スローシンクロオートモード | 赤目軽減オートモードと、スローシンクロオートモードが同時にセットされます。<br>• シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。 |
| 発光禁止 | 被写体の明るさや逆光にかかわらず、内蔵スピードライトはポップアップせず、発光しません。<br>• 内蔵スピードライトがポップアップ状態でも、発光しません。 |

## シンクロモードの設定

シンクロモードはシンクロモードボタン ⚡ とメインコマンドダイヤルでセットします。シンクロモードボタン ⚡ を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するシンクロモードを表示パネルに表示させせます。

撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合は、次のようにシンクロモードが切り替わります。

※1 **S**または**M**の場合、赤目軽減スローシンクロモードは設定できません。**P**または**A**でこのモードを選択した後に**S**または**M**に変更すると、シンクロモードは自動的に「**赤目軽減モード**」に変更されます。

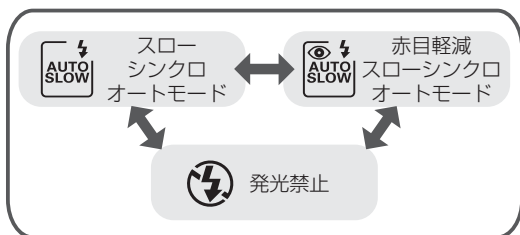
※2 **S**または**M**の場合、スローシンクロモードは設定できません。**P**または**A**でこのモードを選択した後に**S**または**M**に変更すると、シンクロモードは自動的に「**先幕シンクロモード**」に変更されます。

※3 **P**または**A**の場合は、スローシンクロモードも自動的にセットされ、シンクロモードボタン ⚡ から指を離すと右のように表示されます。

### スタジオ用大型ストロボ使用時について

スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

撮影モードダイヤルを AUTO 、 、 にセットした場合は、次のようにシンクロモードが切り替わります。

撮影モードダイヤルを にセットした場合は、次のようにシンクロモードが切り替わります。

### 赤目軽減ランプのケラレについて

装着するレンズの種類により赤目軽減ランプの光にケラレが生じ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。

### 別売スピードライト使用時について

撮影モードダイヤルを AUTO 、 、 、 にセットして別売スピードライトを使用する場合のシンクロモードについては「装着可能な別売スピードライト」(P.229)をご覧ください。

## 内蔵スピードライトの収納

内蔵スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときはバッテリーの消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

## 内蔵スピードライトの調光範囲（光の届く範囲）、絞り値、撮像感度について

- スピードライトは撮像感度と絞り値によって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

| 撮像感度（ISO）および絞り値 | | | | | | | | | | 調光範囲 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 200 | 250 | 320 | 400 | 500 | 640 | 800 | 1000 | 1250 | 1600 | (m) |
| 2 | 2.2 | 2.5 | 2.8 | 3.2 | 3.5 | 4 | 4.5 | 5 | 5.6 | 1～7.5 |
| 2.8 | 3.2 | 3.5 | 4 | 4.5 | 5 | 5.6 | 6.3 | 7.1 | 8 | 0.7～5.4 |
| 4 | 4.5 | 5 | 5.6 | 6.3 | 7.1 | 8 | 9 | 10 | 11 | 0.6～3.8 |
| 5.6 | 6.3 | 7.1 | 8 | 9 | 10 | 11 | 13 | 14 | 16 | 0.6～2.7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 13 | 14 | 16 | 18 | 20 | 22 | 0.6～1.9 |
| 11 | 13 | 14 | 16 | 18 | 20 | 22 | 25 | 29 | 32 | 0.6～1.4 |
| 16 | 18 | 20 | 22 | 25 | 29 | 32 | — | — | — | 0.6～0.9 |
| 22 | 25 | 29 | 32 | — | — | — | — | — | — | 0.6～0.7 |

※ 内蔵スピードライトで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

- 撮影モードダイヤルを**P**、AUTO、、、にセットした場合、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りは、使用する撮像感度によって下表のように制御されます。

| 撮影モードダイヤル | 撮像感度（ISO）と開放側の限界絞り（F） | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 200 | 250 | 320 | 400 | 500 | 640 | 800 | 1000 | 1250 | 1600 |
| **P**、AUTO、、 | 2.8 | 3 | 3.2 | 3.3 | 3.5 | 3.8 | 4 | 4.2 | 4.5 | 4.8 |
| | 5.6 | 6 | 6.3 | 6.7 | 7.1 | 7.6 | 8 | 8.5 | 9 | 9.5 |

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- i-TTLモード時の撮像感度連動範囲はISO200～1600です。

## 内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて

- 内蔵スピードライトには、20mmから300mmまでのCPUレンズが使用できます。
- ケラレを防止するため、レンズフードは取り外して使用してください。
- 撮影距離0.6m未満では使用できません。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

| 制限のあるAFレンズ | 注意していただきたいこと |
|---|---|
| AF-S DX ED 12～24mm f/4G | 焦点距離20mm時の撮影距離2.5m以上、<br>焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能 |
| AF-S ED 17～35mm f/2.8D | 焦点距離20mm、24mm時の撮影距離2.5m以上、<br>焦点距離28mm時の撮影距離1m以上で使用可能 |
| AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G（IF） | 焦点距離20mm、24mm時の撮影距離2.5m以上、<br>焦点距離28mm時の撮影距離1.5m以上、<br>焦点距離35mm時の撮影距離0.7m以上で使用可能 |
| AF ED 18～35mm f/3.5～4.5D | 焦点距離20mm時の撮影距離2m以上、<br>焦点距離24mm時の撮影距離0.7m以上で使用可能 |
| AF 20～35mm f/2.8 D | 焦点距離20mm時の撮影距離1.5m以上、<br>焦点距離24mm時の撮影距離1m以上で使用可能 |
| AF-S VR ED 24～120mm f/3.5～5.6G | 焦点距離24mm時の撮影距離0.8m以上で使用可能 |
| AF-S ED 28～70mm f/2.8 D | 焦点距離28mm時の撮影距離3m以上、<br>焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能 |
| AF-S VR ED 200～400mm f/4G | 焦点距離200mm時の撮影距離4m以上、<br>焦点距離250mm時の撮影距離2.5m以上で使用可能 |

## 内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて（つづき）

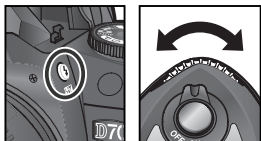
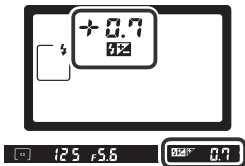
• 内蔵スピードライト撮影時に使用可能な非CPUレンズは、焦点距離が20mmから200mmまでのニッコール（Ai-S、Ai、改造Ai）、ニコン レンズシリーズEが使用できます。ただし、次のレンズは使用に制限があります。

| 制限のある非CPUレンズ | 注意していただきたいこと |
|---|---|
| Ai-S 25～50mm f/4、<br>Ai 25～50mm f/4、<br>Ai-S 35～70mm f/3.5 | 焦点距離35mm時の撮影距離1m以上で使用可能 |
| Ai 50～300mm f/4.5<br>Ai改 50～300mm f/4.5、<br>Ai-S ED 50～300mm f/4.5、<br>Ai改 85～250mm f/4 | 焦点距離135mm以上で使用可能 |
| Ai ED 50～300mm f/4.5 | 焦点距離105mm以上で使用可能 |
| Ai-S ED 200mm f/2、<br>Ai ED 200mm f/2 | 使用できません |

## 調光補正

調光補正とは、スピードライトとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たりすぎないようにしたいときに使用します。調光補正は撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットしている場合に設定可能です。撮影モードダイヤルをデジタルイメージプログラムにセットしている場合、調光補正は設定できません。

**1** 撮影モードダイヤルとシンクロモードをセットします。

- 別売スピードライトを装着していない場合は、シンクロモードボタン を押すと、同時に内蔵スピードライトがポップアップします。

**2** 調光補正ボタン （シンクロモードボタン ）を押しながら、サブコマンドダイヤルで補正量（1/3段ステップで＋1段～－3段）をセットします。

- 補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に調光補正マーク が表示されます。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

**3** 構図を決めてピントを合わせ、ファインダー内にレディライト が点灯していることを確認し、調光範囲を考慮して撮影します。詳しくは「内蔵スピードライトを使用した撮影」（P.114）をご覧ください。

- 調光補正を解除する場合は、調光補正ボタン を押しながら、サブコマンドダイヤルで補正量を0.0にセットするか、ツーボタンリセットを行ってください（カメラの電源スイッチをOFFにしても解除されません）。

### 別売スピードライトの調光補正について

別売スピードライトSB-800、SB-600使用時も、調光補正を行うことができます。

### CSM 9：露出値ステップ幅（P.174）

調光補正量のステップ幅を1/2段に変更できます。

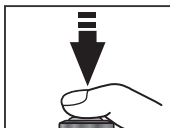
## FVロック

調光量をロック（固定）することにより、被写体に調光量を合わせたまま構図を変えたり、同じ調光量を維持したまま撮影することができます。被写体が画面の中央にない場合など、自由な構図で適切な調光量のスピードライト撮影が可能です。

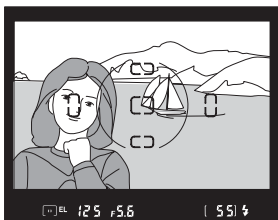
- FVロック中にカメラの撮像感度や絞り値を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることによりFVロックは維持されます。

**1** カスタムセッティング15「**AE/AFロックボタン**」（P.178）で、「**FVロック**」に設定します。

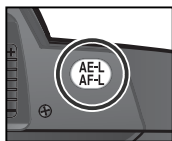
**2** 撮影モードダイヤルとシンクロモードをセットします。

- 撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットし、別売スピードライトを装着していない場合は、シンクロモードボタンを押すと、内蔵スピードライトがポップアップします。AUTO、、、の場合、シャッターボタンを半押しすると、撮影状況に応じて内蔵スピードライトが自動的にポップアップします。

**3** 調光範囲を考慮して、調光量を合わせたい被写体が画面の中心になるようにカメラを構え、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせます。

**4** ファインダー内にレディライト ϟ が点灯していることを確認し、AE/AFロックボタン (AE-L AF-L) を押します。

- スピードライトがモニター発光を行い、調光量を計算します。
- FVロックが行われ、ファインダー内表示にAEロック表示**EL**が点灯します。

**5** 構図を変更します。

**6** シャッターボタンを押して撮影します。

- FVロック中は、被写体の露出を一定にしたまま複数のコマを撮影することができます。必要に応じて手順5～6を繰り返してください。

**7** AE/AFロックボタン (AE-L AF-L) を押します。

- FVロックが解除され、ファインダー内表示からAEロック表示**EL**が消灯します。

## 内蔵スピードライトのFVロックについて

内蔵スピードライト使用時のFVロックは、カスタムセッティング19「**内蔵SB発光**」(P.181) が「**TTLモード**」(初期設定) に設定されている場合のみ機能します。

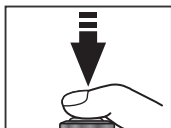
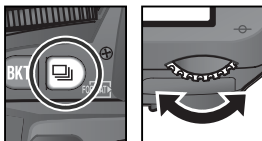
## 別売スピードライトのFVロックについて

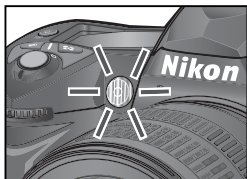
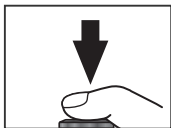
別売スピードライトSB-800、SB-600使用時も、FVロックを行うことができます。この場合、SB-800の発光モードの種類をTTLまたはAAに、SB-600の発光モードの種類をTTLにセットしてください (詳しくはそれぞれのスピードライトの使用説明書をご覧ください)。FVロック中に、SB-800、SB-600のズーム位置を変更しても、スピードライトの発光量が補正されることにより、FVロックは維持されます。

# セルフタイマー撮影

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。

**1** 三脚などを使用してカメラを固定します。

**2** 撮影動作モードボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して、セルフタイマーモード表示 を表示パネルに表示させます。

**3** 構図を決め、ピントを合わせます。

- オートフォーカスがフォーカス優先のシングルAFサーボ（AF-S）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル）以外にセットした場合は、シャッターボタンを押す前に手または付属のアイピースキャップDK-5で接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。
- フォーカスモードを**AF**（オートフォーカス）にセットしてピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体などで覆わないように注意してください。

4 シャッターボタンを押します。

- セルフタイマー撮影を開始すると、セルフタイマーランプ（AF補助光）が約8秒間点滅、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。
- セルフタイマーの作動中は電子音が繰り返しなります。シャッターがきれる前の約2秒間は、電子音の間隔が短くなります。
- 撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合、セルフタイマーの作動中に内蔵スピードライトを上げると、作動中のセルフタイマーをキャンセルします。ファインダー内のレディライト ϟ が点灯してから再度シャッターボタンを押すと、再びセルフタイマーが作動します。
- 撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル）にセットして、シャッタースピードが bulb にセットされている場合は、シャッタースピードが約1/5秒でシャッターがきれます。
- 撮影後、セルフタイマーは解除され、S（1コマ撮影）、⧉（連続撮影）のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。

撮影機能の詳細ーセルフタイマー撮影

### セルフタイマーの解除について

セルフタイマーの待機中、または作動中に電源をOFFにすると、セルフタイマーは解除され、S（1コマ撮影）、⧉（連続撮影）のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。また、他の撮影動作モードに切り換えることにより、作動中のセルフタイマーを解除することもできます。

### CSM 1：電子音設定（P.166）

セルフタイマー作動中の電子音を消音することができます。

### CSM 24：セルフタイマー（P.186）

セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

# リモコン撮影



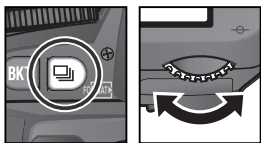
別売のリモコンML-L3を使用すると、離れた場所からカメラのシャッターをきることができ、記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。また、シャッターボタンを押すことによる手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。リモコン撮影には次の2種類があります。

**リモコンをはじめてご使用になるときのご注意**

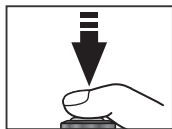
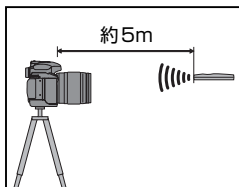
リモコンをはじめてご使用になるときは、リモコンにはさんである透明の絶縁シートを引き抜いてからご使用ください。

| 撮影動作モード | 内容 |
|---|---|
| 2秒リモコン撮影 | 記念写真など、リモコンを操作した撮影者自身が写真に写る場合に、自然な体勢に整えることができます。 |
| 瞬時リモコン撮影 | シャッターボタンを押すことによる手ブレを防止したいときなど、シャッターチャンスを優先しつつカメラに直接触れずに撮影を行うことができます。 |

## リモコンによる撮影方法

**1** 三脚などを使用してカメラを固定します。

**2** 撮影動作モードボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して、2秒リモコンモード表示 または瞬時リモコンモード表示 を表示パネルに表示させせます。

- これらの撮影動作モードにセットしてから、約1分間、リモコン受信待機状態になります。操作のないまま約1分が経過すると、リモコン受信待機状態が解除されて、S（1コマ撮影）、（連続撮影）のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。

**3** 構図を決めます。

- フォーカスモードが**AF**（オートフォーカス）の場合は、リモコン受信待機状態でも、カメラ本体のシャッターボタンを半押しすることにより、あらかじめピントを合わせておくことができます。ただし、カメラ本体のシャッターボタンでシャッターをきることはできません。
- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル）以外にセットした場合は、付属のアイピースキャップDK-5で接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。

**4** リモコンML-L3の送信部をカメラのリモコン受光部に向け、送信ボタンを押します。

- 屋外でリモコン撮影を行う場合、**リモコンの送信部とカメラのリモコン受光部の間が装着レンズや障害物でさえぎられないようにしてください**。また、**カメラが極端な逆光状態ではリモコン撮影が行えない場合があります**
- 2秒リモコン撮影、瞬時リモコン撮影とカスタムセッティング2「**AFモードの選択**」(P.167) の組み合わせによって、カメラは次のように動作します (「**AF-S**」に設定されている場合でも、すでにピントが合っている場合やフォーカスモード (P.74) が**M**の場合はピント合わせを行いません)。

| 撮影動作モード | カスタムセッティング2 | |
|---|---|---|
| | 「AF-S」(シングルAFサーボ) | 「AF-C」(コンティニュアスAFサーボ) |
| 2秒リモコン撮影 | ピント合わせを行い、ピントが合ってから、セルフタイマーランプ (AF補助光) が約2秒間点灯してシャッターがきれます。ピントが合わない場合は、待機状態に戻ります。 | 約2秒間、セルフタイマーランプ (AF補助光) の点灯を行い、シャッターがきれます。ピント合わせは行いません。 |
| 瞬時リモコン撮影 | ピント合わせを行い、ピントが合ってから、すぐにシャッターがきれます。撮影が完了するとセルフタイマーランプ (AF補助光) が一瞬点灯してお知らせします。ピントが合わない場合は、待機状態に戻ります。 | すぐにシャッターがきれます。ピント合わせは行いません。撮影が完了するとセルフタイマーランプ (AF補助光) が一瞬点灯してお知らせします。 |

- 撮影後もリモコン撮影は解除されません。リモコン受信待機時間 (初期設定で1分) が経過すると、S (1コマ撮影)、連続撮影アイコン (連続撮影) のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。

### CSM 1：電子音設定 (P.166)

2秒リモコン撮影作動中、および瞬時リモコン撮影完了時の電子音を消音することができます。

### リモコン撮影の解除について
リモコン撮影の待機中、または作動中に電源をOFFにすると、リモコン撮影は解除され、S（1コマ撮影）、□（連続撮影）のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。また、他の撮影動作モードに切り換えることにより、作動中の2秒リモコン撮影を解除することもできます。

### 長時間露出（タイム）について
撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル）にセットしてリモコン撮影を行う場合、30秒より低速側のシャッタースピードにセットするとタイム露光となり、表示パネルおよびファインダー内表示のシャッタースピード表示部に - - が表示されます（bulb にはなりません）。この場合、リモコンの送信ボタンを押すと、約2秒後（2秒リモコン撮影時）もしくはすぐに（瞬時リモコン撮影時）シャッターが開いたままになり（最長約30分）、再度リモコンの送信ボタンを押すとシャッターが閉じて露光が完了します（シャッターを開いたまま約30分経過すると、自動的にシャッターは閉じます）。なお、長時間（約1秒よりも低速）の撮影を行った場合は、ノイズにより多少ザラついた画像になります。このノイズは撮影メニュー「**ノイズ除去**」(P.161）により低減することができます。

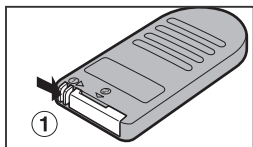
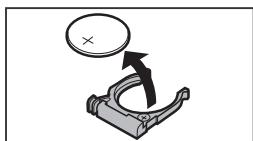
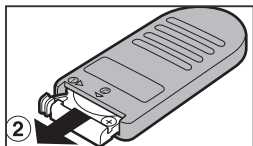
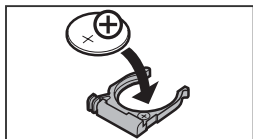
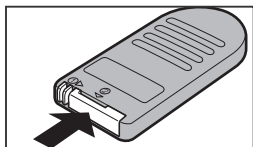
### 長時間露出時の電源について
シャッタースピードを - -（タイム）にセットして長時間露出撮影する場合は、撮影中のバッテリー切れを防ぐため、電源としてフル充電したEN-EL3またはACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします。

### スピードライトについて
スピードライトが撮影時に発光する条件では、スピードライトの充電が完了するまでにリモコンの送信ボタンを押しても、カメラは反応しません。撮影モードダイヤルを AUTO、、、 にセットした場合、撮影動作モードを2秒リモコン撮影または瞬時リモコン撮影にセットするとスピードライトの充電が開始され、充電完了後にリモコンの送信ボタンを押すと、撮影状況に応じて内蔵スピードライトが自動的にポップアップします。また、**P**、**S**、**A**、**M**の場合、2秒リモコン撮影の作動中に内蔵スピードライトをポップアップすると、作動中の2秒リモコン撮影をキャンセルします。ファインダー内のレディライト ⚡ が点灯してから再度リモコンの送信ボタンを押すと、再び2秒リモコン撮影が作動します。

### 赤目軽減発光について
シンクロモードが赤目軽減モード、赤目軽減スローシンクロモード、赤目軽減オートモード、赤目軽減スローシンクロオートモードのいずれかにセットされている場合、赤目軽減ランプが約1秒間照射されてからシャッターがきれます。2秒リモコン撮影の場合、セルフタイマーランプが約2秒間点滅した後、赤目軽減ランプが約1秒間照射されてからシャッターがきれます。

### CSM 25：リモコン待機時間（P.186）
リモコン撮影の受信待機時間を5分、10分、15分のいずれかに変更できます。

## リモコンの電池の交換方法について

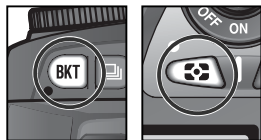
別売のリモコンML-L3の電池はCR2025型3Vリチウム電池を1個使用します。交換方法は次のとおりです。

**1** 電池ホルダー着脱レバーを矢印の方向にスライドさせて、ロックを解除しながら (①)、リモコン本体から電池ホルダーを取り出します (②)。

**2** 電池ホルダーからリモコン用の電池を取り出します。

**3** CR2025型3Vリチウム電池1個を＋極側を上にして電池ホルダーに入れます。

**4** 電池ホルダーをリモコン本体にカチッと音がするまで押し込みます。

### 電池の保管時のご注意

電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。ご使用の前に、安全上のご注意 (ii) をよくお読みください。

# ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部の設定を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したい場合に便利です。ただし、ツーボタンリセットではカスタムセッティングのリセットはできません。

オートブラケティングボタン BKT と測光モードボタン (それぞれのボタンに緑色の●が表示されています)を2秒以上同時に押すと、一瞬表示パネル、ファインダー内の表示が消え、カメラの各機能が次のように初期設定に戻ります。

| 機能 | 初期設定 |
|---|---|
| 撮影動作モード | 1コマ撮影※1 |
| フォーカスエリア | 中央※2 |
| 測光モード | マルチパターン測光 |
| プログラムシフト | 解除 |
| AEロックのホールド状態 | 解除※3 |
| 露出補正 | 解除 (0.0) |
| オートブラケティング | 解除 |

| 機能 | 初期設定 |
|---|---|
| シンクロモード | |
| **P、S、A、M** | 先幕シンクロ |
| AUTO、(ポートレート)、(クローズアップ) | 先幕シンクロオート |
| (夜景ポートレート) | スローシンクロオート |
| 調光補正 | 解除 |
| FVロック | 解除 |
| イルミネーター | 消灯 |

※1 セルフタイマー、2秒リモコン撮影作動中は、ツーボタンリセットが行えません。

※2 カスタムセッティング3「**AFエリアモード設定**」が「**シングル**」または「**ダイナミック**」に設定されている場合です。

※3 カスタムセッティング15「**AE/AFロックボタン**」はリセットされません。

ツーボタンリセットでは、次の撮影メニュー項目の内容も初期状態に戻ります。

| 撮影メニュー項目 | 初期設定 |
|---|---|
| 画質モード | NORMAL |
| 画像サイズ | L |
| ホワイトバランス | **A**(オート) |

| 撮影メニュー項目 | 初期設定 |
|---|---|
| ホワイトバランス微調整 | 解除 (0) |
| ISO設定 | 200 |
| 仕上がり設定 | 標準 |

### CSM R:リセット (P.165)

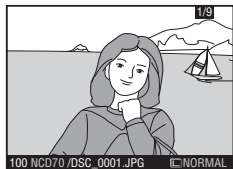
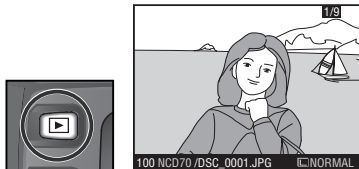
カスタムセッティングR「**リセット**」で「**はい**」を選択するとすべてのカスタムセッティングがリセットできます。

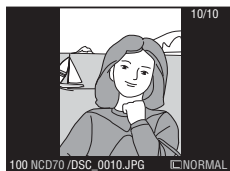
# 再生機能の詳細

ここでは、1コマ再生表示、画像情報の表示、サムネイル表示、拡大表示、画像のプロテクトなどボタンによる再生中の操作についての詳細を説明します。

## 1コマ再生表示

D70は次の2つの方法で、撮影された画像を液晶モニタに表示（再生）します。

CFカードに撮影した画像を記録しながら、自動的に液晶モニタに表示します。

再生ボタン ▶ を押すと、最後に撮影した画像を表示します。

マルチセレクターの▲を押すと前の画像を、▼を押すと次の画像を見ることができます。

- 1コマ再生表示中にメニューボタン MENU を押すと、再生を終了し、メニュー画面（P.41）が表示されます。
- 1コマ再生表示中に再生ボタン ▶ を押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニタの表示画面が消え、撮影モードに戻ります。
- 縦位置で撮影された画像は、縦位置で再生されます。

### マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

### 縦位置自動回転（P.152）

通常、縦位置で撮影された画像は、液晶モニタでも縦位置で再生されますが、再生メニューの「**縦位置自動回転**」では、すべての画像を横位置で再生するように変更できます。ただし、SETUPメニューの「**姿勢情報記録**」（P.203）を「**OFF**」に設定して撮影した画像は、「**縦位置自動回転**」の設定にかかわらず、すべて横位置で表示されます。

### 7：撮影画像確認（P.173）

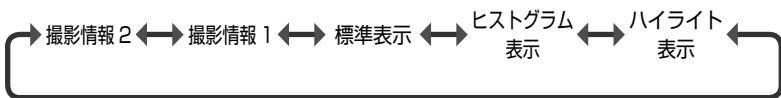
「**OFF**」に設定すると、撮影後、再生ボタンを押した場合のみ、撮影済みの画像を表示するように変更できます。

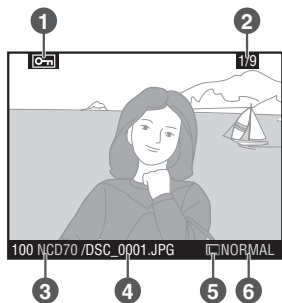
### 22：液晶モニタパワーオフ（P.185）

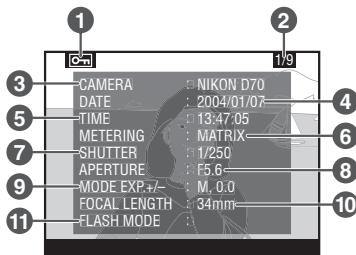
初期設定では、20秒間何も操作を行わないと、液晶モニタ表示は自動的にオフになりますが、自動的にオフになるまでの時間を変更できます。

## 画像情報の表示

1コマ再生表示中にマルチセレクターの◀および▶を押すと、次のように撮影情報の表示が切り替わります。

撮影情報2 ⟷ 撮影情報1 ⟷ 標準表示 ⟷ ヒストグラム表示 ⟷ ハイライト表示

### 標準表示

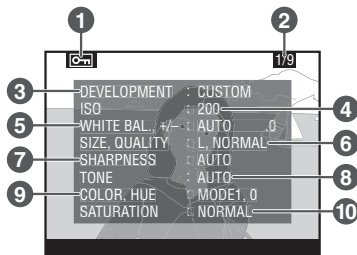
1 プロテクト設定の有無 ........... P.145
2 コマ番号/画像数 ................. P.151
3 フォルダ名 ............................ P.188
4 ファイル名 ............................ P.43
5 画像サイズ ............................ P.45
6 画質モード ............................ P.43

### 撮影情報1

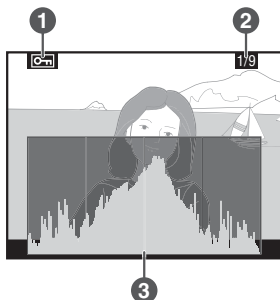
1 プロテクト設定の有無 ........... P.145
2 コマ番号/画像数 ................. P.151
3 カメラ名
4 撮影日付 ................................ P.16
5 撮影時間 ................................ P.16
6 測光モード ............................ P.86
7 シャッタースピード ............... P.88
8 絞り値 .................................... P.88
9 露出モード ............................ P.88
露出補正 ................................ P.101
10 焦点距離 .............................. P.228
11 調光モード .......................... P.112

### 画像コメントについて

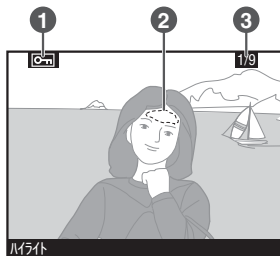
画像コメント (P.197) は、画像情報では表示されません。

## 撮影情報2

1 プロテクト設定の有無...........P.145
2 コマ番号／画像数..................P.151
3 仕上がり設定............................P.64
4 撮像感度..................................P.48
5 ホワイトバランス.....................P.50
ホワイトバランス微調整..........P.54
6 画像サイズ...............................P.45
画質モード...............................P.43
7 輪郭強調..................................P.66
8 階調補正..................................P.67
9 カラーモード............................P.68
色合い......................................P.69
10 彩度設定..................................P.69

1/9
DEVELOPMENT : CUSTOM
ISO : 200
WHITE BAL., +/− : AUTO .0
SIZE, QUALITY : L, NORMAL
SHARPNESS : AUTO
TONE : AUTO
COLOR, HUE : MODE1, 0
SATURATION : NORMAL

## ヒストグラム表示

1 プロテクト設定の有無...........P.145
2 コマ番号／画像数..................P.151
3 画像のヒストグラムが表示されます。横軸は輝度、縦軸は画素数を表します。

## ハイライト表示

1 プロテクト設定の有無...........P.145
2 画像のハイライト部分が点滅表示されます。
3 コマ番号／画像数..................P.151

### D70のヒストグラム表示について

D70のヒストグラム表示は、画像加工アプリケーションで表示されるヒストグラムと異なることがあります。目安としてご使用ください。

## サムネイル表示

サムネイルボタン を押すごとに、画面に表示される画像の数を切り換えることができます。設定できるのは、1コマ、4コマまたは9コマのいずれかです。4コマと9コマの表示時は、画像はサムネイル（縮小画像）で一覧表示されます。この状態では次の操作が可能です。

| 機能 | 操作 | 内容 |
|---|---|---|
| 表示コマ数の変更 | （サムネイルボタン） | サムネイルボタン を押すごとに、表示コマ数（1コマ／4コマ／9コマ）が切り替わります。 |
| 画像の選択 | （マルチセレクター） | マルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押すと、表示画面でカーソル（黄色い枠）が移動します。選択する画像にカーソルを合わせます。 |
| 選択画像の削除 | （削除ボタン） | 削除ボタン を押すと削除確認画面が表示されます（P.146）。<br>• 削除確認画面の表示中に再度削除ボタン を押すと画像の削除が実行され、サムネイル表示画面に戻ります。<br>• 削除確認画面の表示中に削除ボタン 以外のボタンを押すと、画像の削除をキャンセルして、サムネイル表示画面に戻ります。 |

| 機能 | 操作 | 内容 |
|---|---|---|
| 選択画像の拡大表示 | ENTER（🔍） | 画像の表示中に実行ボタン ENTER（拡大再生ボタン 🔍）を押すと、選択中の画像が拡大表示されます（P.144）。拡大表示中に、マルチセレクターを操作すると、画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。再度実行ボタン ENTER を押すと、拡大表示が終了し、サムネイル表示画面に戻ります。<br>• 拡大表示中にサムネイルボタン ⊞ を押している間、画像全体の縮小画像が表示され、拡大部分が赤い拡大エリア選択枠で囲まれます。サムネイルボタン ⊞ を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと拡大範囲（選択枠の大きさ）が変更でき、マルチセレクターを操作すると、選択枠を移動できます。押していたサムネイルボタン ⊞ を放すと、拡大エリア選択枠内の部分が瞬時に拡大表示されます。 |
| 表示画像のプロテクト設定／解除 | ?/⊶ | 画像の表示中にプロテクトボタン ?/⊶ を押すと、選択されている画像にプロテクトアイコン ⊶ が表示され、プロテクトが設定されます（P.145）。プロテクトアイコン ⊶ が表示されている画像は、削除ボタン 🗑 または再生メニューの「**削除**」では削除できません（ただし、CFカードをフォーマットすると、プロテクトをかけた画像も削除されます）。プロテクトアイコン ⊶ が表示されている画像を選択してプロテクトボタン ?/⊶ を押すと、プロテクトアイコン ⊶ が消え、プロテクトが解除されます。 |
| メニュー画面の表示 | MENU | メニューボタン MENU を押すと、再生が終了し、メニュー画面（P.41）が表示されます。 |
| 撮影モードに戻る | ▶ ／ シャッターボタン | 再生ボタン ▶ を押す、またはシャッターボタンを半押しすると、モニタの表示画面が消え、撮影可能状態になります。 |

### マルチセレクターの操作

画像の再生中やメニューの操作中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

### CSM 22：液晶モニタパワーオフ（P.185）

初期設定では、20秒間何も操作を行わないと、液晶モニタ表示は自動的にオフになりますが、自動的にオフになるまでの時間を変更できます。

## 拡大表示

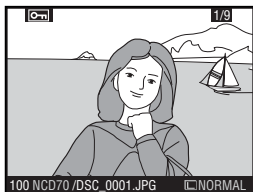
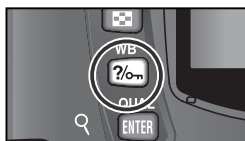
画像の表示中に実行ボタン ENTER（拡大再生ボタン Q）を押すと、表示されている画像（1コマ表示時）または選択されている画像（4コマ／9コマ表示時）が長さ比で最大約4.7倍（画像サイズがLの場合）、約3.5倍（画像サイズがMの場合）または約2.4倍（画像サイズがSの場合）まで拡大表示されます。この状態では次の操作が可能です。

| 機能 | 操作 | 内容 |
|---|---|---|
| 拡大表示の開始／終了 | ENTER（Q） | 実行ボタン ENTER（拡大再生ボタン Q）を押すと、画像が拡大表示されます。拡大表示中に実行ボタン ENTER を押すと、拡大表示が終了し、拡大再生前の表示に戻ります。 |
| 拡大率の変更 | サムネイルボタン ＋ メインコマンドダイヤル | サムネイルボタンを押している間、画面の右下側に画像全体の縮小画像が表示され、拡大表示される部分が赤い拡大エリア選択枠で囲まれますので目安にしてください。この拡大エリア選択枠は、サムネイルボタンを押しながらメインコマンドダイヤルを反時計回りに回すと小さく（拡大率は大きく）なり、時計回りに回すと大きく（拡大率は小さく）なります。押していたサムネイルボタンを放すと、拡大エリア選択枠内の部分が瞬時に拡大表示されます。 |
| 画像の他の部分の表示 | マルチセレクター | 画像の拡大表示中にマルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押すと、画面をスクロールさせて見たい部分に移動できます。マルチセレクターを押し続けると、高速移動することができます。また、サムネイルボタンを押しながらマルチセレクターの▲／▼／◀／▶を押すと、拡大エリア選択枠を移動させることができます。 |

## 画像のプロテクト

画像にプロテクトを設定すると、その画像を削除することができなくなります。これにより、誤って画像を削除してしまうことを防止できます。画像の表示中にプロテクトボタン ?/On を押すと、表示されている画像（1コマ表示時）または選択されている画像（4コマ／9コマ表示時）にプロテクトが設定されます。

1 1コマ表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。4コマ／9コマ表示の場合は、プロテクトする画像をマルチセレクターにより選択します。

2 プロテクトボタン ?/On を押します。画像にプロテクトアイコン On が表示されます。

画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（1コマ表示の場合）、または選択（4コマ／9コマ表示の場合）して、プロテクトボタン ?/On を押します。

### CFカードのフォーマット

CFカードをフォーマットすると、プロテクト設定した画像も消去されますのでご注意ください。

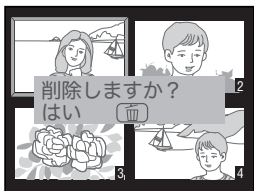
### プロテクト画像のファイル属性

プロテクト設定した画像は、DOSファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

## 画像の削除

画像の再生画面では、ボタン操作によって1コマ単位で削除できます。削除した画像は元に戻せません。

**1** 1コマ再生表示の場合は、削除する画像を表示します。4コマ／9コマ表示の場合は、削除する画像を選択します。

**2** 削除ボタン 🗑 を押します。削除確認の画面が表示されます。

- 再度削除ボタン 🗑 を押すと、表示中の画像が削除されます。
- 画像を削除しない場合は、削除ボタン 🗑 以外のボタンを押してください。

### プロテクト設定／非表示設定された画像の削除

プロテクト設定されている画像や、非表示設定されている画像は削除できません。

### 削除 (P.148)

再生メニューの「**削除**」では、複数の画像を選択して削除したり、全画像を一括して削除することができます。

# メニューガイド

再生メニュー 

撮影メニュー 

カスタムメニュー

SETUP メニュー

液晶モニタに表示されるメニュー画面からカメラの各種設定を変更できます。

**再生メニュー（P.148～159）**

再生メニューは、CFカードに記録した画像をスライドショーで再生するなどのメニュー項目が含まれています。

**撮影メニュー（P.160～162）**

撮影メニューは、仕上がり設定やノイズ除去など、より高度な撮影をする場合のメニュー項目が含まれています。

**カスタムメニュー（P.163～186）**

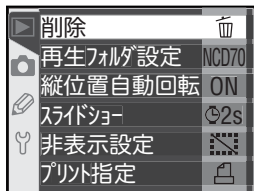
カスタムメニューは、カメラの各種設定を撮影者の好みに合わせて変更する、カスタムセッティングに使用します。

**SETUP メニュー（P.187～204）**

SETUP メニューは、CFカードのフォーマットや日付の設定など、カメラの基本的なセットアップに使用するメニュー項目が含まれています。

# 再生メニュー



再生メニューには、次のメニュー項目があります。

| メニュー項目 | 👁 |
|---|---|
| 削除 | P.148～150 |
| 再生フォルダ設定 | P.151 |
| 縦位置自動回転 | P.152 |
| スライドショー | P.153～154 |
| 非表示設定 | P.155～156 |
| プリント指定 | P.157～159 |

- カメラにCFカードが入っていない場合、再生メニューは表示されません。

## 削除

再生メニュー画面から「**削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、削除画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **選択画像削除** | 選択した画像を削除します。 |
| **全画像削除** | 全画像を削除します。 |

### 非表示設定、プロテクト設定された画像について

🔑 がついている画像はプロテクト設定 (👁 P.145) されているため、削除できません。また、非表示設定 (👁 P.155) されている画像はサムネイル表示されないため、削除できません。

### マルチセレクターの操作

画像再生中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

## 選択画像の削除

「**選択画像削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、再生メニューの「**再生フォルダ設定**」（ P.151）で設定したフォルダ内の画像がサムネイル表示されます。

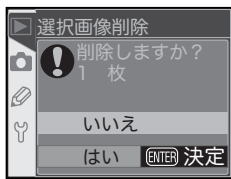
1

マルチセレクターの◀または▶を操作して削除する画像を選択します。

2

マルチセレクターの▲または▼の操作により選択画像の削除が設定されます。削除が設定された画像には が表示されます。

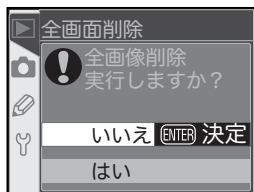
- 1と2の手順を繰り返して削除する画像をすべて設定してください。
- 削除の設定を解除する場合はマルチセレクターの▲または▼を押して、 を消します。
- 削除設定を行わずに終了する場合は、メニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

3

削除設定した状態で実行ボタン ENTER を押すと選択画像削除画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**はい**」または「**いいえ**」を選択します。

- 「**はい**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除を実行し、削除完了表示をして再生メニュー画面に戻ります。
- 「**いいえ**」を選択してから実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除は行われずにサムネイル表示画面に戻ります。

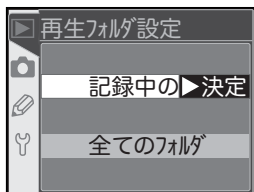
## 全画像削除

「**全画像削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作して、「**はい**」または「**いいえ**」を選択します。

- 「**はい**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、「**再生フォルダ設定**」(P.151) で設定したフォルダ内の全画像の削除が実行され、削除完了表示後、再生メニュー画面に戻ります。
- 「**いいえ**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、画像の削除は行われずに削除画面に戻ります。

### 削除に必要な時間について

「**選択画像削除**」、または「**全画像削除**」を実行する場合、作成されているフォルダ数、および記録されている画像ファイル数により、画像の削除が完了するまで数十分の時間がかかる場合があります。

## 再生フォルダ設定

画像を再生するフォルダを設定します。再生メニュー画面（👓 P.148）から「**再生フォルダ設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「再生フォルダ設定」の画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| **記録中のフォルダ** | 現在記録に使用されているフォルダを選択します。 |
| **全てのフォルダ** | CFカードに記録されている、参照可能なすべてのフォルダを選択します。 |

### 撮影後の再生フォルダ設定について

再生するフォルダ設定を「全てのフォルダ」にしても、撮影を行うと、自動的に「記録中のフォルダ」に変更されます。参照可能なすべてのフォルダの画像を再生するには、再度「全てのフォルダ」に設定してください。

### 記録するフォルダについて

画像を記録するフォルダはSETUPメニューの「**フォルダ設定**」（👓 P.188）で設定してください。

### SETUPメニューの「フォルダ設定」でフォルダを選択した場合

複数のフォルダを作成した状態で、再生するフォルダ設定を「**記録中のフォルダ**」にすると、SETUPメニューの「**フォルダ設定**」（👓 P.188）で選択されているフォルダのみが再生の対象となります。

### CFカードを交換した場合

再生するフォルダ設定を「**記録中のフォルダ**」にして、CFカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生すると、「撮影画像がありません」というメッセージが液晶モニタに表示されます。この場合、再生するフォルダ設定を「**全てのフォルダ**」にしてください。

## 縦位置自動回転

このカメラは、撮影時に構図の縦位置・横位置を感知する縦横位置センサーを内蔵しており、撮影画像に縦横位置の情報が記録されます。通常は画像再生時に、撮影時の縦横位置を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニタに表示しますが、「**しない**」に設定すると、すべての画像を横位置として表示します。再生メニュー画面（P.148）から「**縦位置自動回転**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「縦位置自動回転」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **する** | 画像再生時に、撮影時の縦横位置（P.203）を反映し、画像を自動的に回転して液晶モニタに表示します。 |
| **しない** | 画像再生時に、すべての画像を横位置として表示します。 |

### 縦位置画像の再生について

撮影画像を縦位置で再生する場合、画像が長さ比で約2/3に縮小されて表示されます。画面いっぱいに画像を表示したい場合、「**縦位置自動回転**」を「**しない**」に設定して再生してください。

### 姿勢情報記録（P.203）

SETUPメニューの「**姿勢情報記録**」では、撮影するすべての画像を横位置として記録するように変更できます。「**姿勢情報記録**」を「**OFF**」に設定して記録された画像は、「**縦位置自動回転**」の設定にかかわらず、すべての画像が横位置で表示されます。

## スライドショー

画像を一定の間隔で順次再生するスライドショーを行います。再生メニュー画面 (P.148) から「**スライドショー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、スライドショー選択画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **開始** | スライドショーを開始します。 |
| **インターバル設定** | 画像を切り換える時間間隔を設定します。 |

## スライドショーの開始

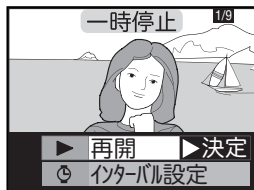
「**開始**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。「**再生フォルダ設定**」(P.151) で設定されたフォルダ内の画像が記録された順番で再生されます。ただし、「**非表示設定**」(P.155) されている画像は再生されません。スライドショーの実行中は、次の操作が可能です。

| 機能 | 操作 | 内容 |
|---|---|---|
| 1コマ進む | ▼ | マルチセレクターの▼を押すと、1コマ進みます。 |
| 1コマ戻る | ▲ | マルチセレクターの▲を押すと、1コマ戻ります。 |
| 画像情報を見る | ◀ ▶ | マルチセレクターの◀または▶を押すと、スライドショーの再生中に画像情報が表示され、画像情報画面の切り換えができます。 |
| 一時停止する | ENTER | 実行ボタン ENTER を押すと、スライドショーが一時停止します。 |

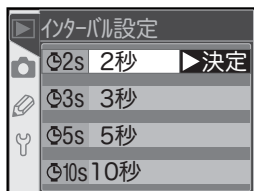
メニューガイド―再生メニュー

| 機能 | 操作 | 内容 |
|---|---|---|
| 再生メニューへ戻る | MENU | メニューボタン MENU を押すと、スライドショーを中止して再生メニューに戻ります。 |
| 再生モードに戻る | ▶ | 再生ボタン ▶ を押すと、スライドショーを中止して再生モードに戻ります。 |
| 撮影モードに戻る | シャッター半押し | シャッターボタンを半押しすると液晶モニタが消灯し、スライドショーを中止して撮影モードに戻ります。 |

スライドショーが終了するか、一時停止をした場合には右の画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼でメニュー項目を選択し、▶を押すと実行されます。

- 「**再開**」を選択すると、現在表示されている画像の次からスライドショーが再開されます。
- 「**インターバル設定**」を選択すると、画像を切り換える時間の間隔を設定できます。
- この状態でマルチセレクターの◀を押すか、メニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

## インターバル設定

1コマの画像を表示している時間の変更ができます。スライドショーの開始前、終了後、または一時停止中に表示される選択画面から、「**インターバル設定**」を選択します。マルチセレクターの▲または▼を操作して、画像を表示している時間を2秒、3秒、5秒、10秒のいずれかから選択します。

インターバル時間を選択した後、マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、スライドショーの設定画面に戻ります。「**開始**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、スライドショーが始まります。

## 非表示設定

画像を非表示設定にすると、その画像は非表示設定画面以外では表示されなくなります。再生メニュー画面（P.148）から「**非表示設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、再生メニュー画面の「**再生フォルダ設定**」（P.151）で設定したフォルダ内の画像がサムネイル表示されます。

1

マルチセレクターの◀または▶を操作して非表示設定にする画像を選択します。

2

マルチセレクターの▲または▼の操作により選択画像が非表示設定されます。非表示設定された画像には が表示されます。

- 1と2の手順を繰り返して非表示にする画像をすべて設定してください。
- 非表示設定を解除する場合はマルチセレクターの▲または▼を押して、 を消します。
- 非表示設定を行わずに終了する場合はメニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

3

非表示設定した状態で実行ボタン ENTER を押すと非表示設定が実行され、再生メニュー画面に戻ります。

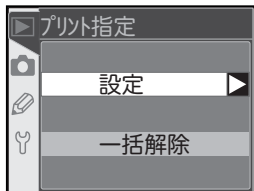
### 非表示画像のファイル属性とコマ番号

非表示設定画像は、DOSファイルフォーマットの「隠しファイル」属性と「読み取り専用」属性がセットされます。画像は非表示設定画面以外では表示されませんが、コマ番号は付加されます。また、RAWとBASICの同時記録で撮影された画像の場合、RAW画像とBASIC画像の両方に同じ属性がセットされます。

### プロテクト設定の解除について

プロテクトと非表示の両方が設定されていた画像の非表示設定を解除すると、プロテクト設定も解除されます。

## プリント指定

プリントする画像の選択、枚数の指定、撮影日時や撮影データの写し込みといった、撮影画像をプリントするための設定をあらかじめカメラでセットしたり消去したりすることができます。これらの設定内容は、デジタルプリントオーダーフォーマット（DPOF）に対応したプリントショップやプリンタでプリントする場合に適用されます。ただし、RAW画像に対してはプリント指定はできません。再生メニュー画面（P.148）から「**プリント指定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「プリント指定」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **設定** | プリント指定を行います。 |
| **一括解除** | プリント指定を一括解除します。 |

### 「プリント指定」が選択できない場合について

プリント指定の設定内容を書き込むための充分なメモリー残量がCFカードにない場合は、再生メニュー画面で「**プリント指定**」を選択することができません。不要な画像を削除して、再度操作してください。

### Exif※ Version 2.21について

D70は、Exif Version 2.21に対応しています。Exif Version 2.21は、デジタルカメラとプリンタの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.21対応のプリンタを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンタが最適なプリント出力を提供することができます。プリンタの使用説明書を読んでご使用ください。

※ Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras

### デジタルプリントオーダーフォーマット（DPOF）

DPOF（Digital Print Order Format）は、デジタルカメラで撮影した画像をラボプリントサービスや、家庭用のプリンタで自動プリントするための記録フォーマットです。これは、現在の各社独自仕様となっているプリント情報を標準化することで、より効率的なプリントの実現をするための規格です。

- ご使用のプリンタ・プリントサービスがDPOFに対応しているかご確認ください。

## プリント指定の設定

「**設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、プリント画像の選択画面が表示されます。

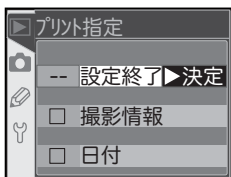
1

マルチセレクターの◀または▶を操作してプリント指定する画像を選択します。

2

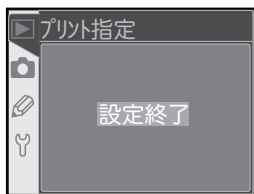
マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、選択画像のプリント指定を行います。プリント指定された画像には 🖨 が表示されます。

- マルチセレクターの▲を押すとプリント枚数は増加し（最高99枚）、▼を押すと減少します。
- 1と2の手順を繰り返してプリントする画像をすべて選択します。
- プリント指定を行わずに終了する場合は、メニューボタン MENU を押すと再生メニュー画面に戻ります。

3

プリント指定した状態で実行ボタン ENTER を押すと、プリント指定が完了し、「プリント指定画面」が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を押して、プリント時に印字する情報を選択します。

- 指定したすべての画像にシャッタースピードと絞り値をプリントするときは、「**撮影情報**」を選択して▶を押します。**撮影情報**の前の□に✓が入ります。
- 指定したすべての画像の撮影日をプリントするときは、「**日付**」を選択して▶を押します。**日付**の前の□に✓が入ります。
- 選択した項目のチェックを外すときは、その項目を選んで▶を押します。
- 選択項目の□に✓が入った状態で、「**設定終了**」を選んで▶を押すと、プリント指定が実行され、再生メニュー画面に戻ります。

## プリント指定の一括解除

「**一括解除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「設定終了」画面が一瞬表示されて再生メニュー画面に戻ります。

### プリント指定を行った場合のご注意

- プリント指定ファイルを作成したCFカード内の画像を、パソコンなどで削除しないでください。正しくプリントされなくなる場合があります。
- プリント指定した画像に、後から非表示設定の操作を行わないでください。

### 直接プリントする場合の注意点

画像の調整を行わずに直接プリントする画像を撮影するときは、撮影メニューの「**仕上がり設定**」(P.64) を「**ダイレクトプリント**」に設定するときれいにプリントできます。「**カスタマイズ**」を選択した場合は、「**カラー設定**」を「**モードIa (sRGB)**」または「**モードIIIa (sRGB)**」にすることをおすすめします。

# 撮影メニュー

撮影メニューには、次のメニュー項目があります。

| メニュー項目 | 👁 |
|---|---|
| 仕上がり設定※ | P.64～71 |
| ノイズ除去 | P.161 |
| 画質モード | P.43～44 |
| 画像サイズ | P.45～47 |
| ホワイトバランス※ | P.50～63 |
| ISO設定 | P.48～49 |

※ 撮影モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**にセットされている場合のみ設定できます。

## 仕上がり設定

記録する画像の仕上がりを７種類から選択、もしくはカスタマイズします。撮影モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**にセットされている場合のみ設定できます。内容については「撮影機能の詳細—仕上がり設定」をご覧ください（👁 P.64）。

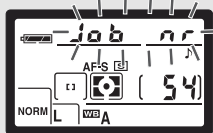
### マルチセレクターの操作

画像再生中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

## ノイズ除去

シャッタースピードが約1秒より低速になると、画像にノイズが入る場合があります。「**ノイズ除去**」を「**ON**」にすると、このノイズを低減させることができます。撮影メニュー画面（P.160）から「**ノイズ除去**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ノイズ除去」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| OFF（初期設定） | ノイズ除去は機能しません。 |
| ON | シャッタースピードが約1秒より低速になると、ノイズ除去が機能します。撮影後のノイズ除去処理中は、シャッタースピードと絞り表示部に Job nr が点滅します。撮影後のノイズ除去処理に、撮影時間とほぼ同じ時間がかかるため、画像記録するまでの時間がその分だけ長くなります。この表示が消えると、次の撮影が可能になります。<br>•「**ノイズ除去**」を「**ON**」に設定した場合、連続撮影速度は低下します。 |

### 連続撮影可能コマ数表示について

ノイズ除去をONに設定すると、連続撮影可能コマ数が画質モードによって次のようになります。

| 画質モード | 画像サイズ | 連続撮影可能コマ数 |
| --- | --- | --- |
| RAW | — | 3 |
| FINE | L | 7 |
| | M | 5 |
| | S | 17 |
| NORMAL | L | 10 |
| | M | 5 |
| | S | 25 |

| 画質モード | 画像サイズ | 連続撮影可能コマ数 |
| --- | --- | --- |
| BASIC | L | 17 |
| | M | 5 |
| | S | 47 |
| RAW＋BASIC | L | 3 |

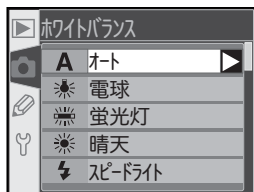
## 画質モード

画像を記録する際の画質を５種類から選択します。内容については「撮影機能の詳細—画質モードと画像サイズ」をご覧ください（ P.43）。

## 画像サイズ

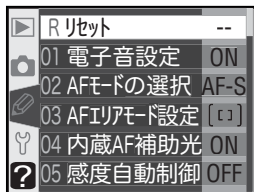
画像を記録する際の画像サイズ（大きさ）を**L(3008×2000)**、**M（2240×1488)**、**S（1504×1000)** から選択します。内容については「撮影機能の詳細—画質モードと画像サイズ」をご覧ください（ P.45）。

## ホワイトバランス

ホワイトバランスを８種類から選択します。撮影モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**にセットされている場合のみ設定できます。内容については「撮影機能の詳細—ホワイトバランス」をご覧ください（ P.50）。

## ISO設定

撮像感度を撮影状況により標準（200）よりも高く設定することができます。内容については「撮影機能の詳細—撮像感度」をご覧ください（ P.48）。

# カスタムメニュー

カスタムメニューには、次のカスタムセッティングがあります。カスタムセッティングにより、カメラの各機能の働きやセット内容を、撮影者自身の好みにあった状態に変更できます。

| カスタムセッティング | 👁 |
|---|---|
| R リセット | P.165 |
| 1 電子音設定 | P.166 |
| 2 AFモードの選択 | P.167 |
| 3 AFエリアモード設定 | P.168～169 |
| 4 内蔵AF補助光 | P.170 |
| 5 感度自動制御 | P.171～172 |
| 6 カード無時レリーズ | P.173 |
| 7 撮影画像確認 | P.173 |
| 8 格子線表示 | P.174 |
| 9 露出値ステップ幅 | P.174 |

- カスタムセッティング10～カスタムセッティング25を表示するには、SETUPメニューの「**カスタムメニュー表示**」(👁 P.194) を「**アドバンストメニュー**」に設定してください。

| カスタムセッティング | 👁 |
|---|---|
| 10 簡易露出補正 | P.175 |
| 11 中央測光範囲 | P.176 |
| 12 オートBKTセット | P.176 |
| 13 BKT補正順序 | P.177 |
| 14 コマンドダイヤル変更 | P.177 |
| 15 AE/AFロックボタン | P.178 |
| 16 半押しAEロック | P.179 |
| 17 フォーカスエリア循環 | P.179 |

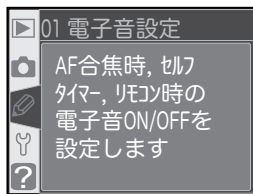
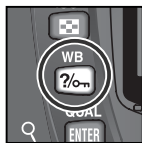
| カスタムセッティング | 👁 |
|---|---|
| **18** フォーカスエリア照明 | P.180 |
| **19** 内蔵SB発光 | P.181～183 |
| **20** SB推奨表示 | P.184 |
| **21** SBシャッター制限 | P.184 |
| **22** 液晶モニタパワーオフ | P.185 |
| **23** 半押しタイマー | P.185 |
| **24** セルフタイマー | P.186 |
| **25** リモコン待機時間 | P.186 |

カスタムメニュー項目はマルチセレクターの▲または▼を操作して選択します。

- SETUPメニューの「**カスタムメニュー表示**」(👁 P.194) を「**シンプルメニュー**」に設定している場合は、カスタムセッティングRの「**リセット**」を選択しているときに▲を押すと、カスタムセッティング9の「**露出値ステップ幅**」に移動します。また、カスタムセッティング9の「**露出値ステップ幅**」を選択しているときに▼を押すと、カスタムセッティングRの「**リセット**」に移動します。
- SETUPメニューの「**カスタムメニュー表示**」(👁 P.194) を「**アドバンストメニュー**」に設定している場合は、カスタムセッティングRの「**リセット**」を選択しているときに▲を押すと、カスタムセッティング25の「**リモコン待機時間**」に移動します。また、カスタムセッティング25の「**リモコン待機時間**」を選択しているときに▼を押すと、カスタムセッティングRの「**リセット**」に移動します。

## カスタムメニューのヘルプ機能

カスタムメニュー画面の項目を選択しているときや、各カスタムセッティングの設定画面を表示しているときに、プロテクト（ヘルプ）ボタン ?/o⊸ を押すと、そのカスタムセッティングの説明が表示されます。

### マルチセレクターの操作

画像再生中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

## カスタムセッティングR：リセット

カスタムリセットはすべてのカスタムセッティングの設定内容を初期設定に戻す場合に使用します。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**リセット**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「リセット」の確認画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **しない**<br>（初期設定） | カスタムセッティングのリセットは行いません。 |
| **する** | カスタムセッティングを初期設定に戻します。 |

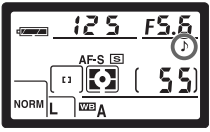
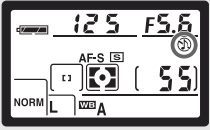
*カスタムセッティングの初期設定*

| カスタムセッティング | 初期設定 |
|---|---|
| 1 電子音設定 | ON |
| 2 AFモードの選択 | AF-S※1 |
| 3 AFエリアモード設定 | シングル※2 |
| 4 内蔵AF補助光 | ON |
| 5 感度自動制御 | OFF |
| 6 カード無時レリーズ | レリーズ禁止 |
| 7 撮影画像確認 | ON |
| 8 格子線表示 | OFF |
| 9 露出値ステップ幅 | 1/3段 |
| 10 簡易露出補正 | OFF |
| 11 中央測光範囲 | φ8mm |
| 12 オートBKTセット | AE・SB<br>ブラケティング |
| 13 BKT補正順序 | 初期設定の順 |
| 14 コマンドダイヤル変更 | OFF |
| 15 AE/AFロックボタン | AE/AF同時ロック |
| 16 半押しAEロック | OFF |
| 17 フォーカスエリア循環 | OFF |
| 18 フォーカスエリア照明 | AUTO |
| 19 内蔵SB発光 | TTLモード |
| 20 SB推奨表示 | ON |
| 21 SBシャッター制限 | 1/60 |
| 22 液晶モニタパワーオフ | 20秒 |
| 23 半押しタイマー | 6秒 |
| 24 セルフタイマー | 10秒 |
| 25 リモコン待機時間 | 1分 |

※1 撮影モードダイヤルを にセットした場合の初期設定は、「**AF-C**」です。
※2 撮影モードダイヤルを AUTO、、、、、 にセットした場合の初期設定は、「**至近優先ダイナミック**」です。

### ツーボタンリセット

カスタムセッティングはツーボタンリセットではリセットできません（P.135）。

## カスタムセッティング 1：電子音設定

初期設定では次の場合に電子音が鳴りますが、鳴らないように変更できます。

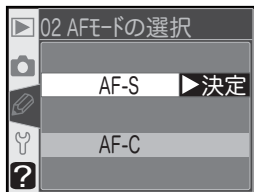
- セルフタイマー作動中
- ２秒リモコン撮影作動中
- 瞬時リモコン撮影完了時
- オートフォーカスのピントが合ったとき（フォーカスモードが**AF**で、カスタムセッティング2「**AFモードの選択**」が「**AF-S**」の場合のみ）

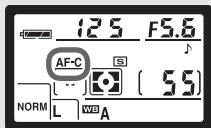
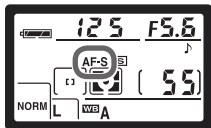
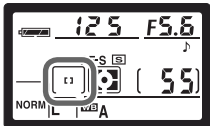
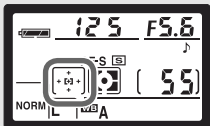
カスタムメニュー画面（P.163）から「**1 電子音設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「電子音設定」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| ON<br>（初期設定） | 上記の場合に電子音が鳴ります。表示パネルに電子音ありマーク ♪ が表示されます。 |
| OFF | 電子音は鳴りません。表示パネルに電子音なしマーク が表示されます。 |

## カスタムセッティング 2：AFモードの選択

フォーカスモードセレクトダイヤルを**AF**（オートフォーカス）（ P.74）にセットした場合に、フォーカス優先のシングルAFサーボ（AF-S）にするか、レリーズ優先のコンティニュアスAFサーボ（AF-C）にするかを選択できます。
カスタムメニュー画面（ P.163）から「**2 AFモードの選択**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「AFモードの選択」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **AF-S**<br>（**P**、**S**、**A**、**M**、、、、、、の初期設定） | フォーカス優先のシングルAFサーボになります。ファインダー内のピント表示（●）が点灯するまで、シャッターボタンを押してもシャッターがきれません。フォーカスモードが**AF**（オートフォーカス）の場合、表示パネルに**AF-S**が表示されます。 |
| **AF-C**<br>（ の初期設定） | レリーズ優先のコンティニュアスAFサーボ）になります。ファインダー内のピント表示（●）の点灯／消灯にかかわらず、シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。フォーカスモードが**AF**（オートフォーカス）の場合、表示パネルに**AF-C**が表示されます。 |

### デジタルイメージプログラムについて

撮影モードダイヤルを切り換えてデジタルイメージプログラムにセットするたびに、カスタムセッティング2「**AFモードの選択**」が、各デジタルイメージプログラムの初期設定にリセットされます。

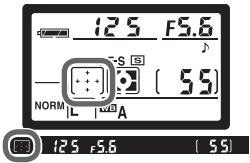
## カスタムセッティング 3：AFエリアモード設定

オートフォーカス時 (P.74) に、選択したフォーカスエリアだけでピントを合わせる「**シングル**」、または5つのフォーカスエリアすべてを活用してピントを合わせる「**ダイナミック**」、すべてのフォーカスエリアのうち自動的に一番近い被写体にピントを合わせる「**至近優先ダイナミック**」のいずれかを選択することができます。選択したAFエリアモードは、表示パネル、ファインダー内表示で確認できます。
カスタムメニュー画面 (P.163) から「**3 AFエリアモード設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「AFエリアモード設定」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| シングル (**P**、**S**、**A**、**M**、の初期設定) | 5つのフォーカスエリアから、撮影者が選択した1つのフォーカスエリア※のみでピントを合わせます。動きの少ない被写体に対して、選択したフォーカスエリア単独で正確にピントを合わせたい場合などに便利です。 |
| **ダイナミック** | 撮影者が選択した1つのフォーカスエリア※からピントを合わせたい被写体が一時的にはずれた場合でも、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせることができます (ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません)。このモードは、動いている被写体 (特に不規則な動きをする被写体) を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。 |

※ フォーカスエリアの選択については。「撮影機能の詳細―フォーカス」(P.74) をご覧ください。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| [■]<br>**至近優先ダイナミック**<br>（AUTO、、、、、の初期設定） | ５つのフォーカスエリアのうち、いちばん近い被写体に重なっているフォーカスエリアを使用してカメラが自動的にピントを合わせ、ピントが合うとピントを合わせたフォーカスエリアがバリブライト表示（P.8）されフォーカスロックされます（コンティニュアスAFサーボ時はフォーカスロックされません：P.167）。また、被写体が動いてフォーカスロックが解除され、ピントの合ったフォーカスエリアから外れた場合には、他のフォーカスエリアからのピント情報を利用してピントを合わせます。<br>• 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い場合には、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際には「**シングル**」に設定することをおすすめします。 |

## AFエリアモード表示について

- 「**シングル**」、「**ダイナミック**」に設定した場合は、選択されているフォーカスエリアによって、表示パネルに点灯するフォーカスエリアの位置が異なります。表のイラストは中央のフォーカスエリアを選択した場合です。
- 「**至近優先ダイナミック**」に設定した場合、ピントが合うと、ファインダースクリーンのピントを合わせたフォーカスエリアが点灯します。

## デジタルイメージプログラムについて

撮影モードダイヤルを切り換えてデジタルイメージプログラムにセットするたびに、カスタムセッティング２「**AFモードの選択**」が、各デジタルイメージプログラムの初期設定にリセットされます。

## カスタムセッティング 4：内蔵AF補助光

撮影モードダイヤルが 、 、 以外にセットされ、内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合(P.82)、シャッターボタンを半押しすると自動的に内蔵AF補助光が照射されますが、内蔵AF補助光を発光しないように変更できます（ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります）。

カスタムメニュー画面 (P.163) から「**4 内蔵AF補助光**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「内蔵AF補助光」の設定画面が表示されます。

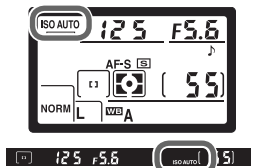
マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| ON<br>（初期設定） | 撮影モードダイヤルが 、 、 以外にセットされ、内蔵AF補助光の発光条件が満たされた場合に内蔵AF補助光を照射します。 、 、 にセットされている場合は、設定にかかわらず発光しません。 |
| OFF | 内蔵AF補助光は発光しません。 |

## カスタムセッティング 5：感度自動制御

「ON」を選択すると、撮影時の設定条件では適正露出を得られない場合にカメラが自動的に撮像感度（ISO相当）を制御して適正露出にします（または適正露出に近づけます）。撮像感度は200～1600の範囲で制御します。スピードライト使用時も、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**5 感度自動制御**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、「感度自動制御」の設定画面が表示されます。

- 「ON」に設定した場合、表示パネルに**ISO AUTO**が表示され、感度が自動制御されると点滅します。ただし、スピードライト使用時は感度が自動制御される場合でも、**ISO AUTO**は点滅しません。

### スピードライト使用時の感度自動制御について

カスタムセッティング5を「ON」に設定すると、スピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし感度自動制御が機能して撮像感度が高感度になると、次の場合に背景が露出オーバーになることがあります。背景を重視する場合は「**感度自動制御**」を「OFF」に設定してください。

- 低速シャッタースピードでスピードライト撮影（スローシンクロ）を行う場合
- 日中の明るい場所でスピードライト撮影（日中シンクロ）を行う場合
- 背景が明るい場合

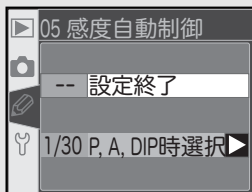
### 高感度で記録された画像

撮像感度が高くなると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。

### 撮像感度表示について

感度ボタン（**ISO**）を押して表示パネルに表示される撮像感度は、設定された撮像感度です。カスタムセッティング5が「ON」に設定されている場合でも、実際に撮影される撮像感度は表示されません。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| OFF<br>（初期設定） | 露出の状態にかかわらず、撮影者が設定した撮像感度に固定されます。 |
| ON | 撮影モードダイヤルをセットした位置により、次のように制御されます。<br>• **P、A、、、、、、、の場合**<br>設定した低速側シャッタースピードでは露出不足になる場合や、シャッタースピードが1/8000秒でも露出オーバーになる場合に、自動的に撮像感度を変更して適正露出を得ます（もしくは適正露出に近づけます）。<br>• **Sの場合**<br>セットしたシャッタースピードで適正露出が得られない場合、自動的に撮像感度を変更して適正露出を得ます（もしくは適正露出に近づけます）。<br>• **Mの場合**<br>セットしたシャッタースピード、絞り値で適正露出が得られない場合、自動的に撮像感度を変更して適正露出を得ます（もしくは適正露出に近づけます）。<br>「ON」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、サブメニューの選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。<br>05 感度自動制御<br>-- 設定終了<br>1/30 P, A, DIP時選択▶<br>•「**設定終了**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、そのままカスタムメニュー画面に戻ります。<br>•「**P、A、DIP時選択**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、**P**、**A**、、、、、、、で撮像感度の自動制御を行う場合の、低速側シャッタースピード指定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、1/125～30秒（1段ステップ、初期設定1/30秒）のいずれかのシャッタースピードを選択して、マルチセレクターの▶を押すと、カスタムメニュー画面に戻ります。<br>05 P, A, DIP時選択<br>1/125<br>1/60<br>1/30 ▶決定<br>1/15<br>1/8<br>いずれのモードでも、スピードライト使用時は、使用するスピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。 |

## カスタムセッティング 6：カード無時レリーズ

初期設定ではカメラにCFカードを入れていない場合はレリーズできませんが、レリーズできるように変更できます。
カスタムメニュー画面（P.163）から「**6 カード無時レリーズ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「カード無時レリーズ」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **レリーズ禁止**（初期設定） | カメラにCFカードを入れていない場合、レリーズはできません。 |
| **レリーズ許可** | カメラにCFカードを入れていない場合でも、レリーズ可能となります。 |

- ニコン キャプチャー 4カメラコントロール（Ver.4.1 以降）と接続した場合は、記録先がパソコンになるため、「**カード無時レリーズ**」を「**レリーズ禁止**」に設定してもシャッターをきることができます。

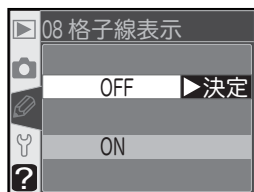
## カスタムセッティング 7：撮影画像確認

初期設定ではCFカードに画像データを書き込みながら、液晶モニタにも自動的に撮影画像が表示されますが、再生ボタン ▣ を押した場合にのみ表示されるように変更できます。
カスタムメニュー画面（P.163）から「**7 撮影画像確認**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「撮影画像確認」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| ON（初期設定） | 撮影後、液晶モニタに撮影画像が自動的に表示されます。 |
| OFF | 撮影後、自動では液晶モニタに撮影画像が表示されません。画像を表示するにはモニタボタン ▣ を押してください。 |

## カスタムセッティング 8：格子線表示

アオリ撮影や水平、垂直位置出しなどに便利な構図用格子線（P.8）をファインダーに表示させることができます。構図用格子線を表示させるときは「ON」を選択します。初期設定は「OFF」です。
カスタムメニュー画面（P.163）から「**8 格子線表示**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「格子線表示」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

## カスタムセッティング 9：露出値ステップ幅

初期設定では露出値（シャッタースピード、絞り、露出補正値、オートブラケティング補正ステップ、調光補正値）を1/3段で表示または設定できますが、1/2段に変更できます。
カスタムメニュー画面（P.163）から「**9 露出値ステップ幅**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「露出値ステップ幅」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

## カスタムセッティング 10：簡易露出補正

露出補正ボタン を使用せずに、コマンドダイヤルのみで露出補正できるように変更することができます。露出補正は撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**にセットした場合に、±5段の間でセットできます（P.101）。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**10 簡易露出補正**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「簡易露出補正」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| OFF<br>（初期設定） | 露出補正ボタン とメインコマンドダイヤルで露出補正を設定します。 |
| ON | コマンドダイヤルのみで露出補正をします。カスタムセッティング14「**コマンドダイヤル変更**」の設定により、次の表で記載しているダイヤルで露出補正が可能です。 |

| 撮影モードダイヤル | カスタムセッティング 14 OFF | カスタムセッティング 14 ON |
|---|---|---|
| **P** | サブコマンドダイヤル | サブコマンドダイヤル |
| **S** | サブコマンドダイヤル | メインコマンドダイヤル |
| **A** | メインコマンドダイヤル | サブコマンドダイヤル |
| その他のモードでは機能しません。 | | |

## カスタムセッティング 11：中央測光範囲

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光範囲の初期設定はφ8mmですが、φ6mm、φ10mm、φ12mmのいずれかに変更できます。中央部重点測光は撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合に設定できます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**11 中央測光範囲**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「中央測光範囲」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

## カスタムセッティング 12：オートBKTセット

オートブラケティング（P.103）セット時の内容を、AEブラケティングとSBブラケティングの同時セット、AEブラケティングのみのセット、SBブラケティングのみのセット、またはWBブラケティングのセットに設定できます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**12 オートBKTセット**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「オートBKTセット」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| AE・SBブラケティング（初期設定） | AEブラケティングとSBブラケティングを同時に行います。 |
| AEブラケティング | AEブラケティングを行います。 |
| SBブラケティング | SBブラケティングを行います。 |
| WBブラケティング | WBブラケティングを行います。画質モードが「**RAW**」、「**RAW＋BASIC**」の場合、WBブラケティングは使用できません。 |

## カスタムセッティング 13：BKT補正順序

オートブラケティングの補正順序を初期設定の順（P.106、111）から、マイナス側からプラス側の順序に変更できます。
カスタムメニュー画面（P.163）から「**13 BKT補正順序**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「BKT補正順序」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **初期設定の順**<br>（初期設定） | オートブラケティングの補正順序は、初期設定の順（P.106、111）になります。 |
| **ー側から＋側へ** | オートブラケティングの補正順序は、マイナス側からプラス側になります。 |

## カスタムセッティング 14：コマンドダイヤル変更

初期設定ではメインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞りをセットしますが、「**ON**」に設定すると、この機能を入れ換えることができます。
カスタムメニュー画面（P.163）から「**14 コマンドダイヤル変更**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「コマンドダイヤル変更」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| OFF<br>（初期設定） | メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。 |
| ON | メインコマンドダイヤルで絞りを、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。 |

## カスタムセッティング 15：AE/AFロックボタン

初期設定ではAE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すとAEロックとフォーカスロックが同時に行われますが、下の表のように変更できます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**15 AE/AFロックボタン**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「AE/AFロックボタン」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **AE/AF同時ロック**（初期設定） | AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、AEロックとフォーカスロックが同時に行われます。 |
| **AEロックのみ** | AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、AEロックのみが行われます。 |
| **AFロックのみ** | AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、フォーカスロックのみが行われます。 |
| **AEロック維持** | AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、AEロック状態が維持され、再度押すと解除されます。 |
| **AF作動** | AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、オートフォーカスが作動します。この場合、シャッターボタンの半押しではオートフォーカスは作動しません。 |
| **FVロック** | AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押すと、FVロック状態が維持され、再度押すと解除されます（P.126）。 |

## カスタムセッティング 16：半押しAEロック

初期設定ではAE/AFロックボタン (AE-L AF-L) を押しているときにAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押ししたときにもAEロックが行われるように変更できます。

カスタムメニュー画面 (P.163) から「**16 半押しAEロック**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「半押しAEロック」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| OFF<br>（初期設定） | AE/AFロックボタン (AE-L AF-L) でAEロックします。シャッターボタンの半押しではAEロックしません。 |
| ON | AE/AFロックボタン (AE-L AF-L) またはシャッターボタンの半押しでAEロックします。 |

## カスタムセッティング 17：フォーカスエリア循環

初期設定では上下、または左右反対側にあるフォーカスエリアを選択する場合、マルチセレクターの反対方向を押さなければなりません。循環方式に変更すると、マルチセレクターの▲を押すと上方向に、▼を押すと下方向に、▶を押すと右方向に、◀を押すと左方向に、それぞれ循環させることができます。これによりマルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

カスタムメニュー画面 (P.163) から「**17 フォーカスエリア循環**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォーカスエリア循環」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| OFF<br>（初期設定） | フォーカスエリア選択の際、循環方式は使用できません。 |
| ON | フォーカスエリア選択の際、循環方式を使用できます。 |

## カスタムセッティング 18：フォーカスエリア照明

初期設定ではファインダー内のフォーカスエリア（フレーム）は、マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて見やすいように、瞬間的に赤色に自動照明しますが、照明しない、もしくは被写体の明るさによらず照明するように変更できます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**18 フォーカスエリア照明**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォーカスエリア照明」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| AUTO（初期設定） | マルチセレクターで選択されたフォーカスエリアを被写体の明るさに応じて赤色に自動照明します。 |
| OFF | フォーカスエリアを照明しません。 |
| ON | 被写体の明るさに関係なく常にフォーカスエリアを赤く照明します。背景の明るさによっては、赤色の照明が見えない場合があります。 |

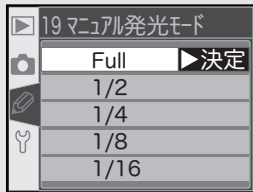
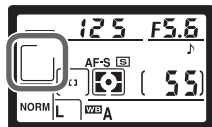
## カスタムセッティング 19：内蔵SB発光

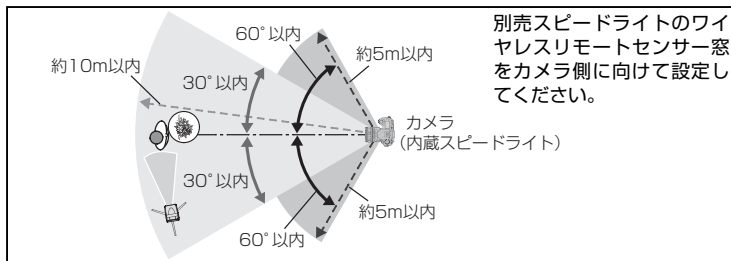
初期設定では内蔵スピードライトはi-TTL調光を行いますが、マニュアル発光モードや、内蔵スピードライトを本発光させずにカメラから離れた別売スピードライトSB-800、SB-600を制御するコマンダーモードに変更することができます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**19 内蔵SB発光**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「内蔵SB発光」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| TTLモード（初期設定） | 内蔵スピードライトの光量は、撮影状況に応じて自動的に調節されます。 |
| マニュアル発光モード | 内蔵スピードライトが指定した発光量（以下参照）で発光します。撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合のみ使用できます。このモードに設定すると、表示パネルとファインダー内の調光補正マークが点滅します。モニタ発光を行わないので、内蔵スピードライトを多灯撮影のマスタースピードライトとして使用することができます。<br>「**マニュアル発光モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、発光量の選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**Full**」（フル発光）、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」のいずれかの発光量を選択して▶を押すと、カスタムメニュー画面に戻ります。なお、「**Full**」（フル発光）に設定した場合、内蔵スピードライトのガイドナンバーは約17（ISO200・m、20℃）/約12（ISO100・m、20℃）となります。 |

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| コマンダーモード | 内蔵スピードライトは本発光しませんが、プリ発光しながら、カメラから離れた別売スピードライトSB-800※1、SB-600※1をワイヤレスで制御します。撮影モードダイヤルを**P**、**S**、**A**、**M**にセットした場合のみ使用できます。1個または複数のスピードライトを同時に制御できますが、カメラで指定した調光方式で制御されます。<br>「**コマンダーモード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、調光方式の選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**TTL**」(i-TTL調光)、「**AA**」(絞り連動外部自動調光)、「**M**」(マニュアル発光)のいずれかの調光方式を選択して、マルチセレクターの▶を押します。※2、※3<br>19 コマンダーモード / TTL TTL ▶決定 / AA AA / FULL M<br>•「**M**」を選択した場合、さらに別売スピードライト発光量の選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**FULL**」(フル発光)、「**1/2**」、「**1/4**」、「**1/8**」、「**1/16**」、「**1/32**」、「**1/64**」、「**1/128**」から選択して、▶を押すと、カスタムメニュー画面に戻ります。<br>19 M / Full ▶決定 / 1/2 / 1/4 / 1/8 / 1/16<br>※1 別売スピードライトSB-800、SB-600のチャンネルを「**3**」、グループを「**A**」に設定してください。詳しくは別売スピードライトの使用説明書をご覧ください。<br>※2 「**AA**」に設定してSB-600を使用した場合は、機能しません。<br>※3 非CPUレンズを装着した場合、「**TTL**」と「**AA**」は使用できません。この場合、表示パネルのシンクロモード表示の外枠、およびファインダー内のレディライト ϟ が点滅し、シャッターがきれません。 |

- 「**コマンダーモード**」に設定した場合、内蔵スピードライトがポップアップした状態では、表示パネルのシンクロモード表示から ϟ が消灯します。

## *コマンダーモード時の配置について*

カスタムセッティング19「**内蔵SB発光**」を「**コマンダーモード**」に設定して、ワイヤレスで別売スピードライトSB-800、SB-600を使用する場合は、別売スピードライトを図の範囲内に配置してください。

- カメラの内蔵スピードライトと別売スピードライトの距離は、カメラの対向正面（左右各30°以内）で約10mまで、両サイド（左右各60°以内）で約5mまでが目安です。ただし、周辺環境により、この距離は多少変化します。
- コマンダーモードで使用する場合、別売スピードライトのをチャンネルを「**3**」、グループを「**A**」に設定してください。複数の別売スピードライトを使用する場合は、1グループのみ制御可能です。

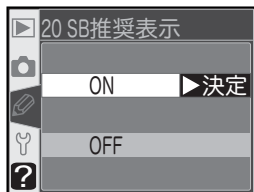
### コマンダーモード時のご注意

- コマンダーモード時は内蔵スピードライトがプリ発光を行えるよう、シンクロモードボタン（スピードライトロック解除ボタン）⚡を押して内蔵スピードライトをポップアップしてください。
- 別売スピードライトは、内蔵スピードライトのプリ発光の光がセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影する場合、プリ発光の光が確実にセンサー窓に入るように、別売スピードライトはカメラより前に構えてください。
- 別売スピードライトの直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（「**TTL**」設定時）や他の別売スピードライトの外部調光用受光窓（「**AA**」設定時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できる別売スピードライトの台数に制限はありません。しかし、センサーに他の別売スピードライトの強い光が入ると、正常動作できない場合があるため、実用上は3台程度が限度です。
- 別売スピードライトの発光タイミングを合わせるため、プリ発光とは別に、撮影中に内蔵スピードライトが少量発光を行います。近距離撮影を行う場合、この少量発光が画像に写り込む場合があります。画像への影響を防ぐには、低い撮像感度、または小さい絞り（大きい絞り値）に設定して撮影してください。また、少量発光の光量が大きくなる後幕シンクロ撮影はおすすめしません。
- カメラ側で調光補正（P.125）を設定すると、別売スピードライトの発光量が補正されます。
- 配置が終わったら、必ずテスト撮影を行って、画像を確認してください。
- ご使用になる別売スピードライトの使用説明書もあわせてご覧ください。

## カスタムセッティング 20：SB推奨表示

初期設定では、撮影モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**にセットされているときに、被写体が暗くて露出不足や手ブレのおそれがある場合や、逆光の場合、ファインダー内のレディライト ⚡ が点滅してスピードライトの使用をすすめますが、点滅しないように変更できます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**20 SB推奨表示**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「SB推奨表示」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| ON<br>（初期設定） | 撮影モードダイヤルが**P**、**S**、**A**、**M**にセットされていると、被写体が暗かったり逆光の場合、ファインダー内のレディライト ⚡ が点滅してスピードライトの使用をすすめます。ただし、内蔵スピードライトがポップアップしている場合や、別売スピードライトが装着されている場合は点滅しません。 |
| OFF | 撮影状況にかかわらず、レディライト ⚡ はスピードライトの使用を推奨する点滅を行いません |

## カスタムセッティング 21：SBシャッター制限

初期設定では、スピードライト撮影時の撮影モードダイヤルが**P**、**A**にセットされている場合、シャッタースピードの低速側が1/60秒に制限されますが、1/60秒～30秒の範囲で1段ステップで設定することができます。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**21 SBシャッター制限**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「SBシャッター制限」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

- スローシンクロモード時は、自動的にシャッタースピードの低速側の制限が30秒まで延長されます。

## カスタムセッティング 22：液晶モニタパワーオフ

操作を終了してから液晶モニタが自動的にオフになるまでの時間を10秒、20秒、1分、5分、10分に設定します。初期設定は20秒です。液晶モニタの表示時間を延長するとバッテリーの消耗が速くなります。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**22 液晶モニタパワーオフ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「液晶モニタパワーオフ」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

- ACアダプタEH-5（別売）接続中は、カスタムセッティング22の設定にかかわらず、液晶モニタが自動的にオフになるまでの時間が約10分に固定されます。

## カスタムセッティング 23：半押しタイマー

カメラの電源スイッチをONにしたときやシャッターボタンを半押ししたときの半押しタイマーの作動時間を4秒、6秒、8秒、16秒、30分のいずれかに変更できます。初期設定は6秒です。半押しタイマーを延長すると、バッテリーの消耗が速くなります。

カスタムメニュー画面（P.163）から「**23 半押しタイマー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「半押しタイマー」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

- ACアダプタEH-5（別売）接続中は、カスタムセッティング23の設定にかかわらず、半押しタイマーはオフになりません。

## カスタムセッティング 24：セルフタイマー

セルフタイマー撮影（ P.128）の際、シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでの時間を、2秒、5秒、10秒、20秒のいずれかに変更できます。初期設定は10秒です。

カスタムメニュー画面（ P.163）から「**24 セルフタイマー**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「セルフタイマー」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

## カスタムセッティング 25：リモコン待機時間

リモコン撮影（ P.130）の際、撮影動作モードを（2秒リモコン撮影）または（瞬時リモコン撮影）にセットしてからの、リモコン受信待機時間を1分、5分、10分、15分のいずれかに変更できます。初期設定は1分です。

カスタムメニュー画面（ P.163）から「**25 リモコン待機時間**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「リモコン待機時間」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定を選択します。▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

- リモコン操作が行われないままリモコン受信待機時間が終了したり、電源スイッチをOFFにしてからONにすると、リモコン受信待機状態が解除されて、S（1コマ撮影）、（連続撮影）のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。

# SETUPメニュー

SETUPメニューには次のメニュー項目があります：

フォルダ設定 NCD70
連番モード OFF
カードフォーマット --
カスタムメニュー表示
日時設定
画面の明るさ 0

言語(LANG) 日
画像コメント OFF
USB設定 M
ダストオフデータ取得 --
ファームウェアバージョン --
姿勢情報記録 ON

| メニュー項目 | 👁 |
|---|---|
| フォルダ設定 | P.188～191 |
| 連番モード | P.192 |
| カードフォーマット | P.193 |
| カスタムメニュー表示 | P.194 |
| 日時設定 | P.194 |
| 画面の明るさ | P.195 |
| クリーニングミラーアップ | P.195 |
| ビデオ出力 | P.196 |
| 言語（LANG） | P.196 |
| 画像コメント | P.197～198 |
| USB設定 | P.199 |
| ダストオフデータ取得 | P.200～202 |
| ファームウェアバージョン | P.203 |
| 姿勢情報記録 | P.203～204 |

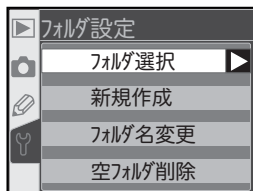
### マルチセレクターの操作

画像再生中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

## フォルダ設定

画像を記録するフォルダの選択や新規作成を行います。

SETUPメニュー画面（P.187）から「**フォルダ設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォルダ設定」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **フォルダ選択** | 画像を記録するフォルダを、既存のフォルダから選択します。 |
| **新規作成** | 画像を記録するフォルダを新規に作成します。作成したフォルダには、任意のフォルダ名（5文字）を付けることができます。 |
| **フォルダ名変更** | 既存のフォルダ名を変更します。 |
| **空フォルダ削除** | 画像が記録されていないフォルダを削除します。 |

### フォルダが新規に作成された場合

記録中のフォルダに記録されている画像ファイルが999コマ存在するか、9999というファイル番号が存在した場合に撮影を行うと、同じフォルダ名で番号が更新されたフォルダが自動的に作成されます。

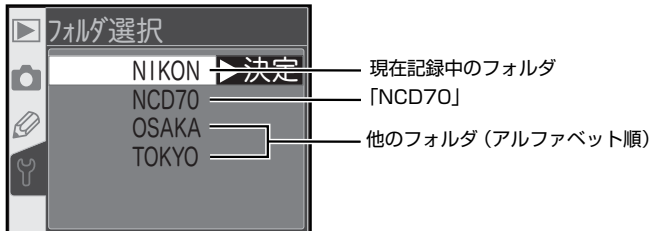
「**フォルダ選択**」では、フォルダ名の選択のみ可能で、フォルダ名が同一のフォルダのうち、最大フォルダ番号のフォルダのみが記録の対象となります。たとえば、101NCD70、102NCD70に続いて103NCD70が新規に作成された場合、103NCD70のみに画像が記録されます。

「**フォルダ名変更**」では、同一のフォルダ名を持つ、全てのフォルダのフォルダ名が変更されます。ただし、フォルダ番号を変更することができません。

## フォルダ選択

「**フォルダ選択**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「フォルダ選択」の設定画面が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、画像を記録するフォルダを選択できます。ただし、フォルダ番号を指定して選択することはできません。選択して、マルチセレクターの▶を押すと、SETUPメニュー画面に戻ります。

### フォルダの選択画面について

フォルダの選択画面では、現在記録中のフォルダ、「NCD70」の順にフォルダ名が表示され、その下にCFカードに保存されているその他のフォルダがアルファベット順に表示されます。現在記録中のフォルダは、削除したり、CFカードを交換した場合でもそのまま表示され、選択して撮影を行うと同じフォルダ名のフォルダが作成されます。

## 新規作成

**1** 「**新規作成**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、下のようなフォルダ名編集画面が表示されます。5文字まで入力できます。

キーボードエリア

マルチセレクターを使って文字を選択します。プロテクトボタン ?/⊶ を押すと、文字が決定します。

フォルダ名エリア

入力した文字が表示されます。カーソルを左右に移動させる場合はサムネイルボタン ⊞ とメインコマンドダイヤルを使用します。

- フォルダ名エリアの現在のカーソル位置に新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを使って入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、プロテクトボタン ?/⊶ を押します。
- フォルダ名エリアのカーソルを左右に移動する場合は、サムネイルボタン ⊞ とメインコマンドダイヤルを使用します。
- 文字はカーソル位置に挿入されます。
- 6文字以上入力すると、フォルダ名エリア（5文字）からあふれた文字が削除されます。
- フォルダ名を1文字削除する場合は、サムネイルボタン ⊞ を押しながらメインコマンドダイヤルを使用して削除する文字の上にカーソルを移動させ、削除ボタン 🗑 を押します。その文字が削除され、それより後方の文字全体が繰り上がります。
- フォルダを新規作成せずにSETUPメニュー画面に戻る場合はメニューボタン MENU を押します。

**2** 名前を確定し、名前編集を終了する場合は、実行ボタン ENTER を押します。SETUPメニュー画面に戻ります。

## フォルダ名変更

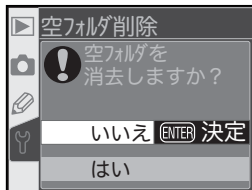
**1** 「**フォルダ名変更**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、フォルダ名の一覧が表示されます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、フォルダ名を変更するフォルダを選択します。

**2** マルチセレクターの▶を押すと、フォルダ名編集画面が表示されます。

- フォルダ名編集画面の操作方法は「**新規作成**」の場合（前ページ）と同じです。
- フォルダ名を変更せずにSETUPメニュー画面に戻る場合はメニューボタン MENU を押します。

**3** 名前を確定し、名前編集を終了する場合は、実行ボタン ENTER を押します。SETUPメニュー画面に戻ります。

## 空フォルダ削除

「**空フォルダ削除**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、画像が記録されていないフォルダがすべて削除され、SETUPメニュー画面に戻ります。

## 連番モード

連番モードを「**ON**」に設定すると、最後に記録を行ったファイル番号がカメラに記憶され、次に撮影を行ったときには記憶内容に従って連番で記録が行われます。CFカードの交換を行ったときでも、最後にカメラに記録されたファイル番号にしたがって画像の記録を行いますので、複数のカードを使用する場合でも撮影後の画像ファイルの管理が容易に行えます。

SETUPメニュー画面（P.187）から「**連番モード**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「連番モード」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

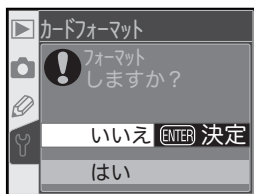
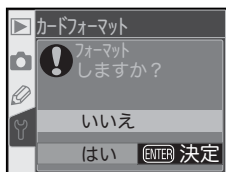
| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| **OFF**<br>（初期設定） | 連番モードを無効にします。「**OFF**」の状態で撮影を行った場合、フォルダを新規に作成したり、CFカードを交換するごとに0001からファイル番号が付きます。画像を記録するフォルダ内に画像ファイルがある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。なお、連番モードを「**ON**」の状態から「**OFF**」にすると、カメラがファイル番号を記憶した状態で連番モードを無効にします。 |
| **ON** | 連番モードを有効にします。CFカードを交換したり、フォルダを新規に作成しても、画像ファイルには撮影順に連続した番号が付きます。 |
| **リセット** | カメラが記憶しているファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、現在選択中のフォルダにファイルが無い場合には0001から連番でファイル番号が付きます。すでにファイルがある場合には新たにフォルダを作成して0001から連番でファイル番号が付きます。 |

### ファイル番号について

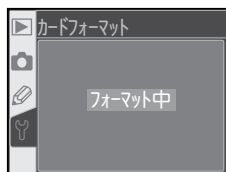
- 連番モードが「**OFF**」の場合、SETUPメニューの「**フォルダ設定**」でフォルダを新規作成すると、その中のファイル番号が0001番から始まります。
- 保存を行うフォルダ内に9999という番号のファイルが存在した場合に撮影を行うと、自動的に新規フォルダが作成され、連番モードの設定にかかわらずファイル番号が0001番に戻ります。
- 999という番号のフォルダがすでに存在している場合、ファイル番号9999の画像が記録されたり、このフォルダ内に999個のファイルが記録されると、フォルダの自動作成が行われず、レリーズがロックされます。この場合は、連番モードをリセットした後、CFカードをフォーマットするか、記録可能なCFカードに交換すると、さらに撮影を続けることができます。

## カードフォーマット

CFカードは、使用前にフォーマットを行う必要があります。SETUPメニュー画面（P.187）から「**カードフォーマット**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「カードフォーマット」の設定画面が表示されます。

### 1

マルチセレクターの▲または▼で「**はい**」を選択します。

- フォーマットを行わない場合は「**いいえ**」を選択して実行ボタン ENTER を押すと、SETUPメニュー画面に戻ります。

### 2

実行ボタン ENTER を押すとフォーマットが開始され、「フォーマット中」というメッセージが表示されます。

- フォーマットが終了すると、SETUPメニュー画面に戻ります。

### カードフォーマット中のご注意

「フォーマット中」のメッセージが液晶モニタに表示されている間は、カメラの電源スイッチをOFFにしたり、CFカードを取り出したりしないでください。

### フォーマットする前に

**CFカードをフォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。**フォーマットする前に保存したい画像をパソコンに転送することをおすすめします。

### FAT32について

D70はFAT32に対応しており、2GB以上の容量のCFカードを使用できます。ただし、すでにFAT16でフォーマットされているCFカードをフォーマットすると、FAT16でフォーマットされます。

### ボタン操作によるフォーマット

CFカードは、フォーマットボタン FORMAT（イルミネーターボタン ＋撮影動作モードボタン ）を同時に約2秒間押してフォーマットすることもできます（P.21）。

## カスタムメニュー表示

カスタムメニュー画面（P.163）に、カスタムセッティングのうち基本的な10項目のみを表示するか、25項目すべてを表示するかを設定します。
SETUPメニュー画面（P.187）から「**カスタムメニュー表示**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「カスタムメニュー表示」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| **シンプルメニュー**<br>（初期設定） | カスタムメニュー画面に、カスタムセッティングRとカスタムセッティング1～カスタムセッティング9のみを表示します。カスタムセッティングは表示されている項目のみ設定することができます。表示されるカスタムセッティング項目は次のとおりです。<br>• R：リセット　• 5：感度自動制御<br>• 1：電子音設定　• 6：カード無時レリーズ<br>• 2：AFモードの選択　• 7：撮影画像確認<br>• 3：AFエリアモード設定　• 8：格子線表示<br>• 4：内蔵AF補助光　• 9：露出値ステップ幅 |
| **アドバンストメニュー** | カスタムメニュー画面に、25項目すべてのカスタムセッティング項目を表示します。 |

## 日時設定

日時を設定します。SETUPメニュー画面（P.187）から「**日時設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、日時設定画面が表示されます。なお、ご購入後はじめて電源をONにすると、自動的にこの画面が表示されます。日時設定についての詳しい説明は、「ご使用になる前に―撮影前の準備」（P.16）をご覧ください。日時は定期的に設定することをおすすめします。

## 画面の明るさ

液晶モニタの明るさを調整します。明るさは5段階で調整できます。設定された液晶モニタの明るさは、すべての液晶モニタ表示に適用されます。マルチセレクターの▲または▼を押すと、連動して画面の明るさが変わります（▲で明るく、▼で暗くなります）。範囲は－２～＋２です。

SETUPメニュー画面（P.187）から「**画面の明るさ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「画面の明るさ」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作して、－２～＋２から最適な明るさを選択します。マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、SETUPメニュー画面に戻ります。

## クリーニングミラーアップ

撮像素子に装着されているローパスフィルターの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。詳しくは「クリーニングについて」（P.239）をご覧ください。

SETUPメニュー画面（P.187）から「**クリーニングミラーアップ**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「クリーニングミラーアップ」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **する** | シャッターボタンの全押しでミラーアップ状態になり、表示パネルに ‐ ‐ ‐ ‐ ‐ ‐ が点滅表示されます。ミラーをダウンするにはカメラの電源スイッチをOFFにしてください。 |
| **しない** | ミラーアップ状態になりません。 |

### 長時間のミラーアップについて

作業中のバッテリー切れを防ぐため、長時間ミラーを上げたままにする場合は、ACアダプタ（別売）を使用することをおすすめします。

## ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を、NTSC方式またはPAL方式のいずれかに設定します。
SETUPメニュー画面（P.187）から「**ビデオ出力**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ビデオ出力」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| NTSC<br>（初期設定） | NTSC方式のテレビやビデオに接続する場合に選択します。通常、日本国内でご使用の場合はこちらを選択します。 |
| PAL | PAL方式のテレビやビデオに接続する場合に選択します。通常、日本では使用されません。<br>•「**PAL**」に設定した場合、メニュー画面の文字がちらつくことがあります。ビデオ出力を使用しないときは、なるべく「**NTSC**」に設定してご使用になることをおすすめします。 |

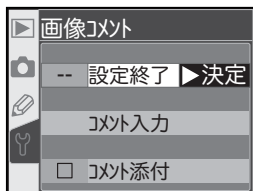
- ビデオ出力方式にかかわらず、ビデオケーブルをカメラに接続しているときは、液晶モニタは点灯しません。

## 言語（LANG）

メニュー画面やメッセージの表示言語を、Deutsch（ドイツ語）、English（英語）、Español（スペイン語）、Français（フランス語）、한글（韓国語）、Italiano（イタリア語）、日本語、Nederlands（オランダ語）、Svenska（スウェーデン語）、中文(简体)（中国語）のいずれかに切り換えることができます。
SETUPメニュー画面（P.187）から「**言語（LANG）**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「言語（LANG）」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作して、表示言語を選択します。マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、SETUPメニュー画面に戻ります。

## 画像コメント

あらかじめ入力したコメントを新規に撮影する画像に添付することができます。添付されたコメントは、PictureProjectやNikon Capture 4（Ver.4.1以降）の撮影情報に表示されます。
SETUPメニュー画面（P.187）から「**画像コメント**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「画像コメント」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
|---|---|
| **設定終了** | 「**画像コメント**」メニューを終了し、SETUPメニュー画面に戻ります。 |
| **コメント入力** | コメントを入力します。 |
| **コメント添付** | コメントを撮影画像に添付します。 |

## コメントの入力

「**コメント入力**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、下の画面が表示されます。36文字まで入力できます。

キーボードエリア

マルチセレクターを使って文字を選択します。プロテクトボタンを押すと、文字が決定します。

コメントエリア

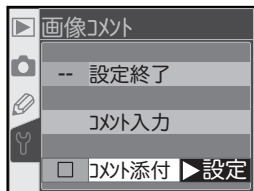
入力した文字が表示されます。カーソルを左右に移動させる場合はサムネイルボタンとメインコマンドダイヤルを使用します。

- コメントエリアの現在のカーソル位置に新しい文字を入力する場合は、マルチセレクターを使って入力するキーボードエリアの文字上にカーソルを移動させ、プロテクトボタンを押します。
- コメントエリアのカーソルを左右に移動する場合は、サムネイルボタンとメインコマンドダイヤルを使用します。
- 文字はカーソル位置に挿入されます。

- 37文字以上入力すると、コメントエリア（36文字）からあふれた文字が削除されます。
- コメントを1文字削除する場合は、サムネイルボタン を押しながらメインコマンドダイヤルを使用して削除する文字の上にカーソルを移動させ、削除ボタン を押します。その文字が削除され、それより後方の文字全体が繰り上がります。
- コメントの内容を確定し、コメント入力を終了する場合は、実行ボタン ENTER を押します。画面は画像コメント画面に戻ります。
- コメントを確定せずにSETUPメニュー画面に戻る場合はメニューボタン MENU を押します。

## コメントの添付

コメントの入力が終了したら、画像に入力したコメントを添付するかどうかを選択します。

- 次に撮影する画像からコメントを添付する場合は、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**コメント添付**」を選択して、マルチセレクターの▶を押します。「**コメント添付**」の□に✓が入ります。
- 「**コメント添付**」の□に✓が入っていることを確認して、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより「**設定終了**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すとSETUPメニュー画面に戻ります。
- 「**コメント添付**」の□に✓が入っていると、それ以降撮影された画像にはすべてコメントが添付されます。
- 画像へのコメントの添付を中止する場合は、「**コメント添付**」を選択してマルチセレクターの▶を押し、□の✓をはずしてください。「**設定終了**」を選択してマルチセレクターの▶を押すとSETUPメニュー画面に戻ります。以降の撮影画像にコメントは添付されなくなります。

## USB設定

専用USBケーブルUC-E4を使用してカメラとパソコンを接続する前に、USB通信方式を選択します。ご使用のパソコンのOS（オペレーションシステム）に合わせて正しい通信方式がカメラにセットされていないと、撮影した画像をパソコンに転送することができません。

SETUPメニュー画面（P.187）から「**USB設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「USB」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**Mass Storage**」、「**PTP**」の選択が可能です。初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています。マルチセレクターの▶を押すと設定が有効になり、SETUPメニュー画面に戻ります。

- USB通信方式は、ご使用のパソコンのOSと使用するソフトウェアの組み合わせにより、次のように対応しています。

| OS | USB通信方式 | |
|---|---|---|
| | PictureProject Transfer※1 | ニコン キャプチャー 4 カメラコントロール※2 |
| Windows XP Home Edition<br>Windows XP Professional | **PTP**または<br>**Mass Storage** | **PTP** |
| Mac OS X | **PTP**または<br>**Mass Storage** | **PTP** |
| Windows 2000 Professional<br>Windows Millennium Edition（Me）<br>Windows 98 Second Edition（SE） | **Mass Storage** | **PTP** |
| Mac OS 9 | — | **PTP** |

※1 PictureProjectの機能の一つで、CFカードに記録された撮影済み画像をパソコンに転送します。

※2 D70はNikon Capture 4のVer.4.1以降に対応しています。

- PictBridge規格対応プリンタに直接接続してプリントする場合は、「**PTP**」に設定してください。

## ダストオフデータ取得

Nikon Capture 4（Ver.4.1以降、別売）のイメージダストオフ機能を使用するための、参照用のデータを取得します。「**ダストオフデータ取得**」はCPUレンズ装着時のみ選択できます。Nikon Capture 4のイメージダストオフ機能については、Nikon Capture 4の使用説明書をご覧ください。

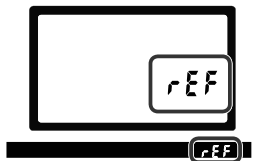
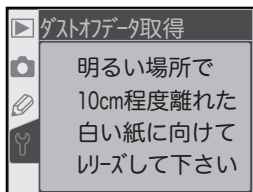
- イメージダストオフデータを取得するときは、焦点距離が50mm以上のCPUレンズのご使用をおすすめします（P.226）。
- ズームレンズを使用する場合は、望遠側にセットしてください。
- 取得したイメージダストオフデータは、データ取得後にレンズや絞り値を変更して撮影した画像にも適用できます。

SETUPメニュー画面（P.187）から「**ダストオフデータ取得**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ダストオフデータ取得」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| **する** | イメージダストオフデータを取得します。 |
| **しない** | イメージダストオフデータを取得しません。選択してマルチセレクターの▶を押すとSETUPメニュー画面に戻ります。 |

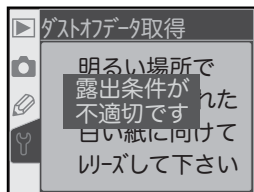
**1** 「ダストオフデータ取得」の設定画面で「**する**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、参照用データ取得の待機状態になり、露出やホワイトバランスなど各種設定が自動的に最適な状態に設定されます。

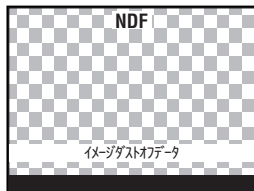
- この状態では、液晶モニタに「明るい場所で10cm程度離れた白紙に向けてレリーズして下さい」というメッセージが表示され、表示パネル、ファインダー内表示に rEF が点灯します。

- イメージダストオフデータ取得の待機状態をキャンセルするには、電源スイッチをOFFにするか、メニューボタン MENU またはマルチセレクターの◀を押してSETUPメニュー画面に戻ってください。
- 液晶モニタが消灯すると、待機状態はキャンセルされます。

**2** レンズ先端から10cm程度離れた、明るく白い無地の被写体を画面いっぱいにとらえ、シャッターボタンを半押しします。

- オートフォーカスが自動的に無限遠に制御されます。
- フォーカスモードを**M**（マニュアルフォーカス）にセットしている場合は、レンズを手動で無限遠にセットしてください。

**3** シャッターボタンを押し込んで撮影します。

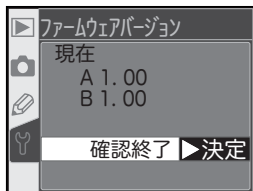
- 被写体が暗い場合はノイズ除去が自動的に実行されるため、CFカードへの記録に時間がかかる場合があります。
- シャッターボタンを押すと、液晶モニタが消灯します。
- 被写体が明るすぎたり暗すぎる場合、データの取得が行われずに液晶モニタに「露出条件が不適切です」というメッセージが表示され、待機状態（手順1）に戻ります。被写体の明るさを変えて再度撮影を行ってください。

### 記録されたイメージダストオフデータについて

- イメージダストオフデータは参照用として記録されるため、画像処理ソフトウェアなどで開くことができません。
- イメージダストオフデータをカメラで再生すると、格子模様の画面が表示されます。
- イメージダストオフデータをカメラで再生しても、ヒストグラム表示、ハイライト表示は行えません。

### Nikon Capture 4のイメージダストオフ機能について

Nikon Capture 4（別売）のイメージダストオフ機能は、取得したイメージダストオフデータと撮影したRAW画像を比較し、カメラの撮像部に付着したゴミを画像から消去する処理を自動的に行います。イメージダストオフ機能はRAW画像にのみ対応しています。D70はNikon Capture 4のVer.4.1以降に対応しています。

## ファームウェアバージョン

カメラのファームウェアバージョンを表示します。SETUPメニュー画面（P.187）から「**ファームウェアバージョン**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「ファームウェアバージョン」の情報表示画面が表示されます。

情報表示画面の表示中にマルチセレクターの◀を押すと、SETUPメニュー画面に戻ります。

## 姿勢情報記録

D70は、内蔵された縦横位置センサーの信号に基づいて、撮影時のカメラの縦横位置情報を画像に記録することができます。この情報により、縦位置で撮影された画像を液晶モニタに表示したり、PictureProjectや別売のNikon Capture 4（Ver.4.1以降）で開くと、自動的に縦方向に回転して表示されます。
SETUPメニュー画面（P.187）から「**姿勢情報記録**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「姿勢情報記録」の設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 設定 | 内容 |
| --- | --- |
| ON<br>（初期設定） | 撮影時のカメラの縦横位置情報として、「横位置」、「縦位置（時計回りに90°回転）」、「縦位置（反時計回りに90°回転）」のいずれかを画像に記録します。<br>横位置　縦位置 時計回りに90°回転　縦位置 反時計回りに90°回転<br>• 連続撮影時（P.72）の構図の縦位置・横位置に関する情報は、連続撮影開始時の情報が記録されます。連続撮影中に構図を変えても、反映されませんのでご注意ください。<br>• カメラを上向き・下向きで撮影する場合、誤った縦横位置情報が記録されることがあります。その際は「**OFF**」を選択してください。 |
| OFF | 撮影時のカメラの縦横位置にかかわらず、縦横位置情報を画像に記録しません。この設定で撮影された画像をPictureProjectや別売のNikon Capture 4（Ver.4.1以降）で開く場合は、横位置で表示されます。 |

### 縦位置自動回転（P.152）

通常、「**姿勢情報記録**」を「**ON**」に設定して縦位置で撮影された画像は、液晶モニタでも縦位置で表示されますが、再生メニューの「**縦位置自動回転**」では、すべての画像を横位置で表示するように変更できます。

カメラをテレビやビデオデッキに接続して、液晶モニタの内容をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画することができます。また、PictureProjectをパソコンにインストールすると、カメラとパソコンを接続して、撮影した画像をパソコンに転送することもできます。

**テレビで再生する (P.206～207)**

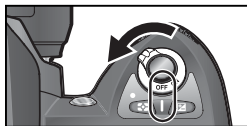
カメラをテレビやビデオデッキに接続する方法について説明します。

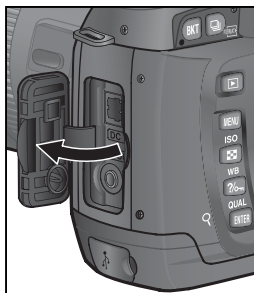
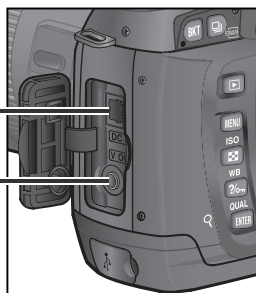
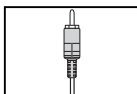
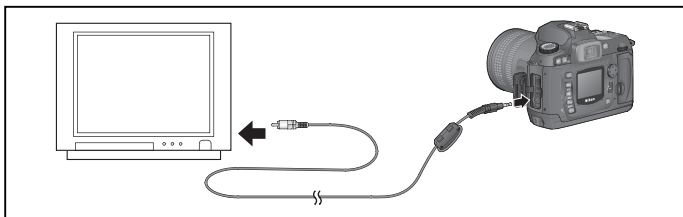
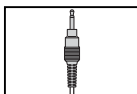
**パソコンに接続する (P.208～212)**

カメラとパソコンの接続方法について説明します。

# テレビで再生する



カメラをテレビやビデオなどに接続して、撮影した画像をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画することができます。接続には付属の専用ビデオケーブルEG-D100（以下、ビデオケーブル）をご使用ください。

**1** カメラの電源スイッチをOFFにします。

**2** 端子カバーを矢印の方向に開けてください。

**3** カメラとビデオを下の図のように接続します。

4 テレビの入力をビデオ入力に切り換えます。

5 カメラの電源スイッチをONにします。

- 画像の再生に関する操作は、液晶モニタで再生する場合と同様です。
- 液晶モニタが消灯し、撮影した画像がテレビで再生されます。
- ビデオケーブル接続時にも、ボタン入力などのカメラの動作は接続前と同様に行えます。
- ACアダプタEH-5（別売）接続中は、液晶モニタのパワーオフ設定は10分に固定されます。また、半押しタイマーはオフにはなりません（P.185）。

### 端子抜き差し時のご注意

ビデオ出力端子を抜き差しするときは、必ずカメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

### 長時間ご使用になる場合のご注意

テレビでの再生などカメラを長時間ご使用になる場合は、ACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします。

### ビデオ出力（P.196）

ビデオ出力の初期設定は「**NTSC**」（通常日本で使用されている方式）です。ご使用の機器がPAL方式の場合は、「**PAL**」にセットしてください。PAL方式の機器に出力した場合は、間引きが行われるため多少解像度が低下します。

# パソコンに接続する

このカメラはUSBインターフェイスを装備しており、付属のUSBケーブルUC-E4を介してパソコンと通信することができます。PictureProjectを使用すると、D70で撮影した画像をパソコンに転送したり、転送した画像のサムネイル一覧表示や簡単な画像調整および印刷ができます。また、別売のNikon Capture 4（Ver.4.1以降）では、PictureProjectの機能に加えて、より高度な画像調整やバッチ処理などをパソコン上で行ったり、パソコンからカメラをコントロールすることができます。

- 最初に各ソフトの使用説明書をよくお読みになり、必要なソフトウェアをインストールしてください。
- 動作環境はご使用のパソコンの機種によって異なります。ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。
- カメラの電源スイッチをOFFにして、バッテリー、またはACアダプタEH-5（別売）が装着されていることを確認してください。
- バッテリーの消耗を防ぐため、ACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします。

## カメラをパソコンに接続する前に

ご使用のパソコンのOS（オペレーティングシステム）に合わせて、正しい通信方式がカメラにセットされていないと、撮影した画像をパソコンに転送することができません。通信方式は次の表を参考にして、SETUPメニューの「**USB設定**」で設定してください（P.199）。初期設定は「**Mass Storage**」に設定されています。

| OS | USB通信方式 | |
|---|---|---|
| | PictureProject Transfer※1 | ニコン キャプチャー 4 カメラコントロール※2 |
| Windows XP Home Edition<br>Windows XP Professional | PTPまたは<br>Mass Storage | PTP |
| Mac OS X | PTPまたは<br>Mass Storage | PTP |

| OS | USB通信方式 | |
|---|---|---|
| | PictureProject Transfer※1 | ニコン キャプチャー 4 カメラコントロール※2 |
| Windows 2000 Professional<br>Windows Millennium Edition（Me）<br>Windows 98 Second Edition（SE） | Mass Storage | PTP |
| Mac OS 9 | — | PTP |

※1 PictureProjectの機能の一つで、CFカードに記録された撮影済み画像をパソコンに転送します。

※2 D70はNikon Capture 4のVer.4.1以降に対応しています。

**Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition (Me)、Windows 98 Second Edition (SE) をご使用の場合のご注意**

上記のOSでPictureProjectの転送機能をご使用の場合は、SETUPメニューの「**USB設定**」を「**PTP**」に設定しないでください。

「**USB設定**」を「**PTP**」に設定して、上記OSのパソコンと接続した場合には、下記の要領でパソコンとの接続を外してください。

再度パソコンと接続する場合は、必ず「**USB**」を「**Mass Storage**」に変更した後、パソコンと接続してください。

Windows 2000 Professionalの場合：

「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」と表示されますので、「キャンセル (中止)」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

Windows Millennium Edition（Me）の場合：

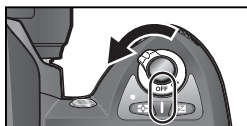
「ハードウェア情報データベースの更新」の後に「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されますので、「キャンセル (中止)」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

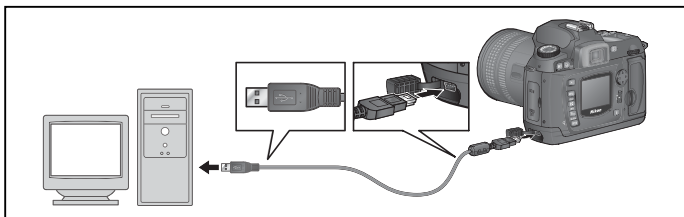
Windows 98 Second Edition（SE）の場合：

「新しいハードウェアの追加ウィザード」と表示されますので、「キャンセル (中止)」を選択して画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。

## USBケーブルで接続する

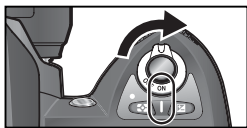
**1** SETUPメニューの「**USB設定**」( P.199)でUSB通信方式を設定します。
専用USBケーブルを使ってカメラとパソコンを接続する前に、使用するソフトウェア、および接続するパソコンのOSに合わせてUSB通信方式を選択します。

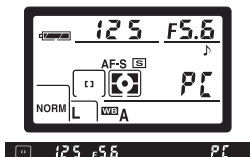
**2** パソコンを起動します。

**3** カメラの電源スイッチをOFFにします。

**4** カメラとパソコンをUSBケーブルUC-E4で接続します。

### 使用する電源について

カメラからパソコンにデータを転送するときは、確実に電源を供給できるACアダプタEH-5(別売)のご使用をおすすめします( P.235)。カメラをバッテリーで操作するときは、バッテリーが充分に充電されていることをご確認ください(予備バッテリーのご用意をおすすめします)。

### USBハブについて

USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

5 カメラの電源スイッチをONにします。

SETUPメニューの「**USB設定**」(P.199)を「**Mass Storage**」に設定した場合、パソコンとの通信が正常に行われると、表示パネルの絞り値表示部とファインダー内の撮影可能コマ数表示部分に「PC」という文字が表示されます(「**PTP**」に設定した場合、表示は変化しません)。この状態では、PictureProjectを使用してCFカード内にある撮影済み画像の転送が可能になります。

パソコンと正しく接続され、Nikon Capture 4のニコン キャプチャー4カメラコントロールを起動している場合、表示パネルとファインダー内の撮影可能コマ数表示部分に「PC」という文字が表示され、撮影された画像はCFカードではなく、パソコンに保存されます。

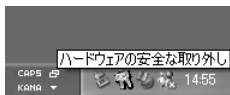
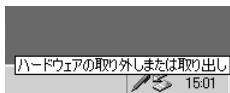
PictureProjectの詳しい説明については、PictureProjectリファレンスマニュアルを、Nikon Capture 4 (Ver.4.1以降)の詳しい説明についてはNikon Capture 4 (Ver.4.1以降)の使用説明書をご覧ください。

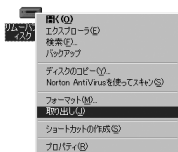
### パソコン接続時のご注意

カメラとパソコンの通信中は、電源スイッチをOFFにしないでください。

**6** パソコンとカメラの通信を終了します。

**●USB通信方式を「PTP」に設定した場合：**
カメラの電源をOFFにして、USBケーブルを抜いてください。

**●USB通信方式を「Mass Storage」にした場合：**
USBケーブルをはずしたり、カメラの電源をOFFにする前に必ず次の操作を行ってください。

- Windows XP Home Edition／Professionalの場合：
パソコン画面右下の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイスードライブ(E:)※を安全に取り外します。」を選択してください。

- Windows 2000 Professionalの場合：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックして「USB大容量記憶装置デバイスードライブ(E:)※を停止します」を選択してください。

- Windows Millennium Editionの場合：
パソコン画面右下の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして「USBディスクードライブ(E:)※の停止」を選択してください。

- Windows 98SEの場合：
マイコンピュータの中の「リムーバブルディスク」上でマウスを右クリックして「取り出し」を選択してください。

- Mac OS Xの場合：
デスクトップ上の「NIKON D70」のアイコンをゴミ箱に捨ててください。

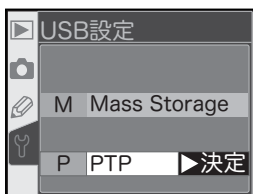
※「ドライブ(E:)」はご使用のパソコンによって異なります。

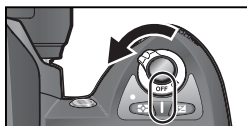
# プリントする

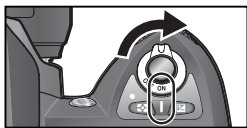
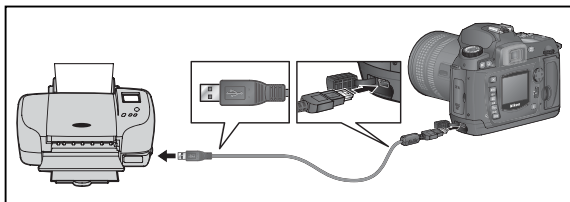
D70をPictBridge規格に対応したプリンタと直接接続して、パソコンを介さずにプリントする方法について説明します。

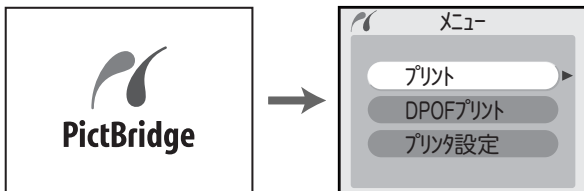
このカメラは、PictBridgeによるダイレクトプリント機能に対応しています。カメラとPictBridge対応プリンタを付属のUSBケーブルUC-E4で接続することで、CFカードに記録した画像を、パソコンを介さずにカメラからの操作で直接プリントすることができます。

- ご使用のプリンタがPictBridgeに対応しているか、あらかじめご確認ください。対応していないプリンタとは通信を行うことはできません。
- カメラの電源スイッチをOFFにして、バッテリー、またはACアダプタEH-5（別売）が装着されていることを確認してください。
- バッテリーの消耗を防ぐため、ACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします。
- ダイレクトプリントではJPEG画像のみプリント可能です。

## カメラとプリンタを接続する

**1** SETUPメニューの「**USB設定**」(P.199)でUSB通信方式を「**PTP**」に設定します。
- USB通信方式が「**MassStorage**」（初期設定）に設定されている場合は、プリンタとの通信を行えません。

**2** プリンタを起動します。

**3** カメラの電源スイッチをOFFにします。

## 4 カメラとプリンタをUSBケーブルUC-E4で接続します。

## 5 カメラの電源スイッチをONにします。

- プリンタとの通信が正常に行われると、液晶モニタにPictBridge画面が表示された後、PictBridgeメニュー画面が表示されます。

### 使用する電源について

ダイレクトプリントを行うときは、確実に電源を供給できるACアダプタEH-5（別売）のご使用をおすすめします（P.235）。カメラをバッテリーで操作するときは、バッテリーが充分に充電されていることをご確認ください（予備バッテリーのご用意をおすすめします）。

### USBハブについて

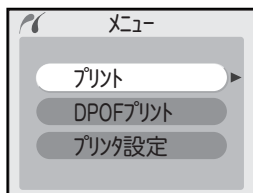
USBハブに接続した場合の動作は保証しておりません。

### 用紙について

画像をプリントする用紙、および用紙サイズはプリンタ側で設定します。詳しくはプリンタの説明書をご覧ください。

## プリントする

プリンタとの通信が正常に行われると、液晶モニタにPictBridge画面につづいてPictBridgeメニュー画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 項目 | 内容 |
|---|---|
| **プリント** | プリントする画像を直接選択してプリントします。また、CFカードに記録されている画像を縮小して、一覧でプリントするインデックス印刷も可能です。 |
| **DPOFプリント** | 再生メニューの「**プリント指定**」(P.157) で選択した画像および枚数でプリントします。画像を選択しなおすこともできます。 |
| **プリンタ設定** | 撮影日のプリントや、フチなし印刷を指定できます。プリントするすべての画像に適用されます。 |

### マルチセレクターの操作

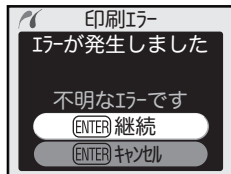
画像再生中およびメニュー表示中は、フォーカスエリアロックスイッチの設定位置に関係なく、マルチセレクターで操作を行うことができます。

### 直接プリントする場合の注意点

画像の調整を行わずに直接プリントする画像を撮影するときは、撮影メニューの「**仕上がり設定**」(P.64) を「**ダイレクトプリント**」に設定するときれいにプリントできます。「**カスタマイズ**」を選択した場合は、「**カラー設定**」を「**モードIa (sRGB)**」または「**モードIIIa (sRGB)**」にすることをおすすめします。

### エラーメッセージが表示された場合について

プリント中にエラーメッセージが表示された場合は、プリンタを確認してください。エラーの原因を取り除いた後、マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、「**継続**」を選択し、▶を押すと、プリントを再開します。「**キャンセル**」を選択し、▶を押すと、その時点でプリントを中止します。

- エラー内容によっては、「**継続**」を選択できない場合があります。

## プリント

「**プリント**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「プリント」画面が表示されます。

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、次の項目が選択できます。

| 項目 | 内容 |
| --- | --- |
| **プリント画像選択** | プリントする画像を直接選択してプリントします。操作手順については次ページをご覧ください。 |
| **インデックス印刷** | 次の「**フォルダ設定**」で選択したフォルダに含まれる、全てのJPEG画像を縮小して、一覧でプリントします。「**インデックス印刷**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、印刷する画像の一覧が表示されます。<br>• 印刷される画像には、[プリント] が一緒に表示されています（JPEG画像以外の画像には、[プリント] は付きません）。<br>• 実行ボタン ENTER を押すとインデックス印刷が開始されます。実行中のプリントをキャンセルする場合は、再度実行ボタン ENTER を押すと、プリントを中止してPictBridgeメニュー画面に戻ります。 |
| **フォルダ設定** | 画像をプリントするフォルダを変更します。ここで選択されたフォルダに含まれる画像が、上記「**プリント画像選択**」や「**インデックス印刷**」でのプリントの対象となります。<br>マルチセレクターの▲または▼を操作することによりフォルダを選択し、▶を押すと選択を実行して「プリント」画面に戻ります。<br>•「**全て**」を選択した場合は、CFカードに記録されているすべての画像（RAW画像および非表示設定された画像を除く）が、プリントの対象になります。<br>• 特定のフォルダに限定して画像をプリントしたい場合は、そのフォルダ名を選択します。 |

## 画像を選択してプリントする

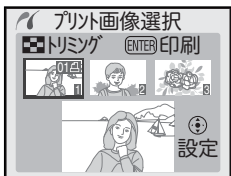
1

「**プリント画像選択**」を選択してマルチセレクターの▶を押すと、「プリント画像選択」の設定画面が表示されます。

- 画面の上側に画像の縮小表示が、下側に選択されている画像が表示されます。
- 「**フォルダ設定**」(P.217)で選択されているフォルダの画像のみが表示されます。
- 非表示設定されている画像は表示されません。

2

マルチセレクターの◀または▶を操作して、画面上側の縮小表示からプリントしたい画像を選択します。

3

マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、選択画像のプリント設定を行います。プリントされる画像には 凸 が表示されます。

- マルチセレクターの▲を押すとプリント枚数は増加し(最高99枚)、▼を押すと減少します。
- 2と3の手順を繰り返してプリントする画像をすべて設定します。
- JPEG画像のみ設定が可能です。
- 画像の選択をキャンセルする場合は、メニューボタン MENU を押すとPictBridgeメニュー画面に戻ります。

4

画像のプリントを設定した状態で実行ボタン ENTER を押すとプリント画像の設定が完了し、プリントを開始します。

- 実行中のプリントをキャンセルする場合は、実行ボタン ENTER を押すと、プリントを中止してPictBridgeメニュー画面に戻ります。

## 画像のトリミングについて

画像ごとにトリミング（印刷範囲の指定）を行うことができます。「プリント画像選択」画面で画像を選択し、サムネイルボタン を押すと、選択画像のトリミング画面になります。トリミング画面では実際にプリントされる範囲が表示されますので、画像確認しながら次の操作を行ってください。

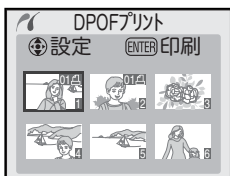
- メインコマンドダイヤルを回すと、画像の拡大率が変化します。
- マルチセレクターを操作すると、拡大部分が上下左右に移動します。
- 実行ボタン ENTER を押すと、画面に表示されている部分が印刷範囲として設定され、「プリント画像選択」画面に戻ります。

なお、画像の拡大率が大きくなるほど、プリント画像があらくなる場合があります。

※ プリンタがトリミング機能をサポートしていない場合、画像のトリミングは行えません。

## DPOFプリント

「**DPOFプリント**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「DPOFプリント」画面が表示されます。ただし、再生メニューの「**プリント指定**」で設定した画像がCFカードに存在しない場合は、この操作は行えません。

1

ここでは、再生メニューの「**プリント指定**」(P.157) で設定された内容が表示されます。

- RAW画像および非表示設定されている画像は表示されません。
- プリント指定の内容を変更する場合は、再生メニューの「**プリント指定**」で「**設定**」を選択した場合と同様の操作で、プリントする画像と枚数を設定できます (P.157)。
- DPOFプリントをキャンセルする場合は、メニューボタン MENU を押すと、PictBridgeメニュー画面に戻ります。
- 再生メニューの「**プリント指定**」で設定した「撮影情報」および「日付」の設定は無効になります。日付のプリントの設定は「**プリンタ設定**」(P.221) で行ってください。

2

画像のプリント指定を行った状態で実行ボタン ENTER を押すと、プリントを開始します。

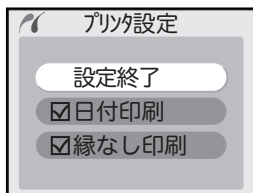
- 実行中のプリントをキャンセルする場合は、実行ボタン ENTER を押すと、プリントを中止してPictBridgeメニュー画面に戻ります。

### プリント指定 (P.157)

再生メニューの「**プリント指定**」では、DPOFプリントを行う画像の選択や枚数が指定できます。

## プリンタ設定

「**プリンタ設定**」を選択して、マルチセレクターの▶を押すと、「プリンタ設定」画面が表示されます。

「**プリンタ設定**」ではプリント時に日付を印字するかどうかやフチなしプリントを選択することができます。マルチセレクターの▲または▼を操作することにより、設定する項目を選択します。

- 日付を印字する場合は「日付」を選択して▶を押します。「日付」の前の□に✓が入ります。
- 画像をフチなしでプリントする場合は「縁なし印刷」を選択して▶を押します。「縁なし印刷」」の前の□に✓が入ります。ただし、接続されているプリンタがフチなしプリントに対応していない場合、この項目は選択できません。
- 選択した項目の✓をはずすときは、その項目を選んで▶を押します。
- 設定を終了する場合は、「設定終了」を選択して▶を押します。設定が有効になり、PictBridgeメニュー画面に戻ります。

# 付録

この章は次の５部で構成されています。

**操作可能な機能について（P.224～225）**

撮影モードダイヤルでセットしたモードと操作可能な機能の組み合わせについて説明しています。

**別売アクセサリー（P.226～237）**

使用できるレンズやスピードライトなどの別売アクセサリーを説明しています。

**カメラのお手入れについて（P.238～241）**

カメラのお手入れについて説明しています。

**カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意（P.242～243）**

カメラやバッテリーの取り扱いに関して説明しています。

**故障かな？と思ったら（P.244～248）**

警告表示の内容と、対処法について説明しています。

**主な仕様（P.249～254）**

主な仕様について説明しています。

# 操作可能な機能について

D70では、撮影モードダイヤルをセットするモードによって、操作や設定の変更が可能な機能が異なります。下の表は、それぞれ操作、または設定の変更が可能な機能を示します。

● ： 操作、または設定の変更が可能です。

○ ： 設定の変更が可能ですが、撮影モードダイヤルを切り換えると初期設定または解除にリセットされます。

無印： 操作または設定を行うことはできません。

| 機能 | AUTO | | | | | | | P | S | A | M |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 画像サイズの変更 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 画質モードの変更 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 撮像感度の変更 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| ホワイトバランスの変更 | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |
| 仕上がり設定の変更 | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |
| 撮影動作モードの変更※1 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| フォーカスロック | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 測光モードの変更 | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |
| プレビュー | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ●※2 |
| プログラムシフト | | | | | | | | ○ | | | |
| AEロック | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 露出補正 | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |
| オートブラケティング | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |
| シンクロモードの変更 | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ● | ● | ● | ● |
| 内蔵スピードライトの手動ポップアップ | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |
| 内蔵スピードライトの自動ポップアップ | ● | ● | | ● | | | ● | | | | |
| 調光補正 | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |

| カスタムセッティング | AUTO | | | | | | | P | S | A | M |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| カスタムセッティング2「**AFモード**」の変更 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● |
| カスタムセッティング3「**AFエリアモード**」の変更 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● | ● | ● | ● |
| カスタムセッティング4「**内蔵AF補助光**」の変更 | ● | ● | | ● | | | ● | ● | ● | ● | ● |
| カスタムセッティング5「**感度自動制御**」の変更 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| カスタムセッティング19「**内蔵SB発光**」の変更 | | | | | | | | ● | ● | ● | ● |

※1 セルフタイマー撮影、2秒リモコン撮影、瞬時リモコン撮影にセットされている場合、電源をOFFにした後ONにすると、1コマ撮影、連続撮影のうち、直前にセットされていた撮影動作モードに戻ります。

※2 CPUレンズ装着時に使用できます。

### シンクロモード、AFモード、AFエリアモードについて

各デジタルイメージプログラムで設定したシンクロモード (P.118)、AFモード (P.167)、AFエリアモード (P.168) は、撮影モードダイヤルを切り換えるとリセットされ、再度同じデジタルイメージプログラムにセットしても、それぞれ初期設定となります。

### 撮影モードダイヤル切り換えによる設定の復帰について

撮影モードダイヤルをデジタルイメージプログラムから**P**、**S**、**A**、**M**に切り換えると、以前に**P**、**S**、**A**、**M**で設定されていた次の内容が復帰します。

- ホワイトバランス (P.50)
- 仕上がり設定 (P.64)
- 測光モード (P.86)
- 露出補正量 (P.101)
- オートブラケティング (P.103)
- シンクロモード (P.118)
- 調光補正量 (P.125)
- AFモード (P.167)
- AFエリアモード (P.168)

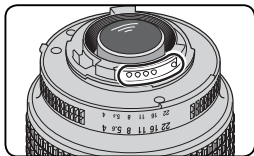
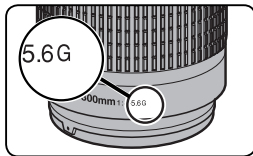
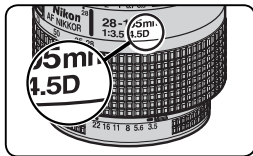
# 別売アクセサリー

D70には、CPUレンズ（IXニッコールを除く）のご使用をおすすめします。特にGまたはDタイプレンズを装着すれば、カメラの機能が最大限に使用できます。

## 装着可能なレンズおよび使用可能な機能

| | レンズ＼モード | フォーカスモード | | | 撮影モードダイヤル | | 測光モード | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | オートフォーカス | フォーカスエイド | マニュアル | M以外 | M | マルチパターン測光 3D-RGB | マルチパターン測光 RGB | 中央部重点測光/スポット測光※1 |
| CPUレンズ※2 | Gタイプレンズ※3、Dタイプレンズ※3、AF-Iレンズ、AF-Sレンズ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | — | ● |
| | PCマイクロ85mm f/2.8D※4 | — | ●※5 | ● | — | ● | ● | — | ● |
| | AF-S／AF-Iテレコンバーター※6 | ●※7 | ●※7 | ● | ● | ● | ● | — | ● |
| | Gタイプ・Dタイプ以外のAFレンズ（F3AF用を除く） | ●※8 | ●※8 | ● | ● | ● | — | ● | ● |
| | Ai-Pニッコール | — | ●※9 | ● | ● | ● | — | ● | ● |
| 非CPUレンズなど※10 | Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、改造Aiレンズ | — | ●※9 | ● | — | ●※11 | — | — | — |
| | メディカル120mm f/4 | — | ● | ● | — | ●※12 | — | — | — |
| | レフレックスレンズ | — | — | ● | — | ●※11 | — | — | — |
| | PCニッコール | — | ●※5 | ● | — | ●※11 | — | — | — |
| | Ai-S、Aiテレコンバーター | — | ●※7 | ● | — | ●※11 | — | — | — |
| | ベローズPB-6 ※13 | — | ●※7 | ● | — | ●※11 | — | — | — |
| | オート接写リング（PK-11A.12.13.PN-11） | — | ●※7 | ● | — | ●※11 | — | — | — |

※1　CPUレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（P.76）。
※2　IXレンズは装着できません。
※3　このカメラはVRレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4　カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフトまたはティルト）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※5　あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※6　AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用（ただしAF-S DX 12～24mm f/4G、AF-S ED17～35mm f/2.8D、AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G、AF-S DX ED 18～70mm f/3.5～4.5G、AF-S ED24～85mm f/3.5～4.5G、AF-S VR ED24～120mm f/3.5～5.6G、AF-S ED28～70mm f/2.8Dは使用不可）。
※7　合成絞りがf/5.6 以上明るい場合に使用可能。
※8　AF 80～200mm f/2.8S、AF 35～70mm f/2.8S、AF 28～85mm f/3.5～4.5S（New）、AF 28～85mm f/3.5～4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9　開放絞りがf/5.6以上明るいレンズのみ使用可能。
※10　一部装着不可能なレンズ（P.227）があります。
※11　露出モードはマニュアル（**M**）で使用できますが、露出インジケーターは使用できません。
※12　露出モードはマニュアル（**M**）でシャッタースピードは1/125秒以下で使用できますが、露出インジケーターは使用できません。
※13　縦位置にして装着してください（装着後、横位置に戻すことは可能です）。

CPUレンズにはCPU信号接点があります。その中でGタイプレンズには、レンズに「G」マークが、Dタイプレンズには、レンズに「D」マークがあります。

CPUレンズ

Gタイプレンズ

Dタイプレンズ

- Gタイプレンズには、絞りリングがありません。このため、このカメラで使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要がありません。

## 使用できないレンズ

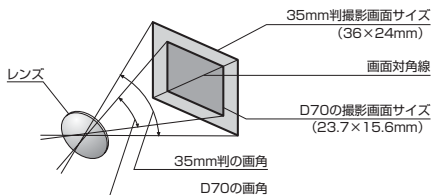
下記の非CPUレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーター TC-16AS
- Ai改造をしていないレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、7.5mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K2リング
- ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360～1200mm f/11（製品 No.174031～174127）
- 200～600mm f/9.5（製品 No.280001～300490）
- F3AF用（80mm f/2.8、200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品 No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品 No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品 No.200111～200310）

## 非CPUレンズを使用する場合は

撮影モードダイヤルを**M**（マニュアル）にセットした場合のみ、非CPUレンズを装着して撮影できます（**M**以外では、シャッターがきれません）。ただし、カメラの露出計の使用や、コマンドダイヤルによる絞りのセット、プレビュー、i-TTLモードでのスピードライト撮影はできません。表示パネルとファインダー内の絞り表示は F-- となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

## レンズの画角と焦点距離について

D70ではさまざまなニコン35ミリフィルム一眼レフカメラ用レンズが使用できます。ただし、35 mm判カメラの撮影画面サイズは36×24 mmですが、D70では約23.7×15.6mmとなっており、35 mm判カメラとD70では、画面サイズが異なります。したがって、同じ焦点距離のレンズを使用して同じ距離から撮影した場合でも、画角（フィルム面に移し込む被写体の大きさや写り込む範囲）が35mm判カメラに対して変化します。

35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さでD70の撮影画面サイズの約1.5倍です。したがって、D70に35mm判カメラ用レンズを装着した場合、その焦点距離はレンズに表記された数値に1.5を掛けた値に相当します。

| カメラ | 35ミリ判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35ミリ判カメラ | 17 | 20 | 24 | 28 | 35 | 50 | 60 | 85 |
| D70 | 25.5 | 30 | 36 | 42 | 52.5 | 75 | 90 | 127.5 |

| カメラ | 35ミリ判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm） | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35ミリ判カメラ | 105 | 135 | 180 | 200 | 300 | 400 | 500 | 600 |
| D70 | 157.5 | 202.5 | 270 | 300 | 450 | 600 | 750 | 900 |

## 装着可能な別売スピードライト

D70はニコンのクリエイティブライティングシステムに対応しており、クリエイティブライティングシステム対応の別売スピードライトSB-800、SB-600との組み合わせにより、i-TTL調光 (P.112)、FVロック (P.126)、発光色温度情報の伝達 (P.50) のほか、さまざまな機能 (オートFPハイスピードシンクロを除く) が使用できます (P.230)。詳しくは各スピードライトの使用説明書をご覧ください。

### *SB-800*

- ニコンスピードライトSB-800はガイドナンバー53 (照射角35mm時、ISO200・m、20℃) ／38 (照射角35mm時、ISO100・m、20℃) の高性能スピードライトです。電源は単3形電池 (詳しくはSB-800の使用説明書をご覧ください) を4本 (付属の増設電池パックSD-800使用時は5本) 使用しますが、外部電源 (別売) としてSD-6、SD-7、SD-8A、パワーブラケットSK-6も併用できます。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向7°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能 (24～105mm) を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、照射角が14mm、17mmになります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、LCDと各操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-800のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

### *SB-600*

- ニコンスピードライトSB-600はガイドナンバー42 (照射角35mm時、ISO200・m、20℃) ／30 (照射角35mm時、ISO100・m、20℃) の高性能スピードライトです。電源は単3形電池 (詳しくはSB-600の使用説明書をご覧ください) を4本使用します。
- フラッシュヘッドが上方向90°、左方向180°から右方向90°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影ができます。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートズーム機能 (24～85mm) を備えています。また、内蔵ワイドパネルを使用すると、14mmの照射角度になります。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルおよび操作スイッチにイルミネーターを備えています。
- SB-600のカスタム設定により、各機能の設定が効率よく行えます。

付録ー別売アクセサリー

## *SB-800、SB-600との組み合わせで使用可能な機能*

別売スピードライトSB-800、SB-600を使用する場合、スピードライトとレンズの組み合わせによって次の機能が使用できます。装着レンズ欄の①はCPUレンズ（IXニッコール、F3AF用を除く）、②は非CPUレンズを示します。

| スピードライト | | | SB-800（1灯、カメラに装着） | | SB-800（補助灯として使用） | | SB-600（1灯、カメラに装着） | | SB-600（補助灯として使用） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 装着レンズ | | | ① | ② | ① | ② | ① | ② | ① | ② |
| 区分 | i-TTL | i-TTL-BL調光 | ○※1 | | ○ | | ○※1 | | ○ | |
| | | スタンダードi-TTL調光 | ○※2 | | | | ○※2 | | | |
| | AA | 絞り連動外部自動調光 | ○ | | ○ | | | | | |
| | A | 外部自動調光 | ○ | ○ | | ○ | | | | |
| | GN | 距離優先マニュアル調光 | ○※3 | ○※4 | | | | | | |
| | M | マニュアル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | | 発光色温度情報伝達 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | | FVロック | ○ | | ○ | | ○ | | ○ | |
| | | マルチエリアアクティブ補助光 | ○※5 | | | | ○※5 | | | |
| | RPT | リピーティングフラッシュ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| | REAR | 後幕シンクロ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | (赤目アイコン) | 赤目軽減発光 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | |
| | | オートズーム | ○ | | | | ○ | | | |
| | | 撮像感度自動制御（カスタムセッティング5） | ○ | | | | ○ | | | |

※1　測光モードをスポット測光以外にセットしてください。
※2　測光モードをスポット測光にしてください。また、スピードライト側でも設定可能です。
※3　カメラの絞りに連動します。
※4　レンズの絞り環でセットした絞り値をスピードライト側でも設定する必要があります。
※5　AFレンズ装着時のみ可能です。

## その他の別売スピードライトとの組み合わせで使用可能な機能

次の別売スピードライトを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。装着レンズによって機能が変わることはありません。

| 区分 | | スピードライト | SB-80DX<br>SB-28DX | SB-50DX | SB-28<br>SB-26<br>SB-25<br>SB-24 | SB-30<br>SB-27※1<br>SB-22S<br>SB-22<br>SB-20<br>SB-16B<br>SB-15 | SB-23<br>SB-29※2<br>SB-21B※2<br>SB-29S※2 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 区分 | A | 外部自動調光 | ○ | | ○ | ○ | |
| | M | マニュアル | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ⚡⚡⚡ | マルチフラッシュ | ○ | | ○ | | |
| | REAR | 後幕シンクロ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

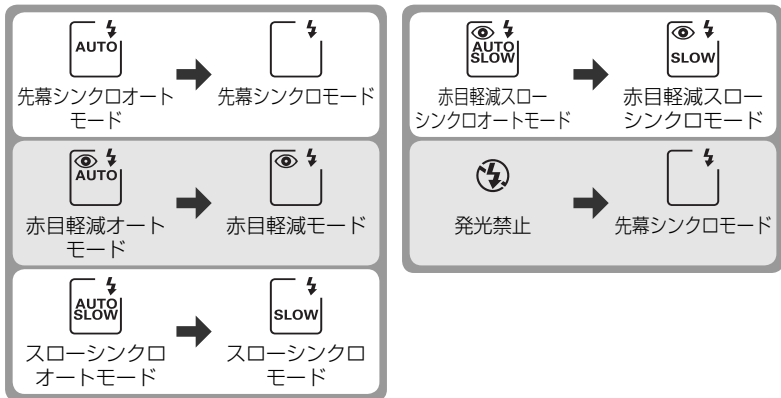
※1　D70とSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんので、SB-27を強制Aモードにセットし直してください。

※2　SB-29S・29・21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70～180mm）レンズ装着時のみ可能です。

### 他社製のスピードライトについて

他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損することがあります。

## 撮影モードダイヤル（AUTO、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレート）での別売スピードライト使用について

別売スピードライトを装着すると、撮影状況にかかわらず、撮影時は常に発光します。撮影モードダイヤルを AUTO 、ポートレート、クローズアップ、夜景ポートレートにセットして別売スピードライトを装着すると、シンクロモードは次のように変更されます。

撮影モードダイヤルを風景、夜景、スポーツにセットして別売スピードライトを使用すると、先幕シンクロモードになります。赤目軽減モードに変更することもできます。

## 別売スピードライト使用時の注意

- 詳細はご使用になる各スピードライトの使用説明書をご覧ください。
  クリエイティブライティングシステム対応の別売スピードライトの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、クリエイティブライティングシステム対応デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。なお、D70はSB-80DX、SB-28DX、SB-50DXの使用説明書に記載のデジタル一眼レフカメラには該当しません。
- 別売スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/500秒以下の低速シャッタースピードです。
- i-TTLや外部自動調光モードにおいて、フル発光により露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディライト ⚡ が約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- i-TTLモード時の撮像感度連動範囲はISO200～1600相当です。
- 別売スピードライトSB-800、SB-600使用時で、シンクロモードが赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、赤目軽減オート、赤目軽減スローシンクロオートモードの場合は、スピードライト側で赤目軽減発光が行われます。
- D70とSB-800、SB-600以外の別売スピードライトの組み合わせでは、被写体が暗い場合でも、スピードライト側のアクティブ補助光が照射されません。補助光の照射条件が満たされると、カメラ側のAF補助光が照射されます (P.82)。

### 別売スピードライト使用時の注意（つづき）

- D70とSB-800、SB-600以外の別売スピードライトの組み合わせでは、オートパワーズーム機能は使用できません。
- 撮影モードダイヤルを AUTO 、 、 、 、 、 、P にセットした場合、カメラが自動で設定する別売スピードライトの開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

| 撮像感度（ISO）と開放側の限界絞り（F） | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 200 | 250 | 320 | 400 | 500 | 640 | 800 | 1000 | 1250 | 1600 |
| 4 | 4.2 | 4.5 | 4.8 | 5 | 5.3 | 5.6 | 6 | 6.3 | 6.7 |

撮影モードダイヤルを にセットした場合、カメラが自動で設定する別売スピードライトの開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

| 撮像感度（ISO）と開放側の限界絞り（F） | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 200 | 250 | 320 | 400 | 500 | 640 | 800 | 1000 | 1250 | 1600 |
| 8 | 8.5 | 9 | 9.5 | 10 | 11 | 11 | 12 | 13 | 13 |

※ 感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

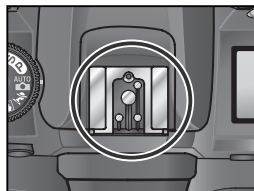
- i-TTLモード時に、調光コードSC-17、SC-28、SC-29を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、i-TTL-BL調光では適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードi-TTL調光に切り換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- i-TTLモード時に、発光面に内蔵パネル以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光とならない場合があります。
- 別売スピードライトSB-800、SB-600を使用するとき、測光モードを （スポット測光）にセットすると、スタンダードi-TTL調光になります。
- 非CPUレンズ装着時は、i-TTL調光およびAA（絞り連動外部自動調光）は行えません。
- 内蔵スピードライトがポップアップした状態で別売スピードライトを装着した場合、内蔵スピードライトは発光しません。

## スピードライト使用時の感度自動制御について

カスタムセッティング5「**感度自動制御**」(P.171)を「**ON**」に設定して別売スピードライトSB-800、SB-600を使用すると、スピードライトの光量が適正となるように感度自動制御が機能します。ただし感度自動制御が機能して撮像感度が高感度になると、次の場合に背景が露出オーバーになることがあります。背景を重視する場合は「**感度自動制御**」を「**OFF**」に設定してください。

- 低速シャッタースピードでスピードライト撮影(スローシンクロ)を行う場合
- 日中の明るい場所でスピードライト撮影(日中シンクロ)を行う場合
- 背景が明るい場合

## アクセサリーシュー

このカメラはアクセサリーシューを装備しています。別売スピードライトSB-800・SB-600・80DX・28DX・28・50DX・27・23・22S・29Sなどを使用する場合、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。セーフティロック機構(ロック穴)を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト(SB-800、SB-80DXなど)を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

## ホットシューアダプター AS-15

ホットシューアダプター AS-15(別売)を使用すると、シンクロターミナルが利用できます。

## その他の別売アクセサリー

D70には撮影領域を拡げるさまざまなアクセサリーが用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

| | |
|---|---|
| 電源 | • **Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3**<br>付属のバッテリーと同型のものが別にお求めになれます。<br>• **ACアダプタEH-5**<br>D70で使用できるACアダプタです。<br>• **CR2ホルダMS-D70（端子カバー付き）**<br>市販のCR2型リチウム電池3本をカメラの電源として使用できます（P.15）。<br>• **マルチチャージャー MH-19**<br>Li-ionリチャージャブルバッテリー EN-EL3を2つ、MC-E1を用いてF5用(MN-30)、MC-E2を用いてF100用(MN-15)、D1シリーズ用(EN-4)、E3用(EN-3)のいずれかのバッテリーを2つ計4つのバッテリーを順次充電可能です。自動車のシガーソケットから電源を供給するケーブルを接続して充電することも可能です。 |
| ファインダー用アクセサリー | • **接眼補助レンズ**<br>遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部に差し込むだけで簡単に取り換えができます。−5、−4、−3、−2、0、+0.5、+1、+2、+3m⁻¹の9種類が用意されていますが、いずれもD70の視度調節ノブが調節範囲の中央（−1m⁻¹）の場合の値です。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に取り付けてお選びください。D70では、視度調節機能が内蔵されています（−1.6～+0.5m⁻¹）ので、この範囲外の視度補正が必要なときにご使用ください。なお、接眼補助レンズを使用している場合は、接眼目当ては使用できません。<br>• **マグニファイヤー DG-2**<br>ファインダー中央部の像を拡大します。接写や複写、超望遠レンズ使用時など、より厳密なピント合わせが必要なときに使用します。別売のアイピースアダプターを装着することにより使用可能。<br>• **アイピースアダプター**<br>D70にマグニファイヤー DG-2を取り付けるためのアダプターです。<br>• **アングルファインダー DR-6**<br>アングルファインダー DR-6をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。 |
| ボディキャップ | • **ボディキャップBF-1A**<br>レンズを取り外したカメラボディに取り付けることにより、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぎ、カメラ内部を保護します。 |

| | |
|---|---|
| リモコン | • **リモコンML-L3**<br>ワイヤレスの遠隔操作で、カメラに直接触れずに離れた場所からシャッターをきることができます。記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。また、シャッターボタンを押す際の手ブレを防止するケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。 |
| フィルター | • ニコンフィルターは、ねじ込み式、平枠式、および後部交換式の3方式に大別されます。また、他社製の特殊フィルターなどを使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。<br>• カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。<br>• フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。<br>• 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターを外して撮影することをおすすめします。<br>• 露出倍数のかかるフィルター（Y44、Y48、Y52、O56、R60、X0、X1、C-PL（円偏光フィルター）、ND2S、ND4S、ND4、ND8S、ND8、ND400、A2、A12、B2、B8、B12）を使用する場合、RGBマルチパターン測光、または3D-RGBマルチパターン測光の効果が得られない場合がありますので、測光モードを中央部重点測光に切り換えて撮影することをおすすめします。詳しくは、各フィルターの使用説明書をご覧ください。 |
| PCカード<br>アダプタ | • **PCカードアダプタEC-AD1**<br>CFカード（タイプ1）と組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。CFカードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。 |
| ニコン<br>デジタルカメラ<br>専用<br>ソフトウェア | • **Nikon Capture 4（Ver.4.1以降）**<br>RAW画像をより詳細に編集できるソフトウェアです。Nikon Capture 4を使うと、パソコンを操作して直接写真を撮影したり、撮影した画像を加工したり、ハードディスクなどへ保存したりできます。D70はVer.4.1以降に対応しています。 |

### アクセサリーの購入について

D70には、ニコン製のアクセサリーを使用することをおすすめします。仕様が異なる他社製品を使用すると、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製のアクセサリーを使用した場合の不具合については、保証の対象となりません。ご了承ください。

## 使用可能なCFカード

次のCFカードが使用可能です。

- SanDisk社製CFカード：

| | |
|---|---|
| SDCFBシリーズ | 16MB、48MB、80MB、96MB、128MB、160MB、256MB、512MB、1GB |
| SDCFBシリーズ（Type II） | 192MB、300MB |
| SDCF2Bシリーズ（Type II） | 256MB |
| SDCFHシリーズ（Ultra） | 128MB、192MB、256MB、384MB、512MB、1GB |
| SDCFHシリーズ（Ultra II） | 256MB |
| SDCFXシリーズ | 512MB、1GB |

- LEXAR MEDIA社製CFカード：

| | |
|---|---|
| 4X USBシリーズ | 16MB、32MB、64MB |
| 8X USBシリーズ | 16MB、32MB、48MB、64MB、80MB |
| 10X USBシリーズ | 160MB |
| 12X USBシリーズ | 64MB、128MB、192MB、256MB、512MB |
| 16X USBシリーズ | 192MB、256MB、320MB、512MB、640MB、1GB |
| 24X USBシリーズ | 256MB、512MB |
| 24X WA USBシリーズ | 256MB、512MB |
| 32X WA USBシリーズ | 1GB |
| 40X WA USBシリーズ | 256MB、512MB、1GB、2GB、4GB |

- ルネサステクノロジ（日立）社製CFカード：

| | |
|---|---|
| HB28BxxxC8xシリーズ | 16MB、32MB |

- マイクロドライブ：

| | |
|---|---|
| DSCM-11000 | 1GB |
| 3K4-2 | 2GB |
| 3K4-4 | 4GB |

※ 上記CFカードの機能、動作の詳細、動作保証などについては、CFカードメーカーにご相談ください。その他のメーカー製のCFカードにつきましては、動作の保証はいたしかねます。

### CFカード使用上の注意

- カメラの使用直後にはCFカードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
- 未使用のカードは必ずフォーマット（初期化）してからご使用ください。
- CFカードのフォーマット中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
- CFカードへ記録・削除が行われているときや、パソコンとの通信時には、次のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
  - ・カードの着脱をする
  - ・カメラの電源をOFFにする
  - ・バッテリーを取り出す
  - ・ACアダプタを抜く
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- CFカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
- 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けてください。

# カメラのお手入れについて



## 保管について

長期間カメラを使用しないときは、必ずバッテリーを取り出しておいてください。バッテリーを取り出す前には、カメラの電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

カメラを保管するときは、下記のような場所は避けてください。

- 換気の悪い場所や湿度の高い場所
- テレビやラジオなど強い電磁波を出す装置の周辺
- 温度が50℃以上、または－10℃以下の場所
- 湿度が60%をこえる場所

## クリーニングについて

| | |
|---|---|
| カメラ本体 | ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。 |
| レンズ・ミラー・ファインダー | ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。 |
| 液晶モニタ | ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。 |

### 液晶モニタが破損した場合

液晶モニタが破損した場合は、ガラスの破片でケガをしないように、また、中の液晶を皮膚に付けたり口や目に入れたりしないようにご注意ください。

### 表示パネルの明るさの変動について

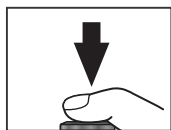
まれに、ブロアーや布から起きた静電気で、表示パネルが明るくなったり暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。すぐに通常の状態に戻ります。

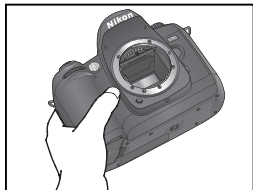
## ローパスフィルターのお手入れ

撮像素子の表面には、モアレを防ぐローパスフィルターが装着されています。ローパスフィルターは、直接撮像素子にゴミが付くのを防ぎますが、ローパスフィルター自体にゴミやほこりが付いていると、撮影条件により、画像に影が映ることがあります。その場合は、ローパスフィルターのクリーニングが必要になります。

### *ローパスフィルターの点検方法*

**1** カメラの電源スイッチをONにし、メニューボタン MENU を押してメニュー画面を表示します。

**2** マルチセレクターを操作してSETUPメニューの「**クリーニングミラーアップ**」(P.195) から「**する**」を選択し、マルチセレクターの▶を押すと、「シャッターボタンを押してください」の表示が出ます。

**3** シャッターボタンを押し込みます。

- ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。
  このとき、表示パネルは ‐ ‐ ‐ ‐　‐ ‐ の点滅となります。ファインダー内の表示は消灯します。

4 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検します。

- ローパスフィルターにゴミやほこりが付いている場合は、次ページの「ローパスフィルターのクリーニング方法」をご覧ください。

5 カメラの電源スイッチをOFFにし、ボディキャップ（付属）をつけます。

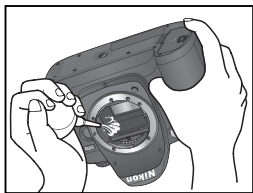
- カメラの電源スイッチをOFFにすると、ミラーが下がりシャッター幕が閉じます。

### カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

## ローパスフィルターのクリーニング方法

ローパスフィルターのクリーニングをする場合は、必ず次の手順で行ってください（ローパスフィルターはとても傷つきやすい部品です。できる限り本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください）。

**1** 239ページ「ローパスフィルターの点検方法」1～3の手順で、ミラーを上げます。

**2** ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払います。

- ブラシの付いていないブロアーをご使用ください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

**3** カメラの電源スイッチをOFFにし、ボディキャップ（付属）をつけます。

- カメラの電源スイッチをOFFにすると、ミラーが下がりシャッター幕が閉じます。

### 長時間のミラーアップについて

作業中のバッテリー切れを防ぐため、長時間ミラーを上げたままにする場合は、ACアダプタEH-5（別売）を使用することをおすすめします。

# カメラとバッテリーの取り扱い上のご注意



## カメラの取り扱い上のご注意

### ●強いショックを与えないでください

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

### ●水にぬらさないでください

カメラは水にぬらさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

### ●急激な温度変化を与えないでください

極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴を生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

### ●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください

強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが正常に機能しない場合があります。

### ●長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください

太陽などの高輝度被写体に向けて長時間直接撮影したり、放置したりしないでください。過度の光照射は撮像素子の褪色・焼きつきを起こす恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが生ずることがあります。

### ●ブルーミングについて

太陽などの高輝度被写体を撮影すると、画面の上下方向にブルーミングと呼ばれる白い帯が発生することがあります。このような場合はシャッタースピードを低速側にして絞りを絞るか、NDフィルターを使用して、撮像素子に直接当たる光量を低下させることによりブルーミングの発生を抑えることができます。

### ●カメラ本体の手入れ方法について

カメラ本体の手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色しますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

### ●ミラーやレンズの手入れ方法について

ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。なお、スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）。レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

### ●ローパスフィルターの手入れ方法について

ローパスフィルターのクリーニングの方法については P.239をご覧ください。

### ●シャッター幕に触れないでください

シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

### ●風通しのよい場所に保管してください

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

### ●長期間使用しないときは、バッテリーを取り出し、乾燥剤といっしょに保管してください

カメラを長期間使用しないときは、バッテリーの液漏れなどからカメラを保護するために、カメラからバッテリーを必ず取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてくださ

い。バッテリーは高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1カ月に一度を目安にバッテリーを入れカメラを操作することをおすすめします。

### ●バッテリーやACアダプタを取り外すときは必ずカメラの電源スイッチがOFFの状態で行ってください

カメラの電源スイッチがONの状態で、バッテリーの取り出し、ACアダプタの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中に前記の操作は行わないでください。

### ●液晶モニタについて

- 液晶モニタの特性上、一部の画素に常時点灯あるいは、常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。予めご了承ください。また、記録される画像には影響はありません。
- 屋外では日差しの加減で液晶モニタが見えにくい場合があります。
- 液晶モニタ表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニタの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので充分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、充分ご注意ください。
- カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、汚れ、傷を防ぐため液晶モニタに付属のモニタカバーを取り付けてください。

## バッテリーの取り扱いについて

### ●バッテリーに関する使用上のご注意

バッテリーの使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、バッテリーが破裂したりするおそれがあります。次の使用上の注意をお守りください。

- バッテリーを入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから入れてください。
- バッテリーを電源として長時間使用した後は、バッテリーが発熱していることがありますので注意してください。
- 必ず指定されたバッテリーをご使用ください。
- バッテリーを火の中に投入したり、ショートさせたり、分解したりしないでください。
- カメラから取り外したバッテリーや、電池が装着されたCR2ホルダには、必ず端子カバーを付けてください。

### ●撮影の前にバッテリーをあらかじめ充電してください

撮影の際は、バッテリーの充電を行ってください。付属のバッテリーは、ご購入時にはフル充電されておりませんのでご注意ください。

### ●予備バッテリーを用意してください

撮影の際は、充電された予備のバッテリー、もしくは予備のCR2型電池が装着されたCR2ホルダ（P.15）をご用意ください。特に、海外の地域によってはバッテリーの入手が困難な場合がありますので、ご注意ください。

### ●低温時には充分に充電されたバッテリーを使用し、予備のバッテリーを用意してください

低温時に消耗したバッテリーを使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時に撮影する場合は充分に充電されたバッテリーを使用し、保温した予備のバッテリーを用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかったバッテリーでも、常温に戻ると使える場合があります。

### ●バッテリーの残量について

電池残量がなくなったバッテリーをカメラに入れたまま、何度も電源スイッチのON／OFFを繰り返すと、バッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあります。電池残量がなくなったバッテリーは、充電してご使用ください。

### ●Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3のリサイクルについて

充電を繰り返して劣化し使用できなくなったバッテリーは、再利用しますので廃棄しないでリサイクルにご協力ください。端子にテープなどを貼り付けて絶縁させてから、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターやリサイクル協力店へご持参ください。

# 故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

表示パネル、ファインダー内に警告表示が点灯または点滅したり、液晶パネルに警告メッセージが表示された場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

| こんなとき | | 原因 | 対処方法 | |
|---|---|---|---|---|
| 表示パネル | ファインダー内 | | | |
| FE E（点滅） | FE E（点滅） | レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。 | レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。 | P.18 |
| | | バッテリー残量は残りわずかです。 | バッテリー交換の準備をしてください。 | P.24 |
| （点滅） | （点滅） | バッテリーが消耗しています。 | バッテリーを交換してください。 | P.24 |
| F- -（点滅） | F- -（点滅） | 非CPUレンズが装着されているか、レンズが装着されていません。 | CPUレンズ（IXレンズを除く）を使用してください。ただし、撮影モードダイヤルを**M**にセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます。 | P.18、95 |
| | ●（点滅） | オートフォーカスでピント合わせができません。 | マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。 | P.84 |
| H I | H I | 被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。 | • ISO200よりも高感度の場合、撮像感度を低感度に設定してください。<br>• 撮影モードダイヤルをデジタルイメージプログラム、**P**にセットしている場合はND（光量調節用フィルター）を使用してください（**S**、**A**にセットしている場合に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。<br>• **S**にセットしている場合はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。<br>• **A**にセットしている場合はより大きい数値の絞りにしてください。 | P.48<br>P.236<br>P.91<br>P.93 |

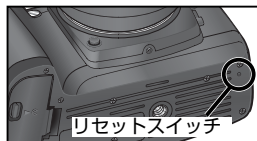
| こんなとき | | 原因 | 対処方法 | 参照 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 表示パネル | ファインダー内 | | | |
| ⚡（点滅） | ⚡ | i-TTL調光に対応していないスピードライトの調光モードをTTLモードにセットしています。 | スピードライトの調光モードをTTLモード以外にセットしてください。 | P.231 |
| bulb（点滅） | bulb（点滅） | **S**にセット時にシャッタースピードがbulbにセットされています。 | bulb以外のシャッタースピードにセットするか、**M**にセットしてください。 | P.91、95 |
| - -（点滅） | - -（点滅） | 2秒リモコンモード、または瞬時リモコンモードで、シャッタースピードがタイム露光にセットされたまま**S**にセットされました。 | シャッタースピードを変えるか、**M**にセットしてください。 | P.91、95 |
| Lo | Lo | 被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。 | • ISO 1600未満であれば、撮像感度を高感度に設定し直してください。<br>• 撮影モードダイヤルをデジタルイメージプログラム、**P**にセットしている場合はスピードライトを使用してください（**S**、**A**にセットしている場合に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。<br>• **S**にセットしている場合はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。<br>• **A**にセットしている場合はより小さい数値の絞りにしてください。 | P.48<br>P.112、229<br>P.91<br>P.93 |
| | ⚡（点滅） | • **P**、**S**、**A**、**M**にセット時に、逆光や露出不足であるにもかかわらず、スピードライトが使用されていません。<br>• 発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。 | • スピードライトを使用してください。<br>• 撮影距離、絞り、調光範囲、撮像感度などを再度確認して、撮影し直してください。 | P.112、229<br>P.122 |

| こんなとき | | 原因 | 対処方法 | |
|---|---|---|---|---|
| 表示パネル | ファインダー内 | | | |
| FuLL 0（点滅） | FuL 0（点滅） | • 画像を記録する空き容量がありません。<br>• カメラが扱えるファイル数をオーバーしています。 | • CFカードに記録されている画像を削除して、CFカードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。<br>• 新しいCFカードに交換してください。 | P.148<br>P.20 |
| Err（点滅） | Err（点滅） | 撮影中に何らかの異常を検出しました。 | 再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにご相談ください。 | P.259 |

| こんなとき | | 原因 | 対処方法 | |
|---|---|---|---|---|
| 液晶モニタ | 表示パネル | | | |
| **カードが入っていません** | [-E-] | CFカードが入っていないか、正しくセットされていません。 | CFカードを正しくセットしてください。 | P.20 |
| **このカードは使用できません** | [CHA]（点滅） | • CFカードへのアクセス異常です。<br>• カードのフォーマットが異なります。 | • D70用のCFカードであるかどうかを確認してください。<br>• CFカードがこわれている可能性があります。本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターまでご連絡願います。<br>• CFカードのフォーマットが異なる可能性があります。再フォーマットしてください。 | P.237<br>P.259<br>P.21 |
| | | • 新規フォルダが作成できません。 | • カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。<br>• 新しいカードに交換してください。 | P.148<br>P.20 |

| こんなとき | | 原因 | 対処方法 | 参照 |
|---|---|---|---|---|
| 液晶モニタ | 表示パネル | | | |
| **カードがフォーマットされていません** | [For] | CFカードが正しくフォーマットされていません。 | • CFカードのフォーマットを行ってください。<br>• 正しくフォーマットされたCFカードに交換してください。 | P.21<br>P.20 |
| **撮影画像がありません** | | • 撮影画像がありません。<br>•「**再生フォルダ設定**」を「**記録中のフォルダ**」に設定して、CFカードを交換した後、撮影を行わずに画像を再生しようとしました。 | • 画像が記録されているCFカードを入れてください。<br>•「**再生フォルダ設定**」を「**全てのフォルダ**」に設定してください。 | P.20<br>P.151 |
| **全て非表示です** | | 記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。 | 再生メニュー画面の「**非表示設定**」で、画像の非表示設定を解除してください。 | P.155 |
| **このファイルは表示できません** | | • アプリケーションソフトで編集された画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。<br>• 画像ファイルに異常があるため再生できません。 | アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。 | — |

### 電子制御カメラの特性について

きわめて希なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、カメラの電源スイッチをOFFにしてバッテリーを入れ直し、再度電源スイッチをONにしてカメラを作動させてください。その際、カメラを長時間使用していますとバッテリーが熱くなっていることがありますので、取り扱いには充分にご注意ください。ACアダプタをご使用時は、いったんカメラから取り外して再度カメラに取り付け、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてください。この操作を行っても状態が改善されない場合は、右の図にあるリセットスイッチを押してください。この時カメラ内蔵の時計はリセットされますので、「日付と時刻を設定する」(P.16)に従って、日時を正しく設定してください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態の時のデータは、失われるおそれがあります。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにお問い合わせください。

# 主な仕様

| 項目 | 仕様 |
| --- | --- |
| 型式 | レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ |
| 画素数 | 有効画素：6.1 メガピクセル |
| 撮像素子 | 23.7 × 15.6 mm サイズ<br>総画素数：6.24 メガピクセル |
| 記録画素数 | 3008 × 2000 ピクセル（L）、2240 × 1488 ピクセル（M）、1504 × 1000 ピクセル（S） |
| レンズマウント | ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付） |
| 交換レンズ | |
| GまたはDタイプレンズ | フル機能使用可（IXニッコールを除く） |
| PCマイクロニッコール 85mm F2.8D | オートフォーカスおよび露出モードの一部を除く機能使用可 |
| GまたはDタイプ以外のAFレンズ | 3D-RGBマルチパターン測光、i-TTL-BL調光を除く機能使用可（F3AF用を除く） |
| AI-Pニッコール | 3D-RGBマルチパターン測光、i-TTL-BL調光およびオートフォーカスを除く機能使用可 |
| 非CPUレンズ | 撮影モードダイヤルを**M**にセット時に可（ただし、露出計は使用不可）、開放F値がf/5.6より明るい場合フォーカスエイド可 |
| 実撮影画角 | レンズ表記の約1.5倍の焦点距離レンズに相当 |
| ファインダー | ミラーペンタ式一眼レフレックスファインダー |
| 視度調節機構 | $-1.6\sim+0.5\,m^{-1}$ |
| アイポイント | 18 mm（$-1.0\,m^{-1}$のとき） |
| ファインダースクリーン | B型クリアマットスクリーンV（フォーカスフレーム付、構図用格子線表示可能） |
| ファインダー視野率 | 上下左右とも約95％（対実画面） |
| ファインダー倍率 | 約0.75倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・$-1.0\,m^{-1}$のとき） |
| ミラー | クイックリターン式 |
| レンズ絞り | 瞬間復元式、電子制御式、プレビューボタン付 |
| フォーカスエリア | 5箇所のフォーカスエリアから1箇所を選択可能 |
| レンズサーボ | オートフォーカス（AF）：シングルAFサーボ（AF-S）、コンティニュアスAFサーボ（AF-C）を選択可能、被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行<br>マニュアルフォーカス（M）可能 |

| | |
|---|---|
| オートフォーカス | TTL位相差検出方式、マルチCAM900オートフォーカスモジュールにより検出、AF補助光付（約0.5～3m） |
| 検出範囲 | EV－1～＋19（ISO100換算、常温（20℃）） |
| AFエリアモード | シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード、至近優先ダイナミックAFモード |
| フォーカスロック | AE/AFロックボタン、またはシングルAFサーボ（AF-S）時にシャッターボタン半押しにて可能 |

| | |
|---|---|
| 露出 | |
| 測光方式 | TTL開放測光方式 |
| マルチパターン測光 | GまたはDタイプレンズ使用時は1005分割RGBセンサーによる3D-RGBマルチパターン測光が可能、GまたはDタイプ以外のレンズ使用時は1005分割RGBセンサーによるRGBマルチパターン測光が可能 |
| 中央部重点測光 | φ8mm相当を測光（中央部重点度約75％）、φ6mm、φ10mm、φ12mmのいずれかに変更可能 |
| スポット測光 | 約φ2.3mm相当を測光（全画面の約1％）、フォーカスエリアに連動して測光位置可動 |
| 測光範囲 | EV0～20（マルチパターン測光、中央部重点測光）<br>EV2～20（スポット測光）<br>（ISO100換算、常温20℃、F1.4レンズ使用時） |
| 露出計連動 | CPU連動方式 |
| 撮影モード（デジタルイメージプログラム／露出モード） | デジタルイメージプログラム7種（AUTO：オート、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景、夜景ポートレート）、<br>**P**：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能）、<br>**S**：シャッター優先オート、**A**：絞り優先オート、**M**：マニュアル |
| 露出補正 | ±5段の範囲で1/3、1/2段ステップで補正可能 |
| オートブラケティング | AE、SBの場合、撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1/3、1/2段ステップで可能　WBの場合、撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1段ステップで可能 |
| AEロック | AE/AFロックボタンによる輝度値ロック方式 |

| | |
|---|---|
| シャッター | CCD電子シャッターと機械式シャッターの併用 |
| シャッタースピード | 30～1/8000秒（1/3、1/2段ステップ）、bulb、タイム |

| | |
|---|---|
| 撮像感度 | ISO 200～1600相当（1/3段ステップ）、 |
| ホワイトバランス | オート（1005分割RGBセンサー、撮像素子併用によるホワイトバランス）、マニュアル6種（それぞれ補正が可能）、プリセット可能、ホワイトバランスブラケティング可能 |
| 内蔵スピードライト | AUTO、[ポートレート]、[クローズアップ]、[夜景ポートレート] モード時：オートポップアップ方式による自動発光<br>**P**、**S**、**A**、**M**モード時：押しボタン操作による手動ポップアップ方式 |
| ガイドナンバー | 約15（マニュアルフル発光時約17）（ISO200・m、20℃）／約11（マニュアルフル発光時約12）（ISO100・m、20℃） |
| 調光 | |
| シンクロ同調 | X接点（半導体方式）、1/500秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトと同調 |
| 調光方式 | 1005分割RGBセンサーによる次のTTL調光制御：<br>- 内蔵スピードライト、撮影モードダイヤルが**M**以外のモード、CPUレンズとの組み合わせによりi-TTL-BL調光可能<br>- SB-800、SB-600とCPUレンズとの組み合わせによりi-TTL-BL調光可能<br>- 測光モードをスポット測光にした場合、または撮影モードダイヤルが**M**にセットされている場合、内蔵スピードライトとの組み合わせによりスタンダードi-TTL調光可能<br>- 測光モードをスポット測光にした場合、SB-800、SB-600との組み合わせによりスタンダードi-TTL調光可能（SB-800、SB-600側でも設定可能）<br>絞り連動自動調光：SB-800とCPUレンズとの組み合わせ時<br>外部調光：SB-800、SB-80DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなどとの組み合わせ時<br>距離優先マニュアル調光：SB-800との組み合わせ時 |

| 調光（つづき） | |
|---|---|
| シンクロモード | AUTO、、モード時：<br>• 内蔵スピードライト使用時に先幕シンクロオート、赤目軽減オートが設定可能<br>• 別売スピードライト使用時に先幕シンクロ、赤目軽減が設定可能<br>モード時：<br>• 内蔵スピードライト使用時にスローシンクロオート、赤目軽減スローシンクロオートが設定可能<br>• 別売スピードライト使用時にスローシンクロ、赤目軽減スローシンクロが設定可能<br>、、モード時：<br>• 別売スピードライト装着時に先幕シンクロまたは赤目軽減が設定可能<br>**P**、**S**、**A**、**M** モード時：<br>• 先幕シンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロの各モードが設定可能 |
| レディライト | SB-800、SB-600、SB-80DX、SB-28DX、SB-50DX、SB-28、SB-27、SB-22Sなど使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅 |
| 調光補正 | －3～＋1段の範囲で1/3、1/2段ステップで補正可能 |
| アクセサリーシュー | ホットシュー装備：シンクロ接点、レディ信号接点、モニタ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、GND付、セーフティロック機構（ロック穴）付 |
| クリエイティブライティングシステム | 内蔵スピードライト、SB-800、SB-600との組み合わせにより発光色温度情報伝達、FVロック に対応<br>SB-800、SB-600との組み合わせによりアドバンストワイヤレスライティングに対応 |

| 記録 | |
|---|---|
| 記録媒体 | コンパクトフラッシュ TM カード（Type I ／ II対応）、マイクロドライブ TM 対応 |
| 記録画像ファイル形式 | Design rule for Camera File system (DCF) Version 2.0準拠、Digital Print Order Format (DPOF) 準拠 |
| 圧縮 | • 12ビット圧縮RAW（約50%～60%圧縮）<br>• JPEG baseline準拠 |

| セルフタイマー | 電子制御式、作動時間2、5、10、20秒に設定可能 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| プレビュー | CPUレンズ装着時に、電子制御式プレビューボタンによる絞り込み可能、**A**、**M**モードでは設定絞り値まで絞り込み可能、デジタルイメージプログラム、**P**、**S**モードでは制御絞り値まで絞り込み可能 |
| 液晶モニタ | 1.8型低温ポリシリコンTFT液晶、約13万画素、明るさ調整可能 |
| ビデオ出力 | NTSC、PALから選択可能 |
| 外部インターフェース | USB2.0 FullSpeed |
| 三脚ネジ穴 | 1/4（ISO 1222規格） |
| ファームウェアバージョンアップ | ユーザーによるファームウェアバージョンアップ可能 |
| 電源 | • Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3：電圧7.4V DC［クイックチャージャーMH-18］または［マルチチャージャーMH-19］（別売）使用<br>• CR2型リチウム電池3本（CR2ホルダMS-D70併用；P.15）<br>• ACアダプタEH-5（別売） |
| 寸法（W×H×D） | 約140×111×78mm |
| 質量 | 約595g（バッテリー、CFカード、ボディキャップ、モニタカバーを除く） |
| 動作環境 | |
| 温度 | 0～40℃ |
| 湿度 | 85%以下（結露しないこと） |

• 仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。
• 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

### カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

• 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
• 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

### 使用説明書の再発行について

使用説明書を紛失した場合は、新しい使用説明書をニコンサービス部またはサービスセンターでお求めください（有料）。

## 連続撮影コマ数（電池寿命）について

参考値：Li-ionリチャージャブルバッテリーEN-EL3（1400mAh）による連続撮影コマ数（電池寿命）の目安※

※ 充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（常温＜20℃＞）によります。
- 記載されている数値は下記の当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。

1) 約2000コマ

装着レンズAF-S DXズームニッコールED 18～70mm F3.5～4.5G (IF)、撮影動作モード（連続撮影）、フォーカスモードAF-C、画質モードBASIC、画像サイズM、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを3秒間持続させた後、無限遠から至近間を3往復し、6回連続レリーズした後、液晶モニタを5秒間点灯。消灯後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

2) 約400コマ

装着レンズAF-S DXズームニッコールED 18～70mm F3.5～4.5G (IF)、撮影動作モード S（1コマ撮影）、フォーカスモードAF-S、画質モードNORMAL、画像サイズL、シャッタースピード1/250秒でシャッターの半押しを5秒間持続させた後、無限遠から至近間を1往復し、1回レリーズ（2回に1回は内蔵スピードライトをフル発光）した後、半押しタイマーがオフになるまで放置して、同じ動作を繰り返して実施。

注1）内蔵スピードライト発光時にはAF補助光を発光させる。
注2）10コマ撮影後、カメラの電源スイッチを1分間OFFにする。

次の場合はバッテリーの消耗が速くなります。

- 液晶モニタを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードをRAW、RAW＋BASICに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合

バッテリーの性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- バッテリーの端子を汚さないでください。端子が汚れていると、充分な性能が発揮できません。
- 充電が完了したバッテリーは、なるべく早いうちにご使用ください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、バッテリー容量が減ってしまいます。

# 索引



## 英数

AEブラケティング　103、176
AEロック　098
AF-C　74、167
AF-S　74、167
AFエリアモード　168
AF補助光　82
BASIC　43
Bulb　95
CFカード（入れ方）　20
CFカード（使用可能なCFカード）　237
CPUレンズ　18、226
DPOF（Digital Print Order Format）　157
Dタイプレンズ　18、226
Exif Version 2.21　viii、157
FAT32　193
FINE　43
FVロック　126
Gタイプレンズ　18、226
ISO　48
i-TTL-BL調光　112
i-TTLモード　112
L（画像サイズ）　45
M（画像サイズ）　45
Mass Storage（USB通信方式）　199、208
Nikon Capture 4　208、236
NORMAL　43
PictBridge　213
PictureProject　208
PC　210
PRE（プリセット）　50、57
PTP　（USB通信方式）　199、208
RAW　43
RGBマルチパターン測光　86
S（画像サイズ）　45
SBブラケティング　103、176
SETUPメニュー　187
USB　199、208
WBブラケティング　103、176
1005分割RGBセンサー　86
1コマ再生　138
1コマ撮影　72
2秒リモコン撮影　130
3D-RGBマルチパターン測光　86

## あ

アイピースキャップ　128、131
赤目軽減スローシンクロモード　118
赤目軽減スローシンクロオートモード　119
赤目軽減モード　118
赤目軽減オートモード　119

索引

アクティブ補助光　230
アドバンストメニュー　163、194
後幕シンクロモード　118
イメージダストオフ　200
イルミネーター　6
色合い調整　69
インターバル設定（スライドショー）　153
色温度　50
色空間　68
オート（デジタルイメージプログラム）　32
オートモード（ホワイトバランス）　50
オートフォーカス　74、78
オートブラケティング　103

## か

階調補正　67
画質モード　43
カスタムセッティング　163
カスタムメニュー　163
画像サイズ　45
画像ファイル　43
画面の明るさ　195
カラー設定　68
感度（撮像感度）　48
距離情報　86、112
記録フォルダ　188
クリーニングミラーアップ　195、239
クリエイティブライティングシステム　229
クローズアップ（デジタルイメージプログラム）　33
蛍光灯モード（ホワイトバランス）　50、56
言語（LANG）　196
コマ送り　138、153
コマンダーモード　182、183
コンティニュアスAFサーボ（AF-C）　167
コントラスト　67
コンパクトフラッシュカード（CFカード）　20、237

## さ

サイズ　45
再生　137
再生フォルダ　151
再生メニュー　148
彩度設定　69
先幕シンクロモード　118
先幕シンクロオートモード　119
削除　146、148
撮影可能コマ数　24、47
撮影画面サイズ　228
撮影動作モード　50
撮影メニュー　160
撮影モード　10
撮像感度　48

サムネイル　142
仕上がり設定　64
至近優先ダイナミック（AFモード）　168
視度調節機能　27
絞り　88
絞り優先オート　93
シャッター優先オート　91
瞬時リモコン撮影　130
シングルAFサーボ（AF-S）　167
シングルエリアAFモード　168
シンクロモード　118
スタンダードi-TTL調光　112
スピードライト（内蔵）　112
スピードライト（別売）　229
スピードライトモード（ホワイトバランス）　50
スポーツ（デジタルイメージプログラム）　34
スポット測光　86
スライドショー　153
スローシンクロモード　118
スローシンクロオートモード　119
晴天モード（ホワイトバランス）　50
晴天日陰モード（ホワイトバランス）　50
セルフタイマー撮影　128
全画像削除　148
選択画像削除　148
測光モード　86

## た

ダイナミック（AFモード）　168
タイム露光　96、133
ダイレクトプリント　213
中央部重点測光　86
調光範囲　122
調光補正　125
長時間露出（バルブ）　96
ツーボタンリセット　135
デジタルイメージプログラム　32
電球モード（ホワイトバランス）　50
同調シャッタースピード　115、117
時計用電池　17
曇天モード（ホワイトバランス）　50

## な

ノイズ除去　161

## は

ハイライト表示　140
発光色温度情報伝達　50、229
パソコンとの接続　208
バルブ　96
パワーオフ時間　185

半押しタイマー　24、185
非CPUレンズ　226
被写界深度　88
ヒストグラム表示　140
日付・時刻　16
ビデオ出力　196
非表示設定　155
風景（デジタルイメージプログラム）　33
フォーカスエイド　85
フォーカスエリア（フレーム）　76
フォーカスモード　74
フォーカスロック（AFロック）　80
フォーマット（カードフォーマット）　21、193
プリセットホワイトバランス　50、57
プリント指定　157
プレビュー　88
プログラムオート（マルチプログラムオート）　88
プログラムシフト　89
プログラム線図　90
プロテクト　145
ポートレート（デジタルイメージプログラム）　32
補助灯　230
ホワイトバランス　50
ホワイトバランスブラケティング　103、176

## ま

マイクロドライブ　237
マニュアル（ピント合わせ）　84
マニュアル（露出）　95
マルチパターン測光　86
マルチプログラムオート　88
モニタカバー　13
モニター発光　112

## や

夜景（デジタルイメージプログラム）　34
夜景ポートレート（デジタルイメージプログラム）　35
予測駆動フォーカス　75

## ら

リモコン撮影　130
輪郭強調　66
レディライト　88、114、117
レンズ（使用可能なレンズ）　226
レンズの装着　18
連続撮影　72
連番モード　192
露出インジケーター　95
露出補正　101
露出モード　10、88

# アフターサービスについて

## ■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

この製品の操作方法や修理について、ご質問がございましたらニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

- ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

### ●お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAX または郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

## ■修理を依頼される場合は

この製品の修理を依頼される場合は、ご購入店、またはニコンサービスセンターにご依頼ください。

- ニコンサービスセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。
- ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は最寄りの販売店、またはニコンサービスセンターにご相談ください。
- カメラを修理に出される場合は、CF カードをカメラから取り出してください。

## ■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品（その製品の機能を維持するために必要な部品）の保有年数は、製造打ち切り後 7 年を目安としています。

- 修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後も、修理可能な場合もありますので、ご購入店、またはニコンサービスセンターへお問い合わせください。水没、火災、落下等による故障または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、ニコンサービスセンターにお任せください。

## ■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社 Web サイトでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/support/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行

TEL:0570－02－8000　FAX:03－5977－7499

## 【お問い合わせ承り書】 太枠内のみご記入ください

| お問い合わせ年月日： | 年　月　日 |
|---|---|
| お買い上げ日： | 年　月　日 |
| 製品名： | シリアル番号： |
| フリガナ<br>お名前： | |
| 連絡先ご住所：□自宅　□会社<br>〒<br><br>TEL:<br>FAX: | |
| ご使用のパソコンの機種名：<br>メモリ容量：<br>OSのバージョン：<br>その他接続している周辺機器名：<br>ご使用のアプリケーションソフト名：<br>ご使用の当社ソフトウェアのバージョン名： | <br>ハードディスクの空き容量：<br>ご使用のインターフェースカード名： |
| 問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の発生頻度：<br>（おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください） | |

※このページはコピーしてお使いください。

整理番号：

## 技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

### ニコンカスタマーサポートセンター

**0570-02-8000**
市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号 **0570-02-8000** にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間 9:30〜18:00 ＜年末年始、夏期休業等を除く毎日＞

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033** におかけください。
**FAX**でのご相談は、**03-5977-7499** におかけください。

株式会社 ニコン
ニコンカメラ販売株式会社

SB4K05(10)
*6MBA1110-05*